

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に問題となる被害		重要地域	逸出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食	捕食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入												
36	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③		イヌ科	ノイヌ (イヌの野生化したもの)	Canis familiaris	I			-	-	◎	-	○	○	◎	◎	-	◎	-	世界に広く外来分布。	全国。	市街地、河川敷、草地、森林、	ペットとして大量に飼育、販売されている。動物園以外の展示施設で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	原種のオオカミは北半球に広く分布。奄美大島ではアマミノクロウサギ、アマミノケナズミ、ケナガネズミが、沖縄島やんばる地域ではヤンバルクイナ、ケナガネズミが捕食されていることが確認されている。 当該種は、人との関わり方や生息環境が多様であることから、地域の自然環境の状況を踏まえ、関係者の理解を得つつ、総合的に対策を行っていく必要がある。例えば、希少種などが生息する地域における捕獲、ペットの逸出防止に関する普及啓発などが必要である。	③GISD、④各県リスト：北海道、群馬、千葉、東京都、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、徳島、高知、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	狂犬病予防法に基づいて所有者不明の犬の捕獲が実施されている。	-	狂犬病予防法の輸入禁止動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣(ノイヌのみ)	狂犬病、レプトスピラ症、バズツラ症、カブノサイトファーガ・カニモルサス感染症、コロナバクテリウム・ウイルス感染症、ブルセラ症、リステリア症、サルモネラ症、カンピロバクター症、エルシニア・エンテロコリチカ感染症、仮性結核、皮膚糸状菌症、トキソプラズマ症、回生幼虫移行症、Q熱、エネコックス症、SFTS	
37	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	イタチ科	ミンク(アメリカミンク)	Neovison vison (Mustela vison)	I、II、III			○	-	◎	-	○	○	◎	-	◎	○	-	北米原産。ヨーロッパ、ロシア、中国に外来分布。	北海道、宮城、福島、群馬、長野。	河川、湖沼周辺の森林、河川敷、	かつて、毛皮を目的として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	世界自然遺産地域の知床等に定着している。サンショウウオ類や魚類、鳥類、小型哺乳類の捕食が懸念される。特に魚類の淡水魚(希少種や養殖魚類)、及び鳥類の水鳥や河川敷で繁殖する種へ影響が大きい。また在来種のイタチ類に競合による影響を及ぼす可能性がある。	①特定外来、③GISD、④各県リスト：北海道、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京都、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、徳島、高知、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道におけるアメリカミンク防除実施計画書 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/1/2/4/8/3/4/2/2/%E5%B0%B7%E6%B7%981%93%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%B6%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%82%AF%E9%98%B2%E9%99%A4%E5%AE%B3%E3%82%AF%E9%98%A8%88%E7%94%BB%E6%9B%B8,%E6%9C%AC%E6%9B%72.pdf 【URL取得日:2026年1月8日】	-	感染症法の輸入届出対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣	新型コロナウイルス感染症、ミンクアリュースチン病、狂犬病、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	
38	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	アライグマ科	アライグマ	Procyon lotor	I、II、III			○	-	◎	-	-	○	◎	◎	◎	○	-	北中米原産。ヨーロッパや西インド諸島等に外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	市街地、農地、草地、河川敷、森林、	ペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が動物園等で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	本州ではアベサンショウウオをはじめとしたサンショウウオ類や、ヤマメ、カガメなどのカエル類、ニホンイシガメ等の捕食が見られている。北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウウオ、サッポロワイマイの捕食、サギ類のニコロニーの消失等の生態系影響を生じている。	①特定外来、②W100:日本、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京都、長野、岐阜、静岡県、愛知、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	山口ほか(2024)市町村ができる特定外来生物アライグマの捕獲強化対策―北海道新十津川町の事例 https://www.jstage.jst.go.jp/article/hozen/29/1/29_2310_.pdf/-char/ja 【URL取得日:2026年1月7日】 農林水産省:野生鳥獣被害防止マニュアル―アライグマ、スズリ、キョン、マングース、タイワンリス(特定外来生物編) https://www.maff.go.jp/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/6_old_manual.html#08 【URL取得日:2026年1月7日】 東京都外来種対策行動の手引き https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/invasive-species-book-all-2.pdf 【URL取得日:2026年7月15日】 横山・西牧(2020)住民主体によるアライグマ捕獲隊の活動事例～大山捕獲隊の活動記録～ https://www.wmi-hyogo.jp/upload/database/DA00000595.pdf 【URL取得日:2026年7月15日】	環境省:アライグマ防除の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/araiguma_tebiki_kansei.pdf 【URL取得日:2026年1月7日】 環境省九州地方環境事務所ほか2025九州中南部エリア・アライグマ広域防除戦略 https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/racoon_kyushu.pdf 【URL取得日:2026年7月15日】 北海道:北海道アライグマ捕獲プログラム https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/araiguma_top.html 【URL取得日:2026年1月7日】	狂犬病予防法の検定対象動物 鳥獣保護管理法の狩猟鳥獣	狂犬病、ジステンパー、アライグマ糞粒虫症、アライグマ回虫症、インフルエンザ、日本脳炎、レプトスピラ、日本紅斑熱、サルモネラ、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、東洋眼虫症	
39	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①④		イノシシ科	ブタ(イノブタを含む)	Sus domesticus	I			-	-	◎	-	○	○	-	◎	-	◎	-	北米、オーストラリア等、世界に広く外来分布。	北海道足寄町、沖縄県西表島で家畜が野生化した個体が分布。	草地、農地、森林等。	家畜として多数飼育されている。動物園以外の展示施設で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	原種のイノシシはユーラシア原産。小笠原諸島の島ではアオウミガメの卵の採食や、昆虫類の減少を引き起こしていた。小笠原諸島第島では根絶に成功した。	②W100:IUCN・日本、③GISD、④各県リスト：北海道、栃木、群馬、静岡、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	第島におけるノブタの根絶の達成 https://ogasawara-info.jp/pdf/science/h21_04.shiryou5.1.pdf 【URL取得日:2026年1月8日】	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物(イノシシ、イノブタのみ)	日本脳炎、SFTS、狂犬病、E型肝炎、豚インフルエンザ、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、寄生虫病である回虫症、蚊毛虫症、猪オシコセムカ症、肺吸虫症、有鉤条虫症、クリプトスポリジウム症、麻熱(CSF)、アフリカ麻熱(AFS)、豚丹毒	
40	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②④	特定外来生物	シカ科	キョン	Muntiacus reevesi	I、II、III			○	-	○	-	○	○	○	-	◎	○	-	中国、台湾原産。イギリスに外来分布。	千葉、伊豆大島。	市街地、公園、農地、草地、森林等。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、複数の動物園で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	房総半島と伊豆大島の観光施設から逸出して定着した。それぞれ千葉県、東京都が防除を実施している。2017年に個体が確認された茨城県では、生息情報の収集を行っている。	①特定外来、④各県リスト：茨城、栃木、群馬、千葉、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	千葉県:第3次千葉県キョン防除実施計画(案) https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/shingikai/kyon/documents/shiryou1.pdf 【URL取得日:2026年7月15日】 東京都:東京都キョン防除実施計画 https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/2024-08-01-191402-409 【URL取得日:2026年7月15日】	野生鳥獣被害防止マニュアル―アライグマ、スズリ、キョン、マングース、タイワンリス(特定外来生物編)―平成22年3月版 https://www.maff.go.jp/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/6_old_manual.html#08 【URL取得日:2026年1月7日】	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	肝臓、牛結核、口蹄疫(FMD)、慢性消耗病(CWD)	
41	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③④		ウシ科	ヤギ	Capra hircus	I、II			-	-	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	-	西アジア原産。世界に広く外来分布。	小笠原諸島父島、八丈島、八丈小島及び、奄美大島、西表島等南西諸島の各地で家畜が野生化した個体が分布。	農地、草地、森林等。	家畜として多数が飼養されている。動物園以外の展示施設で飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放出しないこと。	小笠原諸島賀島、兄島等では根絶に成功した。小笠原諸島の島では食害による植生破壊と土壌の流出が発生した。	②W100:IUCN・日本、③GISD、④各県リスト：群馬、東京、山口、佐賀、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	東京都:東京都の取組～外来種対策～ノヤギ排除 https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/07ogasawara/nature/heritage/grapple_chichijima 【URL取得日:2026年1月7日】 沖縄県外来種対策行動計画に基づくノヤギ防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/004/820/noyagiplan.pdf 【URL取得日:2026年2月19日】	-	家畜伝染病予防法による検疫対象動物	ブルセラ症、炭疽、トキソプラズマ症、小反芻散疫、ブルータンゴ、跛蹄病	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(哺乳類)>
【国内由来の外来種】

[illegible]

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(鳥類)>
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目立っている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	---

※ 掲載の順等は、分類の並びとし、原則日本鳥学会(2024)日本鳥類目録改訂第8版、日本鳥学会、東京、471pp.及び財団法人山崎鳥類研究所(1978)ド/ハ害防除に関する基礎的研究に従った。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則漢字学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 創製等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出機関等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害		分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																			
									生物	導入	競合	交雑	捕食・摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入															
侵入・定着防止外来種(未定着)																																				
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																				
1	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	カモ科	カナダガン	<i>Branta canadensis</i>	I	○	-	○	◎	○	-	◎	○	-	-	○	○	-	北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに外来分布。	-	湖沼、河川等。	現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。展示目的で許可を受けた個体が動物園等で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2015年12月4日茨城県に野外分布していた2個体の捕獲が実施された結果、国内に生息していた野外個体はすべて捕獲されて根絶が完了した。国内に生息していた個体は亜種オオカナダガン <i>Branta canadensis mollitti</i> とされる。かつてカナダガンが増加した国内地域において、草地の過食、水草への食害、水際の土壌流出等が問題となった。日本に冬鳥として飛来する種シジュウカラガン <i>B. hutchinsii</i> との交雑リスクが強く懸念される。シジュウカラガンは、2004年に分類が見直されるまでは、カナダガンの1亜種と分類されていた近縁な種である。	①特定外来、③GISD、④各県リスト・福島、茨城、千葉、神奈川県、長崎、沖縄	加藤(2010)、葉山・加藤ほか(2020)	特定外来生物カナダガンの国内根絶について(環境省報道発表:20151208) https://www.env.go.jp/press/101789.html【URL取得日:2026年1月7日】	特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録 http://kume.life.coocan.jp/goose/42hayama.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-			
2	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ヒヨドリ科	シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>	I	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	インド、パキスタン、ネパール、中国南部、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、タイ北部原産。東アフリカ、太平洋諸島等に外来分布。	-	都市、農耕地、森林等。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	神奈川県での確認事例がある。フィジーでは、生息地(穀)が競合する在来鳥種を追い出してしまふ他、農耕地や森林に対する深刻な被害をもたらされ、トマトやナス、キャベツ類、ササゲ等の豆類に大きな被害を与えたことが確認されている。	①特定外来、②W100、③JCN、③GISD、④各県リスト・茨城、長崎、沖縄	Lever, C. (1987), del Hoyo, J., Elliott, A. & Christie, D. A. (Eds.), (2005), 自然環境研究センター(編著)(2019)、川上ほか(2012)	-	-	-	-			
3	未定着	定着防止外来種			メジロ科	外国産メジロ	<i>Zosterops</i> spp.	I	○	○	○	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	アフリカ〜インド、中国、東南アジア、オーストラリア原産。	-	都市、農耕地、森林等。	ペット、鳴き合わせ等の愛がん目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本産メジロの別亜種のヒメメジロ <i>Zosterops japonicus simplex</i> 、チョウセンメジロ <i>Z. erythroleucus</i> 、ハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> 等中国や東南アジア産の種の輸入は減少した(中国:禁輸政策、東南アジア:鳥インフルエンザの流行)ものの、アフリカ産の近縁種(キクメジロ(アフリカヤメジロ)、キヨメジロの名前で流通。キクメジロの方がやや高価)が輸入されるようになった。メジロ <i>Z. japonicus</i> とハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> の飼育下での交雑事例が報告されている他、亜種間交雑の事例も複数確認されている。知見の集積が必要。	④各県リスト・茨城、滋賀、京都、長崎	McCarthy, E. M. (2006)	-	-	-	-			
総合対策外来種(定着)																																				
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きいもの)																																				
4	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		キジ科	コウライキジ	<i>Phasianus colchicus karpow</i>	I, II, III					-	◎	-	-	◎	◎	○	-	◎	○	-	中国北東部、朝鮮半島原産。北米に外来分布。	北海道、千葉、神奈川県、愛知、三重、奈良、愛媛、福岡、宮崎、長崎(対馬、奄岐)、宮崎、鹿児島(大隅諸島、与那国)、沖縄(沖縄島、伊是名島、宮古島、米間島、石垣島)	草原、農耕地。	かつては狩猟や害虫駆除目的で放鳥された。	新たな放鳥はしないこと。	北海道では本種の生息数が減少している。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。沖縄県ではやんばる地域への分布拡大が懸念されている他、伊是名島及び石垣島、宮古島では農業被害が問題となっている。種タリクキジの中国北東部、朝鮮半島に生息する亜種。なお、在来種のキジは種タリクキジの1亜種とされていたが、最新の分類において別種(キジ: <i>Phasianus versicolor</i>)として整理された。在来種と容易に交雑し、その交雑個体も繁殖能を持つことが知られている。	②W100、日本、④各県リスト・北海道、茨城、千葉、静岡、山口、香川、高知、長崎、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、川上ほか(2012)	沖縄県:沖縄県外来種対策行動計画に基づくコウライキジ防除計画 https://www.pref.okinawa.lg.jp/res/project/s/default_project/_page_/001/004/820/05-04kouraikiji.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-
5	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	②④		キジ科	インドクジャク	<i>Pavo oristatus</i>	I, II, III					-	-	◎	-	◎	◎	◎	-	◎	○	-	インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産。	福島、埼玉、三重、滋賀、香川(小豆島)、愛媛、鹿児島(硫黄島)、沖縄(宮古島、伊是名島、宮古島、米間島、石垣島、新城島、西表島、与那国島)。	森林、草原、農耕地。	各地の動物園等で観賞用に飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	先島諸島では根絶が行われている。新城島(上地島)では、絶滅危惧種のキンノウエトカゲの他、アサギマダラやオオゴマダラといったチョウ類等の減少が確認されており、本種の捕食による在来生物群集への影響が懸念されている。石垣島では、平成20年度にバインアップルやハバパイ、ヤトウキビに対して約50万円の農作物被害が報告されている。	③GISD、④各県リスト・茨城、栃木、千葉、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、川上ほか(2012)、田中・岩原(2003)、石垣市(2015)	沖縄県:沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/res/projects/default_project/_page_/001/004/820/05-05indokujaku.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-
6	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ科(チメドリ科)	ソウシチョウ	<i>Loiothrix lutea</i>	I				◎	-	-	-	◎	○	○	-	-	○	-	山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川県、福井、山梨、長野、岐阜、静岡県、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、和歌山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島。	森林(主に竹林、笹藪)。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	分布拡大中。高密度で営巣すること、同所的に営巣するウグイスに対しても捕食者による偶発的な捕食の増加を引き起こし、ウグイスの繁殖成功率の低下を引き起こしている。	①特定外来、②W100、日本、③GISD、④各県リスト・福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川県、山形、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、大分、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	江口・天野(2008)	-	京都府:京都府外来生物対策マニュアル https://www.pref.kyoto.jp/gairai/manual/documents/manual.pdf【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	-	
7	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ科(チメドリ科)	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	I				◎	-	-	-	◎	◎	-	-	-	○	-	宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉県、東京、神奈川県、山梨、静岡県、長野、愛知、大分、兵庫、鳥取、島根、山口、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎。	丘陵地、平野の森林。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、許可を受けた個体が愛がん目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	分布拡大中。ハワイでは、在来鳥類の生息密度に影響を与えている。	①特定外来、②W100、日本、④各県リスト・福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川県、山形、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、山口、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																
									生物	導入	競合	交雑	捕食・摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入														
8	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ科 (チメドリ科)	ヒゲガビチョウ	<i>Ianthocincla cineracea</i> (<i>Garrulax cineraceus</i>)	IV				-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	インド北東部、ミャンマー西部、ミャンマー北東部～中国東部と中南部にかけた地域原産。	香川、愛媛、高知。	森林。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Ianthocincla</i> に変更された。属名変更に伴い種小名も <i>cineraceus</i> より <i>cineracea</i> に修正された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。国内に生息する個体は名義タイプ亜種 <i>Ianthocincla cineracea cineracea</i> とされる。	①特定外来、④各県リスト：茨城、徳島、香川、高知、長崎	濱田ほか(2006)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ科 (チメドリ科)	カオジロガビチョウ	<i>Pterorhinus sannio</i> (<i>Garrulax sannio</i>)	I			◎	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	インド北東部、中国南部、東南アジア原産。	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、公園等。	森林、住宅地、公園等。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。	①特定外来、④各県リスト：茨城、群馬、千葉、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
10	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①	特定外来生物	ソウシチョウ科 (チメドリ科)	カオグロガビチョウ	<i>Pterorhinus perspicillatus</i> (<i>Garrulax perspicillatus</i>)	I			◎	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	中国中南部、ベトナム原産。	岩手、群馬、埼玉、東京、神奈川。	森林、農耕地。	かつてはペットとして飼養されていた可能性がある。現在は、特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	-	ガビチョウの近縁種であり、個体数が増加すれば、餌や営巣場所等を巡る競争により生態の類似する在来種に影響を与えるおそれがある。最新の分類において、属名が <i>Garrulax</i> より <i>Pterorhinus</i> に変更された。なお、外来法上は旧学名が表記されている。	①特定外来、④各県リスト：茨城、栃木、群馬、千葉、東京、神奈川、長野、長崎、沖縄	中村・室伏ほか(1993)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
防除検討外来種 (被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
11	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			カモ科	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	I				○	-	○	-	○	○	○	-	○	○	-	ユーラシア原産。北米、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ等に外来分布。	北海道(ウトナイ湖)、青森、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、山梨、静岡県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、島根、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島。	北海道(ウトナイ湖)、青森、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、山梨、静岡県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、島根、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島。	湿地、干潟、水田。	愛がん目的で屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。むやみな餌やり等を行わないようにする必要がある。	千葉県手賀沼周辺の水田にて農業被害が発生している。2020年度は我孫子市の560アール、柏市の486アール等6市で計1078アールで、被害総額は1245万円により、面積、被害額とも前年度の1.5倍となっている(東京新聞:2022年6月13日)。なわばり意識が強く、特に繁殖期には巣やヒナに近づくものを攻撃する。外敵に対しては嘴だけでなく、羽のようにはでついて叩いて攻撃するが、体が大きく力が強いので攻撃を受ければ危険である。国内では本種に攻撃されたことが原因でヒトが骨折した事故の例があり、海外では攻撃を受けて幼児や大人が死亡した例も報告されている。	③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、神奈川、静岡、愛知、滋賀、京都、和歌山、鳥取、島根、山口、徳島、香川、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	Lever, C. (1987)、自然環境研究センター(編著)(2019)、愛知県環境部自然環境課(2012)	-	-	-	-
12	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カモ科	バリケン	<i>Cairina moschata</i> var. <i>domesticus</i>	IV				○	○	-	-	○	○	-	-	-	○	-	ヨーロッパ、中国を経て日本に持ち込まれた。	山口、沖縄。	ため池、池沼、河川、水田、湿地、水路、クレーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ノリケン <i>Cairina moschata</i> を家畜化したもの。原種であるノリケン <i>C. moschata</i> は、メキシコからペルー東部、ブラジル、ウルグアイ原産。生態系被害については不明である。大型のカモの仲間、水生植物の根を食や在来カモ類と餌が競合する可能性が懸念される。沖縄県の首里城にある龍潭池に野生化した個体が定着し繁殖している他、各地で野生化した個体が確認されている。	③GISD、⑤検討委員	川上ほか(2012)	-	-	-	-	
13	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カモ科	アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>	IV				○	○	-	-	○	○	-	◎	-	○	-	少なくとも鎌倉時代に中国から輸入。	兵庫、山口、福岡、沖縄。	ため池、池沼、河川、水田、湿地、水路、クレーク。	愛がん目的や食材目的として屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	アヒルはマガモ <i>Anas platyrhynchos</i> を家畜化したもの。原種であるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は、北極圏から中国中部までのユーラシア大陸、極北の一部を除く北アメリカの大部分で繁殖。北アメリカ、中国南部までのユーラシア大陸、アメリカ南部及びアメリカ大陸中部で越冬。福岡県の外来種リストでは、マガモ <i>A. platyrhynchos</i> やカルガモ <i>A. anser</i> などとの交雑の懸念の他、水生植物の摂食や在来カモ類と餌が競合する可能性があるとして要対策外来種に選定している。兵庫県の外来種リストではマガモ <i>A. platyrhynchos</i> との交雑の可能性があると、注意種に選定している。原種となるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は鳥インフルエンザウイルスに罹患しても症状を出さない不顕性感染となることが多い。また、ウイルスの排出量も多くウイルスを拡散する可能性が高いと考えられている。そのためマガモ由来となる本種についても注意が必要である。	④各県リスト：茨城、千葉、滋賀、京都、兵庫、山口、福岡、⑤検討委員	Lever, C. (1987)、川上ほか(2012)	-	-	-	高病原性鳥インフルエンザウイルスの媒介者となる可能性がある。海外では高病原性鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例が報告されており、死亡例も報告されている。	
14	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カモ科	アイガモ	<i>Anas platyrhynchos</i> × <i>A. p.</i> var. <i>domesticus</i>	IV				○	○	-	-	○	○	-	◎	-	○	-	親種となるアヒルは少なくとも鎌倉時代に中国から輸入。	兵庫、福岡。	ため池、池沼、河川、水田、湿地、水路、クレーク。	アイガモ農法(水田内にアイガモを放って雑草や農業害虫を食べてもらう有機農業の方法)に利用される。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	アイガモはアヒル <i>A. platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i> とマガモ <i>A. platyrhynchos</i> を掛け合わせて作出されたもの。原種であるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は、北極圏から中国中部までのユーラシア大陸、極北の一部を除く北アメリカの大部分で繁殖。北アメリカ、中国南部までのユーラシア大陸、アメリカ南部及びアメリカ大陸中部で越冬。福岡県の外来種リストでは、マガモ <i>A. platyrhynchos</i> やカルガモ <i>A. anser</i> などとの交雑の懸念の他、水生植物の摂食や在来カモ類と餌が競合する可能性があるととして要対策外来種に選定している。兵庫県の外来種リストではマガモとの交雑の可能性があると、注意種に選定している。原種となるマガモ <i>A. platyrhynchos</i> は鳥インフルエンザウイルスに罹患しても症状を出さない不顕性感染となることが多い。また、ウイルスの排出量も多くウイルスを拡散する可能性が高いと考えられている。そのためマガモ由来となる本種についても注意が必要である。	④各県リスト：北海道、滋賀、兵庫、福岡	Lever, C. (1987)、川上ほか(2012)	-	-	-	高病原性鳥インフルエンザウイルスの媒介者となる可能性がある。海外では高病原性鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例が報告されており、死亡例も報告されている。	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に問題となる被害			逸出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入													
15	定着初期／限定分布	防除検討外来種			キジ科	コリンウズラ	<i>Colinus virginianus</i>	I			-	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-	アメリカ中東部、メキシコ等原産。	茨城、栃木、群馬、千葉、神奈川県、岐阜、静岡県、京都、大阪、香川、愛媛、高知。	森林、草原、河川敷。	かつては、狐犬の訓練用として放鳥されていた。現状は不明である。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	知見の集積が必要。生息数が増加し分布が拡大すれば、在来種の <i>Colinus japonica</i> と競合し駆逐するおそれがある。	④各県リスト：北海道、茨城、群馬、千葉、神奈川県、長野、静岡県、京都、山口、香川、高知、長崎、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	-	-	-	-	
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ハト科	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	III			-	-	-	-	◎	◎	-	◎	○	-	-	アフリカ北部、中近東、中央アジア、南アジア、中国西部原産。	ほぼ全国。	農耕地、市街地、寺社、墓地、林縁、河川。	カワラバトより品種改良されたレース鳩(伝書バト)が販売飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	人獣共通感染症であるオウム病を引き起こすオウム病クラミジア (<i>Chlamydia psittaci</i>) の保有率が20%程度と高く、ヒトへの感染源となりうる。感染様式としては、病鳥の排泄物からの <i>C. psittaci</i> の吸入が主体である。潜伏期間は1～2週間、急激な高熱と咳嗽で発症する。軽症の気道感染から、肺炎や髄膜炎までの多様な病態が確認されている。糞による害として、鶏やとり場として利用される建造物及びその下には糞が相当堆積し、衛生上・美観上から大きな問題となる他、建造物の材質によっては、糞により腐食が促進されることもある。住宅等に営巣した場合、朝早くから始まる成鳥及びヒナの鳴き声が、睡眠不足やノイローゼの原因になる他、ドバトの体臭や、糞、死体、野化しなかった卵の腐敗によって生じる悪臭、そこから発生するハエの幼虫・成虫も、害として問題になり、さらにネズミ類を誘因する要因となる。	②W100：日本、③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京都、岐阜、愛知、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、宮崎、鹿児島	岸本（2001）、財団法人山階鳥類研究所（1979）	-	-	-	オウム病の媒介者になる可能性がある。オウム病による致死率は低いものの、重症化や死亡例も報告されている。	
17	定着初期／限定分布	防除検討外来種			セイタカシギ科	クロエリセイタカシギ	<i>Himantopus mexicanus</i>	I			-	◎	-	-	○	○	-	-	-	-	-	アメリカ南西部、中米～ペルー南西部、ブラジル北西部、西インド諸島等原産。	京都、大阪、奈良。	湿地、干潟、水田。	糞が糞目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	飼育下、野生下の両方で交雑が起こることが確認されている。オランダにおいて、セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i> ♂とクロエリセイタカシギ <i>H. mexicanus</i> ♀（おそらく逸出個体）による交雑個体が確認されている。また、1983年にコペンハーゲン動物園が交雑個体を飼育していた記録がある。在来種セイタカシギ <i>H. himantopus</i> の亜種とされていたが、最新の分類において別種として整理された。それに伴い種小名は <i>himantopus</i> より亜種名であった <i>mexicanus</i> に変更された。国内に生息する個体は名義タイプ亜種 <i>H. mexicanus mexicanus</i> とされる。	④各県リスト：茨城、滋賀、京都、長崎、沖縄	McCarthy, E. M. (2006)	-	-	-	-	
18	定着初期／限定分布	防除検討外来種			インコ科	ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>	I、IV			○	-	○	-	○	○	-	◎	○	○	-	インド中南部、スリランカ原産。ヨーロッパ(イギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ等)、アラブ諸国、北米、ハワイ等に外来分布。	栃木、群馬、埼玉、千葉、東京都、神奈川県、新潟、長野、岐阜、静岡、愛知県、京都、大阪、兵庫、広島、愛媛、佐賀、宮崎。	都市、森林等。	糞が糞目的で、ツキノフインコの名称で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	原産地のインドでは、農作物の害鳥として知られており、トウモロコシの穂やソルガムきび、ゴマ、小麦、大豆、サトウ、落花生、マンゴー、グアバ、イチジク、ブドウ、モモ、ヒマワリ、ひよこ豆、ザクロ、貯蔵穀物等様々な作物への被害が記録されている。近年は、東京(大田区、新宿区、南西部)や神奈川の一部でのみ確認されている。	③GISD、④各県リスト：茨城、群馬、東京都、長崎、宮崎、沖縄	Lever, C.(1987)、日高(1997)、川上ほか(2012)	-	-	-	オウム病の媒介者になる可能性がある。オウム病による致死率は低いものの、重症化や死亡例も報告されている。	
19	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カラス科	サンジャク	<i>Urooissa erythroryncha</i>	IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	インド北東部、ミャンマー、ラオス、中国南部、ベトナム、タイ原産。	愛媛、高知。	湿潤な低地林や山地林、標高が高い地域の森林等。	かつては、観光施設等で観賞用に飼養されていた。現在は、動物園において、野生で捕獲された個体の飼養展示が行われている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	1999年頃、愛媛県南予地方の観光施設より逸出した複数個体が由来と考えられている。本種は肉食の傾向の強い雑食性で、甲虫類等の大型節足動物の他、カエル類や小型トカゲ、鳥類の卵や雛、小型哺乳類、死肉や残飯等も食べることが知られており、知見の集積が必要と考えられる。	④各県リスト：茨城、愛媛、高知、⑤検討委員会、環境省、地方公共団体	del Hoyo, J et al. (Eds.). (2009)、佐藤ほか(2018)	-	-	-	詳細は不明であるが、NPOにより高知県内で鳴き声やおとりを使った捕獲が実施された。	
20	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヒヨドリ科	シロガシラ	<i>Pyronotus sinensis ssp.</i>	III			○	-	-	-	◎	◎	-	-	◎	○	-	中国南部、海南島、ベトナム北部、台湾。	沖縄(沖縄島、波嘉敷島、粟国島、久米島)。	林縁、農耕地、草原。	糞が糞目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	亜種タイワンシロガシラ <i>Pyronotus sinensis formosae</i> と考えられているが、日本鳥類目録改訂第8版では亜種不明 <i>P. sinensis ssp.</i> と記載されている。定着の由来(自然分布、人為分布)が確定していない。1976年に沖縄本島南部の糸満市で初確認されたのち北部へ分布を拡大させた。八重山諸島に生息する在来個体群は、名義タイプ亜種 <i>P. sinensis sinensis</i> とされている。各種農作物(インゲン、トマト等果菜類、キャベツ、レタス等葉菜類、パパイア、ピワ、パンプキウ、キンカン等果樹類、ピラカンサ等花木類)を食害する(国立環境研究所ウェブサイト)。	②W100：日本、④各県リスト：茨城、山口、長崎、沖縄	金城(1993)	-	-	-	-	
21	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ムクドリ科	ハッカチョウ	<i>Acoridotheres cristatellus</i>	IV			○	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	中国中南部、台湾、ミャンマー、ベトナム、ラオス原産。アルゼンチン、ポルトガル、マレーシア、フィリピン、インドネシアに外来分布。	山形、福島、栃木、埼玉、千葉、東京都、神奈川県、新潟、静岡、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、長崎、鹿児島。	林のある住宅地、ヨシ原、河川敷、草原、農地。	糞が糞目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生態系被害については不明であるが、確実に定着しており、特に西日本で分布域を拡大している。東日本では、1970年代～1980年代には東京都や埼玉県でも繁殖していたが、その後、分布域は縮小し、現在は神奈川県でのみ定着が確認されている。西日本では分布は拡大傾向で、1980年代に兵庫県、1990年代に香川県、2000年代に大阪府、2010年代に岡山県、京都府、2020年代には奈良県に定着した。静岡県と愛媛県でも繁殖が確認されており、すでに定着している可能性がある。国内に生息する個体は名義タイプ亜種 <i>Acoridotheres cristatellus cristatellus</i> とされる。	③GISD、④各県リスト：千葉、福島、京都、兵庫、山口、香川、香川、⑤検討委員会	谷岡(2020)	-	-	-	-	
22	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ムクドリ科	インドハッカ	<i>Acoridotheres tristis</i>	II、IV			○	-	-	-	◎	◎	○	-	○	-	-	インド、中国南部、タイ、インドネシア、マレーシア原産。南アフリカ、中東、アメリカ、オーストラリア、太平洋諸島等に外来分布。	埼玉、千葉、神奈川県、熊本、沖縄。	農耕地、住宅地。	糞が糞目的で飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	海外では在来鳥類の卵の破壊、在来鳥類と営巣場所を巡る競合、農業被害の報告がある。八重山諸島に生息している個体は、台湾に導入され逸出し、定着した個体が飛来していると考えられている。石垣島では2005年頃から見られるようになり、2009年に島内での繁殖が確認されたとされる。国内に生息する個体は名義タイプ亜種 <i>Acoridotheres tristis tristis</i> とされる。	②W100：IUCN、③GISD、④各県リスト：山口、⑤環境省	Sol, D et al. (1998)、Peacock, D. S et al. (2007)、Grarock, K et al. (2012)、	-	-	-	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(鳥類)>
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)	選定理由
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	I. 生態系被害が大きいもの。 II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順等は、分類の並びとし、原則日本鳥学会(2024)日本鳥類目録改訂第8版、日本鳥学会、東京、471pp.及び財団法人山階鳥類研究所(1978)ド/ハ害防除に関する基礎的研究に従った。

※ 飼養等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2028.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大			特に問題となる被害		進出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食・摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入															
総合対策外来種(定着)																																				
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																				
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	④		キジ科	南西諸島のキジ	<i>Phasianus versicolor</i>	Ⅲ、Ⅳ				○	○	-	-	◎	◎	○	-	◎	○	-		本州、四国、九州。	中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島、渡嘉敷島、宮古島、米間島、北大東島。	草原、農耕地。	かつて、農業害虫駆除や狩猟目的で放鳥されていた。	新たな放鳥はしないこと。	北大東島には1975年10月に害虫駆除目的で60羽が導入されて定着。しかし、現在は農作物を食い荒らす害鳥となっている。 鹿児島県では、狩猟目的として、1971年と1972年にトカラ列島(中之島、臥蛇島、諏訪之瀬島)に放鳥されたほか、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島にも放鳥された。 沖永良部島の知名町では有害捕獲が行われている。令和5年度の「知名町鳥獣被害防止計画」では、ハシインコへの被害があるとして、町単独事業で捕獲報奨金(1,500 円/1羽)を設定し捕獲を実施している。 大陸に生息する亜種を含めて種キジ <i>Phasianus colchicus</i> と分類されていたが、最新の分類において日本国内に生息する種を別種 <i>Phasianus versicolor</i> として整理した。	④各県リスト・奈良、鹿児島、⑤検討委員	姉崎(2015)、鹿児島県ウェブサイト(2017)	知名町鳥獣被害防止計画(令和5年度) https://www.town.china.lg.jp/nourin/kurasu/sangyo/nogyo/documents/bousikeikaku.pdf 【URL取得日:2026年1月7日】	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域		人体	経済産業	利用	付着混入														
22	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討 計外来種			ヤモリ科	ホオグロヤモリ	<i>Hemideactylus frenatus</i>	Ⅳ			◎	-	○	-	-	○	○	-	-	○	○		アジア原産と考えられる。台湾、インドシナ、インド、東アフリカ、メキシコ等に広く分布。	宝島、喜界島及び奄美大島以南の南西諸島のほとんどの島、小笠原諸島。	民家、人工林、海岸等。	ペットとして飼養されるほか、アロワナ等の餌用に販売されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	国内では南西諸島及び小笠原諸島に分布。近年、奄美大島・喜界島・宝島でも確認される。奄美大島と喜界島では定着している。しばしば他種のヤモリに対して攻撃的で排除する傾向にあり、在来ヤモリ類との競合が懸念される。海外では寄生虫や細菌等の媒介による在来種への影響も懸念されている。	③GISD、④各県リスト・鹿児島	日本爬虫両棲類学会編(2021)、Hoskin(2011)、Kurita(2013)	-	-	-	-		
23	定着初期／限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討 計外来種			イグアナ科	グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	Ⅳ			-	-	○	-	-	○	○	-	○	◎	-	中南米、西インド諸島原産。フロリダ半島、ハワイ、台湾に外来分布。	石垣島。	森林等。	ペットとして飼養されている。展示利用もなされている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	かつては捕獲がなされていたが現在は事業としての防除は行われていない。最新の生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	③GISD、④各県リスト・長崎、沖縄	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、阿部(2009)、Kraus(2009)、Lee et al.(2019)、GISD	2013年頃から環境省による生態調査や捕獲が実施されていた。 https://kyushu.env.go.jp/okinawa/pre_2013/0227a.html 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	-	-		
24	定着初期／限定分布	防除検討 計外来種			スッポン科	チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	Ⅳ				○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	ベトナム南部～中国大陸沿岸部原産。	沖縄(沖縄島、久米島、伊平座島、南大東島、石垣島、西表島、与那国島)。	河川の中・下流域や池、湖沼等。	生きた個体の国内における利用状況は不明だが、愛玩・鑑賞目的で販売されている個体に混入している可能性がある。台湾などでは養殖されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	ニホンスッポンとの交雑が生じている可能性がある。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄県以外にも持ち込まれている可能性があり、日本国内のチュウゴクスッポンの正確な分布状況は不明であるため知見の集積が必要。ただし、養殖用の遺棄、逃亡等により全国に広まっている可能性がある。ニホンスッポンとは亜種関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。	④各県リスト・北海道、福島、茨城、東京、兵庫県、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	-	-	-			
25	定着初期／限定分布	防除検討 計外来種			インガメ科	ミナミインガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i>	Ⅳ				○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	中国、台湾、ベトナム原産。	滋賀、京都、大阪。	水田、ため池、湿地等。	ペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	国内では滋賀、京都、大阪に定着。八重山諸島に亜種やエヤマインガメ <i>M. m. kami</i> が分布。本亜種の属するインガメ科は風間交雑のおそれもあるため、特に注意が必要。	④各県リスト・千葉、東京、滋賀、京都、長崎、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)、小林・長谷川(2005)	-	-	-	-			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(爬虫類)>
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	--

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則科レベルの配列はPoguh et al.,2018に倣い、それ以下は学名アルファベット順とした。
※ 例数等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症						
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																					
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入																			
総合対策外来種(定着)																																								
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																								
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①③		トカゲ科	ハ丈島のニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	Ⅳ						○	◎	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-	近畿中・北西部～西日本と周辺島嶼原産。	ハ丈島。	森林、農耕地、住宅地等。	移入個体群に限らずペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2012年に本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のものは別種ヒガシニホントカゲ <i>P. finlaysoni</i> とされた。ハ丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。オカダトカゲとの交雑が確認されている。	④各県リスト：東京	栗山ほか(2009)、Okamoto et al. (2013)	国立環境研究所によって遺伝構造や生態等の調査が実施された。	-	-	-	
2	国内由来の外来種	防除推進外来種	①		アガマ科	九州(鹿児島を含む。)のオキナワキノボリトカゲ	<i>Diploderma polygonatum polygonatum</i>	Ⅳ						-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	奄美群島、沖縄諸島原産。	宮崎県日南市、鹿児島市指宿市、鹿児島。	森林等。	移入個体群に限らずペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関するさらなる知見の集積が必要。自然分布域以外のものは鹿児島県の指定外来動植物に指定されている。	④各県リスト：長崎、宮崎、鹿児島	日本爬虫両棲類学会(2009)、太田ほか(2013)、Jono et al. (2013)、Ota et al.(2006)	宮崎県日南町の生息地では宮崎大学等によって生息状況調査が実施されてきた。	鹿児島県(2024)オキナワキノボリトカゲ防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kuras-hi-kankyo/gairai/documents/72338_20210526154054-1.pdf 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-	-
3	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②		スッポン科	南西諸島のニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i>	Ⅳ						○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	本州、四国、九州原産。	大隅諸島、奄美群島。	池沼、河川等。	日本全国で多数が養殖されている。持ち込まれたと考えられる。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。チュウゴクスッポンとは近縁関係にあったが、2023年それぞれ独立の種として分類に変更があった。 <i>P. japonicus</i> の外来種としての分布情報等は不明。自然分布域以外のものは鹿児島県の指定外来動植物に指定されている。	④各県リスト：青森、福島、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	鹿児島県(2024)ニホンスッポン防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kuras-hi-kankyo/gairai/documents/72338_20240510171228-1.pdf 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-	-
4	国内由来の外来種	防除推進外来種	②③		イシガメ科	沖縄島、宮古島などのヤエヤマセマルハコガメ	<i>Ouora flavomarginata evelynae</i>	Ⅳ						○	◎	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	石垣島、西表島原産。	沖縄島、宮古島、黒島等。	森林とその周辺、河川の周辺、沼沢地、渥原等。	国の天然記念物に指定されていることから飼養は規制されているが、許可を受けた個体が市の施設などで飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。セマルハコガメは国の天然記念物に指定されている。沖縄島、久米島、宮古島、黒島でも生息が確認されている。リュウキュウヤマガメとの交雑個体と思われるものも確認されている。天然記念物であるため、駆除を行うために課題がある。	④各県リスト：沖縄	Ota (1999)、前之園・戸田(2007)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	-	文化財保護法により国の天然記念物に指定されている。	-	-	-
5	国内由来の外来種	防除推進外来種	②③		イシガメ科	沖縄島、宮古島などのヤエヤマインガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>	Ⅰ、Ⅱ						○	-	◎	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-	石垣島、西表島、与那国島原産。	沖縄島、阿嘉島、宮古島等。	河川、池沼、渥地等。	移入個体群に限らずペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄島、宮古島、恵石島(鹿児島)などに定着している。宮古島ではミヤコサワガニを捕食する被害が指摘されている。	④各県リスト：鹿児島、沖縄	Ota (1999)、前之園・戸田(2007)、小林・長谷川(2005)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	ミヤコサワガニの生息地において宮古島市による捕獲が実施されている。 https://eco-island.jp/news/231129-2/ 【URL取得日：2025年12月2日】	-	-	-	

【国外由来の外来種との指摘がなされているが、国内に自然分布域を持つ可能性を現時点では否定できない種】

※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
総合対策外来種(定着)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
1	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①③		イシガメ科	自然分布域外のクサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	I																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				</

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害				分布拡大				特に問題となる被害		逸出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入															
13	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	ヒキガエル科	オオヒキガエル	<i>Rhinella marina (Bufo marinus)</i>	I, II, III			○	-	◎	-	◎	○	◎	○	-	○	◎	アメリカのテキサス州最南部～中米、アマゾン川流域原産。プエルトリコ、ワイ、フィリピン、ニューギニア、オーストラリア等に外来分布。	小笠原諸島父島、母島、大東諸島、石垣島。	サトウキビ畑等、人里近くの開けた環境。	戦前から1980年代にかけて害虫駆除のために導入された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	2011年に沖縄島で定着が確認されたが根絶された。2023年、2024年にも沖縄島で混入と思われる個体が見つまっている。耳腺からの毒液により、カエルの捕食者が死亡することがある。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:栃木、長崎、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)	環境省:沖縄八重山地域におけるオオヒキガエル防除実施計画 https://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/plans/alien/pdf/z-3-j.pdf 【URL取得日:2025年12月2日】 沖縄県:オオヒキガエル防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/004/820/05-08oohikigaeru.pdf 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-	-	広東住血線虫の宿主になり得るとの報告がある。		
14	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	アオガエル科	シロアゴガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	I, II			○	-	◎	-	◎	○	○	-	-	○	◎	南アジア～東南アジア原産。	徳之島、与論島、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、北大東島。	森林、農耕地、住宅地等。	かつてペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	本種から外来種の寄生虫(寄生性線虫類)が報告されている。在来種の両生類への感染は確認されていないものの、留意すべきとされている。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、鹿児島、沖縄	Hasegawa & Ota(2017)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
15	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus (Rana catesbeiana)</i>	I			○	-	◎	-	◎	○	-	-	-	○	-	北米原産。メキシコ、大アンデール諸島、ヨーロッパ、東南アジア、中国、台湾等に外来分布。	北海道南部以南のほぼ全国。	池沼等。	1918年以降に食用に輸入され、養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。教育等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	さまざまな小動物を広く捕食する他、カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。小笠原諸島では根絶された。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、神奈川、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-			
防除検對外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																				
16	定着初期/限定分布	防除検對外来種			ビバ科	アフリカツメガエル	<i>Xenopus laevis</i>	I			○	-	◎	-	◎	○	-	-	○	◎	-	アフリカ中南部原産。イギリス、アメリカのカリフォルニア州、チリ、メキシコ、ジャワ島、アセンション島等に外来分布。	千葉、静岡、和歌山、兵庫。	池沼や池等の止水域。	日本で最も多く利用されているカエルのひとつ。実験動物、ペット、アロワナ等肉食性観賞魚の餌として利用されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	カエルツボカビ症・ラナウイルス症病原体を媒介すると指摘されている。	③GISD、④各県リスト:北海道、東京、岐阜、静岡、滋賀、兵庫、和歌山、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(2019)、日本爬虫両棲類学会編(2021)、土木ほか(2019)、宇井ほか(2025)	和歌山県では継続的な防除が実施されている。 https://www.pref.wakayama.lg.jp/pref/g/032600/gairai/afunkatsumegaeru.html 【URL取得日:2025年12月2日】	鹿児島県(2024)アフリカツメガエル防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_2020051115158-1.pdf 【URL取得日:2025年12月2日】	-	-			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) ＜動物(両生類)＞
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高い。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	---

※ 掲載の影響は、分類の並びとし、原則Frost, D.R. et al. 2006. The amphibian tree of life. Bulletin of the American Museum of Natural History 297: 1-970.に従った。
※ 網罟等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性				生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食・摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着・混入															

総合対策外来種(定着)																																				
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																				
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②		ヒキガエル科	北海道、伊豆諸島及び佐渡島のアズマヒキガエル	Bufo formosus	I					○	-	◎	-	-		○	○	-	-	○	-	本州東北部(近畿まで)原産。	北海道、佐渡島、伊豆諸島。	森林、農耕地、草原、公園等。	移入個体群に限らずペットとして飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	八丈島、北海道で継続的な駆除が行われ、成果が報告されている。	④各県リスト：北海道、東京、長崎	八谷(2024)、後藤(2021)	北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づく「指定外来種」に指定され防除が実施されている。 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/shit-eigairaishu/boujo.html 【URL取得日: 2025年12月2日】	-	-	-
2	国内由来の外来種	防除推進外来種	①		ヌマガエル科	関東以北、長崎県島嶼部(平戸島を除く。)及び種子島のヌマガエル	Fajervarya kawamurai	IV					○	-	○	-	-		○	-	-	-	○	-	本州中部以西、四国、九州、奄美群島、沖縄諸島、台湾、中国原産。	関東、長崎県島嶼部(ただし平戸島は在来)、種子島。	水田、河川敷等。	移入個体群に限らずペットとして飼養されることがある。	逸出しないよう十分注意し、放出しないこと。	日本在来のカエル類の中で近年の導入が最も頻繁に生じている種であり、その寛容な食性により他種に影響を与える可能性が示唆されているため注意を要する。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	④各県リスト：関東各県、長崎(島嶼部)、鹿児島(種子島)	土居(2012)	-	-	-	-

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(魚類)>
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。
② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。
④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。

選定理由
Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。
Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則、科(亜科)レベルの配列をNelson(2010)に、科レベル以下の配列は観谷(2019)に従った。観谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順とした。

※ 特定外来生物で指定時から学名に変更があったものについては、原則現学名の後に指定時の学名を括弧書きで記述した。

※ 斜線等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																	原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性			生態系被害					分布拡大			重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散														
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	人体	経済産業	利用		付着混入																
侵入・定着防止外来種(未定着)																																					
侵入予防外来種(まだ侵入していない種)																																					
1	未定着	侵入予防外来種			ニシン科	エールワイフ	<i>Alosa pseudoharengus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	カナダのラブラドル州レッド湾〜アメリカのサウスカロライナ州の大西洋岸原産。アメリカの非自然分布域にも外来分布。	-	湖、河川から河口付近の沿岸域、陸封型と両側海遊型がいる。河川を遡上して湖や河川の緩流域で産卵する。	利用に関する情報は得られなかった。	-	五大湖では稚魚等の捕食により漁業対象種を含む在来種の減少を引き起こした。この他、海外では、在来の底生動物群集に影響を及ぼした事例がある。	③GISD	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=625	-	-	-	-		
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	アメリカナマズ科	ブラウンプルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	I,Ⅳ	○	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部原産。アメリカの非自然分布域の他、ヨーロッパ・ニュージーランド、フェルトリコ等に外来分布。	-	河川緩流域の底質が柔らかい場所、湖沼。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカでは導入された湖で在来のトゲワオを駆逐した例がある。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	アメリカナマズ科	フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pylodictis olivaris</i>	I,Ⅳ	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ東部、中部原産。アメリカの非自然分布域とカナダに外来分布。	-	倒木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカでは本種が導入された水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類等の減少が見られている。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=331	-	-	-	-		
4	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	パーチ科	ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	イギリス〜ロシア、中国のユーラシア大陸原産。ヨーロッパ各国の非自然分布域の他、アメリカ、カナダに外来分布。	-	低地から高地までの河川、富栄養湖。大河川の河口や汽水湖に多い。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少等の悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=544	-	-	-	-		
5	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	モロネ科	ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>	I,Ⅳ	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	アメリカ北東部の沿岸地域原産。カナダに外来分布。	-	中・大規模河川の止水部分や池。主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を通じて水系を超えた移動が可能。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=989	-	-	-	-		
6	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物	ハゼ科	ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	アゾフ海、黒海、カスピ海流域原産。ヨーロッパ各国やアメリカ、カナダに外来分布。	-	大河川の汽水域や湖沼、湾等の底質が砂や岩である浅瀬を好む。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	アメリカの五大湖等で、産卵環境や餌の競合、卵の食害等によって、在来種の減少を引き起こしている。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Neogobius+melanostomus	-	-	-	-		
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																					
7	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ガー科	ガー科(ガーバイク、アリゲーターガー、スポッテッドガー、ロングノーズガーなど)及びその交雑個体	Family Lepisosteidae	I,Ⅳ	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	◎	-	-	中米〜北米、カナダ原産。アメリカの非自然分布域に外来分布。	公園や城の堀等で放流されたと思われる個体が確認されていることがある。	河川(汽水・淡水域)、湖沼。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内で放流された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増加し、捕食により在来生物相に影響を及ぼすおそれがある。複数個体が同じ水域で確認されたこともあり、定着の危険性が高まっている。ガー科全種が肉食性で、どの種も全長1-2mと非常に大型になるため、捕食による影響は大きいと考えられる。生態系被害について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県リスト:北海道、福島、茨城、東京、長野、岐阜、滋賀、京都、大阪、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、佐賀、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	公園の池や城の堀等で発見された個体が捕獲されて取り除かれることがある。	徳知県特定外来生物対策ハンドブック https://kankyojocho.pref.aichi.jp/Download/Download/35E6%9C%A0%E6%96%87.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
8	未定着	定着防止外来種			コイ科	レッドホースミノー	<i>Cyprinella lutrensis</i>	I	○	◎	◎	-	○	-	-	◎	-	-	-	◎	-	-	-	アメリカ中央南部〜中央北部原産。アメリカの非自然分布域とメキシコに外来分布。	-	中小河川や水路の淵や平瀬等。	観賞魚として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に本州中部以南)。	海外では近縁種と交雑することや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。	③GISD、④各県リスト:東京、長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=1148	-	-	-	-		
9	未定着	定着防止外来種			コイ科	トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	I,Ⅳ	○	◎	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	○	○	中国南部〜東南アジア北部原産。	-	河川の淡水域。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。同属のオオタナゴが競争や交雑による被害の可能性が高いとして特定外来生物に指定されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。	④各県リスト:東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?cid=54708&lang=English	-	-	-	-		
10	未定着	定着防止外来種			コイ科	タイワンタナゴ	<i>Tanakia himantegus</i>	I,Ⅳ	○	◎	-	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○	○	○	台湾原産。	野外での確認事例があると考えられるが不明。	低標高地の河川や湖及び野水池。生きた二枚貝に産卵。	観賞魚として利用され、ネット販売もされている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内の野外で確認されたことがある。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られる。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。 <i>Paratanakia himantegus</i> の学名が当てられることもある。	④各県リスト:東京、⑥観賞魚として流通。国内に近縁の絶滅危惧種が存在。国内での確認記録あり。	FishBase: https://www.fishbase.org/summary/SpeciesSummary.php?cid=17290&lang=English	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目															原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	造出・拡散														
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態改変	繁殖	気候																			
24	未定着 (小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	アカメ科	ナイルパーチ	<i>Lates niloticus</i>	I	○	-	-	-	◎	-	-	○	-	-	-	◎	-	西アフリカ〜ナイル川流域原産。ヴィクトリア湖の他、コンゴに外来分布。	-	湖、河川緩流域、水路等。湖では沿岸部に分布。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。アフリカの湖で在来種のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来種のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	①特定外来、②IUCN、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=89	-	-	-	-		
25	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ベルキクティス科	マーレーコッド	<i>Maccullochella poelii</i>	I、IV	○	◎	○	-	○	-	-	◎	-	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系原産。	-	主に河川緩流域、流水や水生植物等の物陰を好む。急流の岩場でも見られる。	許可を得たものが観賞用や展示用に利用されている。また、管理釣り場での釣魚としての利用も始まっている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性がある。管理釣り場での利用が始まっており、今後逸出等によって野外へ定着するおそれが高まっている。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
26	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ベルキクティス科	ゴールデンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>	I、IV	○	◎	○	-	○	-	-	◎	-	-	-	○	-	オーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系、ドーンソ川等原産。	-	河川緩流域、湖、貯水池等。流水や水生植物等の物陰を好む。	許可を得たものが観賞用や展示用に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性がある。今後の分布拡大等について知見の集積が必要。旧要注意外来生物。	⑤委員	自然環境研究センター(編著)(2008)	-	-	-	-		
27	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ベルキクティス科	ベルキクティス科(狭義) (マーレーコッド及びゴールデンパーチを除く。)	Percichthyidae Gen. spp.	I、IV	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	オーストラリアと南米原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されていた。現在は未判定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で少数が利用されている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種に対する競争圧・捕食圧が生じる可能性があると考えられる種を含み、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase https://fishbase.mnh.fr/summary/familysummary.php?ID=288	-	-	-	-		
28	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ケツギョ科	オヤニラミ属(コウライオヤニラミ及びオヤニラミを除く。)	<i>Coreoperca</i> spp.	I、IV	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	海南島を含む中国南部〜ベトナム北部原産。	-	淡水域から汽水域。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	宮崎県大淀川水系でナンエツオヤニラミ <i>C. whiteheadi</i> の確認事例がある。当該水系では同属の近縁種であるコウライオヤニラミが定着して、捕食や競合により生態系被害を及ぼしており、ナンエツオヤニラミの確認事例に鑑みると、同様の生態をもつものと考えられる同属他種の導入や、それに伴う生態系被害の可能性がある。生態系被害について、知見の集積が必要。	⑥国内での確認情報のある外来種	FishBase. https://www.fishbase.de/summary/Coreoperca-whitehead.html	-	-	-	-		
29	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ケツギョ科	ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	◎	-	-	-	○	-	アムール川水系、中国原産。	-	河川緩流域や湖沼。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近いため、日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する事例が知られ、害魚とされている。	①特定外来、④各県リスト:新潟、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
30	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	ケツギョ科	コウライケツギョ	<i>Siniperca scherzeri</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	◎	-	-	-	○	-	中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	-	河川や湖沼。ケツギョよりも流れのある場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。学術研究目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	原産地の気候が日本と近いため、日本の湖沼や河川に導入すれば広く定着し、捕食や競争により在来生物に影響を及ぼすおそれがある。	①特定外来、④各県リスト:新潟、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
31	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	ケツギョ科	ケツギョ科(オヤニラミ属、ケツギョ及びコウライケツギョを除く。)	Sinipercoideae Gen. spp.	I、IV	○	◎	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	中国、ベトナム、朝鮮半島、原産。	-	淡水域。	観賞魚として利用されている。ケツギョ属は現在は未判定外来生物に指定され、輸入は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	ケツギョやコウライケツギョが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。	⑤検討委員	FishBase: https://www.fishbase.se/search.php	-	-	-	-		
32	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	サンフィッシュ科	ブルーギル属及びその交雑個体(バンブキンシードサンフィッシュ、ブルーギル及びロッキンギヤーサンフィッシュを除く。)	<i>Lepomis</i> spp.	I、IV	○	-	◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	北米東部〜メキシコ北部原産。レッドブレストサンフィッシュ <i>L. auritus</i> やグリーンサンフィッシュ <i>L. cyanellus</i> 等がヨーロッパや韓国、南米、オーストラリア等の他、アメリカ合衆国の非分布地域に外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	海外では本属に含まれるいくつかの種で捕食や競争によって生態系に悪影響を及ぼした事例が知られている。種の保護を行うため初期の生存率が低い。	⑤検討委員	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/	-	-	-	-		
33	未定着	定着防止外来種		未判定外来生物	サンフィッシュ科	サンフィッシュ科(ブルーギル属、コクチバス及びオオクチバスを除く。)	Centrarchidae Gen. spp.	I、IV	○	-	◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	○	-	北米東部〜メキシコ北部原産。レッドアイバス <i>Micropterus coosae</i> やスポットテッドバス <i>M. punctulatus</i> 、ロックバス <i>Ambloplites rupestris</i> 等が南米やヨーロッパ、アフリカに外来分布。	-	淡水の湖や河川、沼等。	一部の種が観賞用や釣魚として利用されていた。現在は特定外来生物や未判定外来生物に指定され、利用は指定以前に比べて限られる。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オオクチバスやブルーギルが含まれる科であり、同様の生態を持つ種が多いと思われるため生態系への悪影響が危惧される。科全体としての影響の程度について知見の集積が必要。種の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑤検討委員	Boschung and Mayden(2004)	-	-	-	-		
34	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	パーチ科	ヨーロッパアンバーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	ヨーロッパとアジア北部原産。オーストラリアとニュージーランド、ヨーロッパ南部、アフリカ、キプロス、中国等に外来分布。	-	河川緩流域、湖沼等。木の根が張り出したり水草が豊富な場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	オーストラリアで競合によって在来種の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダム湖でも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。	①特定外来、③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄	Global invasive species database: https://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=548	-	-	-	-		
35	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	パーチ科	バイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	I	○	-	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	-	ヨーロッパ中央部〜西アジア原産。ヨーロッパ西部及び南部、モロッコ、中国等に外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。深みのある静穏な水域を好む。汽水域にも生息。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペイン等のヨーロッパ諸国で在来種のバイク科魚類等の減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	①特定外来、④各県リスト:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
36	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	モロネ科	ホワイトバス	<i>Morone chrysops</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	-	-	アメリカ東部とカナダのセントローレンス川流域原産。モロッコとトルコに外来分布。	-	河川緩流域や湖沼。産卵のために河川を遡上。	本種そのものの利用に関する情報は得られなかった。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウェア湖とその下流では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県リスト:茨城、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症			
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	造出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態改変	繁殖	気候																					
37	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	モロネ科	ホワイトバス×ストライプトバス(サンシャインバス)	<i>Morone chrysops</i> × <i>Morone saxatilis</i>	I	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	作出個体のため原産地はなし。アメリカの非自然分布域に外来分布。	霞ヶ浦(茨城)と東京湾で記録がある。	-	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。一部の管理釣り場で利用されているストライパーと呼ばれるものにも、本文種個体が含まれている可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	両方の親種も特定外来生物に指定されている。親種より成長が早く環境適化に耐性があるとされる。	①特定外来、④各県リスト:茨城、東京、長崎	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-				
38	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	モロネ科	ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>	I	○	-	○	-	◎	-	-	○	-	-	-	○	-	アメリカ大西洋岸とカナダのセントローレンス川流域原産。エクトドル、メキシコ、南アフリカ共和国、トルコ、ロシア等に外来分布。	-	内湾や河口域。産卵のために河川を遡上。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のデービス湖では駆除対象となっている。	①特定外来、④各県リスト:千葉、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-				
総合対策外来種(定着)																																					
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																					
39	定着初期／限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	コイ科	オオタナゴ	<i>Achelognathus macropterus</i>	I				◎	○	-	-	-	◎	-	-	-	○	○	中国、朝鮮半島、アムール川原産。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系の千葉、埼玉、栃木(渡良瀬)でも確認。	湖、水路の沿岸から沖合まで。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)に導入されている。タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。淡水真珠養殖用のヒレイチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性もある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるインガイト科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	①特定外来、④各県リスト:茨城、千葉、東京、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	霞ヶ浦で駆除が行われたことがある。また、霞ヶ浦で他の外来魚とあわせて釣魚を回収したイベントの際に本種も対象となっていた。 https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kantai/kasumigaura/lake/kasumi-tsurisakana.html【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-		
40	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③		コイ科	カラゼニタナゴ(ロデウス・ノタータス)	<i>Rhodeus notatus</i>	I、II				○	◎	-	-	○	◎	◎	-	-	○	○	中国、韓国原産。	岡山。	河川の淡水域。国内では主に農家用水路や小河川に生息している。生きた二枚貝の殻に産卵する。	観賞魚として利用され、ネット通販等でも販売されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。本種の分布する場所では交雑によってスイゲンゼニタナゴを駆逐している。在来タナゴ種との混雑も懸念されている。在来種であるスイゲンゼニタナゴに比べて産卵能力が非常に多く、繁殖力が強い可能性がある。	④各県リスト:東京、⑤検討委員	環境省中国四国地方環境事務所:https://chushikokuenv.go.jp/procure/allienbl.html	岡山県では環境省中国四国地方環境事務所が専門家の協力の下、防除を実施している。	公表されているものは無い	-	-	-	-	
41	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②③		コイ科	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	I、II				○	◎	-	-	-	◎	◎	-	-	◎	○	中国、朝鮮半島、台湾原産。フィジーに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	河川下流域、湖沼、水路。	一般的な観賞魚として大量に利用されている。また、釣魚でもある。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	タナゴ類は比較的容易に異種間で交雑することが知られている。在来タナゴ類の多くは絶滅危惧種であり、これらへの被害のおそれがある。特にニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の導入に特に注意が必要。淡水真珠養殖用のヒレイチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性もある。タナゴの繁殖期には、産卵母魚となるインガイト科二枚貝の移植を控える等の配慮が必要。	②日本、④各県リスト:北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、岐阜、滋賀、京都、兵庫、鳥取、奈良、和歌山、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)	ニッポンバラタナゴ生息地では交雑や競争を防ぐために池干し等の手法で防除が行われている。	福岡県侵略的外来種防除マニュアル2021 https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/169206.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	「たなご」として一部地域で漁業法の漁業種魚種となっている可能性がある。	-	-	-	-
42	定着初期／限定分布	防除推進外来種	③	特定外来生物	ギギ科	コウライギギ	<i>Tachysurus sinensis (Tachysurus fulvidraconis)</i>	IV				○	-	○	-	-	◎	-	-	○	-	-	東アジア(アムール川〜韓国、中国南部)原産。	霞ヶ浦(茨城)。	原産地では湖沼や河川、泥底の止水にも生息している。	現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュと食性等が似ているため、在来生態系に被害を及ぼす可能性が高い。また、分布が拡大した際に、在来のギギ科魚類との競合、交雑が起こることが懸念され、今後の動向に注意する必要がある。生態系影響について、知見の集積が必要。	①特定外来、④各県リスト:茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、岐阜、滋賀、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	NPO法人 水元ネイチャープロジェクトが、水元公園での防除について、外来生物法に基づく認定を受けている。	-	-	-	-		
43	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①②③	特定外来生物	アメリカナマズ科	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)	<i>Ictalurus punctatus</i>	I				○	-	◎	-	-	◎	-	-	○	○	-	アメリカ、カナダ南部、メキシコ原産。アメリカの非自然分布域の他、中南米とヨーロッパの一部、ロシア、フィリピン、ハワイ等に外来分布。	福島、霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、利根川水系(茨城、栃木、埼玉、千葉、東京)、岐阜、愛知、琵琶湖(滋賀)、鳥根。	河川下流、湖沼等の流れが緩やかな場所。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、茨城県霞ヶ浦や岐阜県下小島ダムで許可を受けて養殖され、地域の名物として食用に利用されている。この他、展示目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。自然水域に逸出させないこと。	霞ヶ浦(茨城)ではイサザアミやハゼ類等の水産利用種を捕食し、これらと競合している。また、養殖池からある程度で漁業者がけがをする被害がある。	①特定外来、④各県リスト:福島、茨城、群馬、千葉、東京、岐阜、岐阜、滋賀、京都、大阪、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	茨城県の霞ヶ浦、滋賀県の琵琶湖、福島の阿武隈川等で防除が実施されたことがある。 https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5463989.pdf【URL取得日:2025年1月14日】 https://www.pref.shiga.lg.jp/ppan/shigotosa-nyou/suisan/18681.html【URL取得日:2025年1月14日】	水産庁 だれでもできる外来魚駆除2: https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-12.pdf【URL取得日:2025年11月27日】 福島県 阿武隈川におけるチャネルキャットフィッシュの駆除方法: https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/261592.pdf【URL取得日:2025年11月27日】 愛知県特定外来生物対策ハンドブック https://kankyojohoh.pref.aichi.jp/Download/Download/3NE690CA0CE69687.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-	
44	分布拡大期〜まん延期	防除推進外来種	①③	特定外来生物	カダヤシ科	カダヤシ(タップミノ、モスキートフィッシュ)	<i>Gambusia affinis</i>	I				◎	-	◎	-	○	◎	-	-	-	○	-	アメリカ南東部原産。世界中に広く外来分布。	福島以南の本州、小笠原、四国、九州、沖縄。	主に水田地帯等の流れの無い用水路、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚や蚊の駆除用として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	メダカの生息地に本種が導入された場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまうケースがある。	①特定外来、②日本、IUCN、③GISD、④各県リスト:福島、茨城、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	愛知県特定外来生物対策ハンドブック https://kankyojohoh.pref.aichi.jp/Download/Download/3NE690CA0CE69687.pdf【URL取得日:2025年11月27日】 横須賀市 https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/5555/bustres/documents/gb_17.pdf【URL取得日:2025年1月14日】	-	-	-	-	
45	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①③	特定外来生物	ケツギョ科	コウライオヤニラミ	<i>Coreoperca herzi</i>	I				◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	朝鮮半島原産。	宮崎県大淀川水系萩原川に定着。	川の上流域の石や礫が多い環境。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	環境DNAを用いた調査で、捕食や競合によって在来生態系に大きな影響を及ぼしていることが示された。	④各県リスト:東京、岐阜、宮崎、⑤検討委員	細谷(編・監修)(2019)	大淀川水系では遡上による防除が行われている。	-	-	-	-		
46	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①③	特定外来生物	サンフィッシュ科	バンブキンシードサンフィッシュ(バンブキンシード)	<i>Lepomis gibbosus</i>	I				○	-	◎	-	○	◎	-	-	-	○	-	アメリカ東部の大西洋岸と五大湖周辺原産。ヨーロッパの多くの国と南米の数か国、オーストラリアに外来分布。	石川。	砂底の池や水路から河川まで。水中植物の繁茂する場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	石川のため池で確認された。定着の可能性が高いとされている。北米大陸の本来の生息域外の他、ヨーロッパの多くの国に水産利用目的で導入されている。生態系への影響については明らかにされていないが、固有の軟体動物への捕食が確認されているほか、多様性の低下や在来種への攻撃性が指摘されている。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	⑥国内での確認情報のある未特定外来生物	藤田(2025) Boschung and Mayden(2004)	-	-	-	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
									定着可能性	生態系被害					分布拡大			重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散														
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		人体	経済産業		利用	付着混入												
47	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	サンフィッシュ科	ブルーギル	Lepomis macrochirus	I、II															カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部原産。アフリカやマダガスカル、中米、フィリピン、韓国等に外来分布。	全国。	主に流れの緩やかな河川下流域や湖沼。	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	捕食や競争により国内各地で在来種を駆逐し、優占種となっている。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。寿命は最長10年以上。	①特定外来、②日本、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、神奈川県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	全国各地でオオクチバスとあわせて漁具や人工産卵床、電気ショック等により防除が実施されてきた。池干しによって根絶が可能な場合もある。 https://www.pref.shiga.lg.jp/ppan/shigotosa-nyou/suisan/18681.html【URL取得日：2025年1月14日】	環境省：オオクチバス等の防除の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/gairai-eyo.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除3 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-30.pdf【URL取得日：2025年11月27日】	-	-
48	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①③	特定外来生物	サンフィッシュ科	ロングイヤースンフィッシュ	Lepomis megalotis	I														五大湖地域～テキサス州原産。	徳山ダム（岐阜）。	砂礫底の池や水路から河川まで、水中植物の繁茂する場所を好む。	観賞魚として利用されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	徳山ダムでは個体数が急増しており、また特定外来生物であるブルーギルと同属で生態的特徴が類似するため、生態系への被害が懸念されている。北米大陸でも本来の生息域外で確認されているが、影響については不明。卵の保護を行うため初期の生存率が高い。	④各県リスト：東京、⑤検討委員	USGS： https://nas.er.usgs.gov/queries/FactSheet.aspx?SpeciesID=388	-	-	本種のマニュアルは無いが、おそらくブルーギルの防除マニュアルが活用できると思われる。		
49	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	サンフィッシュ科	コクチバス（スモールマウスバス、ブラックバス）	Micropterus dolomieu	I															カナダ南部、アメリカ中東部原産。アフリカやヨーロッパ、メキシコ、北米の非自然分布域の一部に外来分布。	青森から和歌山までの山梨を除く19都県。	主に湖沼に生息。流れのある河川にも見られる。オオクチバスよりも流水域に適応できる。	かつては管理釣り場で利用されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。定着している湖等では釣魚になっており、一部の湖でスポーツフィッシングに利用されている。この他、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	南アフリカ共和国では在来種を捕食し、在来種の多くが見られなくなった例がある。ハワイでも在来種はもとより、オオクチバスやブルーギルを含む魚類を駆逐した。国内でも分布を拡大しており、オオクチバスより低温や流れに強いため、より上流域での捕食や競合の被害が懸念されている。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。寿命は最長15年。 コクチバスにはM. d. dolomieuとM. d. veloxの2亜種があるとされるが、国内のものは前者である。	①特定外来、②日本、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、静岡、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	河川やダム湖において漁具による捕獲や釣り、電気ショック、人工産卵床、水中銃等による防除が実施されている。一部のダム湖では根絶を達成した場所もある。 https://www.pref.gifu.lg.jp/page/337519.html【URL取得日：2025年1月14日】	環境省：オオクチバス等の防除の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/gairai-eyo.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除2 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-12.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除3 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-30.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：外来魚に立ち向かう https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-19.pdf【URL取得日：2025年11月27日】	-	-
50	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①②③④	特定外来生物	サンフィッシュ科	オオクチバス（ラージマウスバス、ブラックバス、フロリダバスを含む。）	Micropterus nigricans (Micropterus salmoides)	I、II															カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部原産。世界に広く外来分布。	北海道を除く。全国。	主に湖沼や河川下流域等、止水域や流れの緩やかな場所。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。一部の管理釣り場や湖でスポーツフィッシングに利用されている。山中湖等では漁業種の免許を受けて、放流も行われている。この他、展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内各地で捕食や競合により在来種を駆逐する等、在来魚類群集に様々な影響を及ぼしている。卵や仔魚は親魚によって保護されるため初期の生存率が高い。寿命は概ね8年程度、稀に10年を越す場合もある。 特定外来生物指定時は本種の学名はM. salmoidesが用いられていたが、現在はこの学名はフロリダバスに当てられ、オオクチバスの学名にはM. nigricansが用いられている。	①特定外来、②日本・IUCN、③GSD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、長野、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、岡山、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	長野県の金原ダム湖では様々な漁具や水中銃を用いた防除によって機能的根絶を達成している。 伊豆沼では漁具や人工産卵床等による防除を行い、低密度管理を実施し、在来種の復元が実現されている。	環境省：オオクチバス等の防除の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/gairai-eyo.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除2 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-12.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：誰でもできる外来種駆除3 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-30.pdf【URL取得日：2025年11月27日】 水産庁：外来魚に立ち向かう https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-19.pdf【URL取得日：2025年11月27日】	-	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。
防除検討外来種（被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの）																																		
51	定着初期／限定分布（小笠原・南西諸島で特に注意）	防除検討外来種			アロワナ科	シルバーアロワナ	Osteoglossum bicirrhosum	I、IV															アマゾン川原産。	沖縄島。本州でも確認例がある。	河川。酸素濃度の低い環境でも適応できる。	観賞魚として多く利用されている。アロワナ類では比較的安価。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	沖縄で定着。分布は局所的。大型になる肉食魚で、沖縄県では生態系に影響があると考えられる防除対策外来種に選定されている。ポランドの野外でも確認されており、在来生態系への影響がある可能性が指摘されている。生態系影響について、知見の集積が必要。口内で卵や稚魚を保護するための、初期の生存率が高い。	③各県リスト：滋賀、徳島、沖縄	FishBase： https://www.fishbase.org/summary/Osteoglossum%20bicolorrhosum.html	-	-	-	
52	定着初期／限定分布（小笠原・南西諸島で特に注意）	防除検討外来種			コイ科	パールダニオ	Danio albolineatus	I、IV															ミャンマー、タイ、ラオス、マレー半島、スマトラ原産。シンガポールに外来分布。	沖縄島北部。	丘陵地の水がきれいな小川や河川下流を好む。日本ではため池に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に利用されている。また、実験動物としても利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと（特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川）。	沖縄島北部で定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナミメダカとの競合も懸念される。	④各県リスト：長崎、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	-	-	-	
53	定着初期／限定分布（小笠原・南西諸島で特に注意）	防除検討外来種			コイ科	ゼブラダニオ	Danio rerio	I、IV															インド、パキスタン、ネパール、バングラディッシュ、ミャンマー原産。アメリカ、コロンビア、シンガポールに外来分布。	沖縄島北部。	丘陵地の緩流や淀み。日本ではため池に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に利用されている。また、実験動物としても利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと（特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川）。	沖縄島北部で定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナミメダカとの競合も懸念される。	④各県リスト：長崎、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	-	-	-	
54	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コイ科	アカヒレ	Tanichthys albonubes	I、IV															中国広東省、ベトナム原産。	沖縄島。	清潔な河川緩流域の水草のある場所。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと（特に本州中部以南）。	生態系等への影響に関する知見の集積が必要。定着河川において、生息密度が局所的にかなり高くなることが確認されており、水生昆虫等への捕食の影響が危惧される。また、絶滅危惧種であるミナミメダカとの競合も懸念される。	④各県リスト：和歌山、長崎、沖縄	自然環境研究センター（編著）(2019)	-	-	-	
55	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			コイ科	コイ（飼育型）	Cyprinus carpio	I															中国を中心とした東アジアから黒海・カスピ海沿岸にかけてのヨーロッパ大陸の温帯域原産。世界に広く外来分布。	全国。	湖、河川下流域から汽水域までの広範囲。	古くから移殖が盛んで、特に内陸部では除草や食用目的で全国に移殖された。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと（特に琵琶湖等野生型コイが生息する場所）。	捕食行動によって底質を巻き上げることでの水透明度を低下させ、光が阻害することで水草の成長を妨げる等、生態系の改変を引き起こす。琵琶湖等の一部を除き在来のコイとの交雑が進んでいる。	②IUCN、③GSD、④各県リスト：北海道、福島、茨城、千葉、東京、栃木、愛知、滋賀、兵庫、奈良、和歌山、徳島、愛媛、高知、長崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員、地方自治体	細谷（編・監修）(2019)	東京都の井の頭公園で池干しによる本種を含む防除が実施された。	横須賀市： https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/555/5/bustres/documents/gb_18.pdf【URL取得日：2025年1月14日】	「こい」として持続的繁殖生産確保法の特定疾病にかかるおそれのある水産動物に含まれる。一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	
56	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コイ科	タイリクシロフチタナゴ（ハッカタナゴ）	Rhodeus albomarginatus	IV															中国安徽省の揚子江流域の鄱陽湖への流入河川及び緑江原産。	兵庫の数か所で確認されている。	原産地では小川に多産し、流れのある水生植物帯を好む。国内ではため池に生息している。	観賞魚として少量が利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	兵庫県の数か所に定着しており、生態系被害が懸念されている。現時点での生態系影響は不明。繁殖力は高いとされる。	⑤検討委員	谷口ほか(2025)、北村私信	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	造出・拡散														
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態改変	繁殖	気候																		
81	定着初期／限定分布	防除検討外来種			カワスズメ科	ジルティラピア	<i>Coptodon zillii</i>	I			◎	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	アフリカ大陸赤道以北、パレスチナ原産。東ヨーロッパや中東、マダガスカル、アメリカ、メキシコ、フィリピン等に外来分布。	滋賀、鹿児島、南西諸島。	河川緩流域、湖沼等。多様な環境に生息し、水温や塩分濃度に対してきわめて広い適性を示す。	現在の利用に関する情報は得られなかった。	-	道賀及び鹿児島(南西諸島を除く。)では工場の温排水や湧水のある場所等の一定以上の水温の場所に定着。沖縄県で本種が生息している水域では、在来種が見られなくなっているところがある。卵や仔魚は観賞魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	③GISD、④各県リスト：東京、滋賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	熊本県の江津湖では釣られた魚の回収ボックスや電気ショック・ボート等による外来魚の駆除が行われ、本種も駆除が行われている。 https://www.city.kumamoto.jp/hp/kji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=7881【URL取得日:2025年1月14日】	-	-		
82	定着初期／限定分布	防除検討外来種			トウゴロウイワシ科	ベヘレイ	<i>Odontesthes bonariensis</i>	I、IV			○	-	○	-	-	◎	-	-	-	○	-	アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル南部原産。チリ、ボリビア、ペルー、イタラエル、イタリアに外来分布。	霞ヶ浦(茨城)、北浦(茨城)、丹沢湖(神奈川県)で確認。	湖。適水温は10-28℃だが、冬期に5℃程度になる場所でも生息できる。	管理釣り場等で利用されていたことがある。養殖もされている。丹沢湖で野生化しているものは地域の名物として食用に利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦・北浦では沖合生態系の優占種となるほど増殖しており、生態系に影響を及ぼしていると言われている。ワカサギやシラウオ等への漁業被害も懸念される。生態系への影響や漁業被害に関する知見の集積が必要。	④各県リスト：茨城、千葉、山口、長崎、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-		
83	定着初期／限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討外来種			カダヤシ科	グリーンソードテール(ソードテール)	<i>Xiphophorus helleri</i>	I、IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	◎	-	メキシコ、グアテマラ、ベリーズ、ホンジュラス原産。アメリカ、中米、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ、マダガスカル等に外来分布。	山梨、奄美大島、沖縄島、久米島等。	比較的流れの速い河川から水路や池等いろいろな場所に生息。	一般に広く知られた代表的な観賞魚であり、大量に利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	本州では温泉水に局所的に定着。沖縄では1960年代から定着。生態系等への影響に関する知見の集積が必要。沖縄県では河川で増加し、在来魚種への影響が懸念されている。	③GISD、④各県リスト：長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	奄美大島で駆除を実施したことがある。	-	-		
84	定着初期／限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討外来種			カダヤシ科	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	I			◎	-	◎	-	○	○	-	-	-	◎	-	ベネズエラ、ガイアナ原産。世界に広く外来分布。	北海道、福島、長野、静岡、岡山、大分、南西諸島、小笠原。温泉や温排水の流れ込む河川などで確認される。	止水を好むが、比較的流れのある小規模河川に生息している事も多い。流れのある場所では水草のある場所に生息。	一般に広く知られた代表的な観賞魚であり、大量に利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと(特に、小笠原・南西諸島や、温泉水が流れ込んでいる等水温の高い川)。	温泉地や温排水に局所的に定着。北海道、福島(内郷温泉)、長野(戸倉、上山田、浅間温泉)、静岡(蓮台寺温泉)、岡山(奥津温泉)、大分(別府温泉)、鹿児島(指宿温泉)、沖縄の各温泉、小笠原に移入。海外の熱帯・亜熱帯域では、希少種を含むコイ科、カダヤシ科、メダカ科等の小型魚類を駆逐している。卵胎生。定着は、国内の亜熱帯地域の他は、温泉地や温排水等のごく一部に限られる。	③GISD、④各県リスト：北海道、福島、茨城、千葉、東京、滋賀、和歌山、山口、徳島、高知、福岡、長崎、大分、熊本、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道のオンネトー湖の湖でナイルティラピアとあわせて防除が実施され、死体を引き込んで水温を低下させることで根絶した。 https://www.env.go.jp/press/106377.html【URL取得日:2025年11月27日】	-	-		
85	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			タイワンドジョウ科	カムルチー(ライギョ)	<i>Channa argus</i>	I、IV			○	-	○	-	○	◎	-	-	-	○	-	アムール川～長江付近のアジア大陸東部原産。アメリカとウズベキスタンに外来分布。	北海道東部、本州、四国、九州。	河川緩流域、湖沼、用水路等。抽水植物や水草が繁茂した場所を好む。	観賞魚として利用されている他、アメリカザリガニの駆除に用いられることもある。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。アメリカザリガニの防除等に利用する際は、厳密な管理下で行う必要がある。	北海道、本州、四国、九州のほぼ全域に分布。鳥の雛を捕食していることが報告されている。本種が多数生息する場所でも在来魚が極端に減少することはないとされている。卵や仔魚は観賞魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、千葉、東京、愛知、滋賀、愛媛、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、高知、福岡、長崎、熊本、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	-	-		
86	定着初期／限定分布	防除検討外来種			タイワンドジョウ科	コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	I、IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	台湾、海南島、長江流域以南の中国原産。	大阪、沖縄島、石垣島に定着しているが、池沼にも生息。	流水環境に多いが、池沼にも生息。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	局所的に長期間にわたって定着していたが、近年は減少傾向にある。石垣島の個体群は絶滅した可能性もある。卵や仔魚は観賞魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	④各県リスト：千葉、愛媛	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	-	-		
87	定着初期／限定分布	防除検討外来種			タイワンドジョウ科	タイワンドジョウ(ライギョ)	<i>Channa maculata</i>	I、IV			○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	福建省以南の中国、ベトナム、台湾、海南島、フィリピン原産。ハワイとマダガスカルに外来分布。	瀬戸内海周縁の各地(愛媛を除く。)と石垣島。	河川緩流域、湖沼、用水路等。抽水植物や水草が繁茂した場所を好む。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	和歌山、兵庫、石垣島に移入。局所的に長期間にわたり定着。捕食や競合による生態系影響が懸念されているが、生息数が減っており、影響はほとんどないとの見解もある。卵や仔魚は観賞魚によって保護されるため初期の生存率が高い。	④各県リスト：千葉、愛媛、奈良、和歌山、山口、高知	自然環境研究センター(編著)(2008)	他の外来魚の防除の際に同時に駆除されることがある。	-	-		
88	定着初期／限定分布	防除検討外来種			スズキ科	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax maculatus</i>	I			○	◎	○	-	-	○	-	-	-	○	-	黄海の渤海沿岸、東シナ海と北部南シナ海の中国大陸沿岸原産。	関東地方以西の本州、四国、九州の沿岸で確認。	沿岸域から河口域。淡水域への指向性が強く河川に遡上。	養殖対象として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	スズキと分布の重複する朝鮮半島で交雑個体は見つかっていないが、人工的には容易に交雑する。愛媛県宇和島市の来村川河口ではスズキを置き放ったとされる。知見の集積が必要。	④各県リスト：茨城、東京、宮崎、鹿児島、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。		
産業管理外来種(適切な管理が必要な産業上重要な外来種)																																		
89	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			サケ科	ニジマス(レインボートラウト)	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	I			◎	-	○	-	-	○	○	-	-	◎	-	アメリカの太平洋岸、カムチャッカ半島原産。世界に広く外来分布。	放流によりほぼ全国的に確認されているが、定着は北海道、東海型もある。冷水性。	平地から高地の河川や湖沼。降海型もある。冷水性。	古くから大量に養殖・放流がされてきている水産上の重要魚種。多くの都道府県で漁業権魚種として免許されている。また、管理釣り場での利用も多い。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	北海道では広い範囲で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。本州以南では釣獲や増水による繁殖失敗でほとんど定着できていないとの見解がある。本種とヤマメの交雑個体は発生段階で死亡するため、遺伝的かく乱の可能性は低い。ただし、正常な繁殖が阻害される可能性はある。漁業権が設定されている地域もあるので、防除を行う際は確認が必要がある。	②日本、IUCN、③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、岐阜、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、高知、長崎、熊本、宮崎、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	「さけ科魚類」として持続的養殖生産確保法の特定期間にかかるおそれのある水産動物に含まれる。一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(魚類)>【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	--

※ 掲載の順等は、分類の並びとし、原科、科(亜科)レベルの配列をNelson(2016)に、科レベル以下の配列は細谷(2019)に従った。細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順とした。
※ 側縁等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2028.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着・侵入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
総合対策外来種(定着)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1		国内由来の外来種	防除推進外来種	③		ギギ科	東北地方、東海・北陸地方以東及び九州北西部のギギ	Tachysurus nudiceps	I																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害				分布拡大			特に問題となる被害																		
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入															
12	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	琵琶湖、淀川水系及び三方湖以外のハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>	I			-	○	◎	-	-	○	○	-	-	○	○	琵琶湖淀川水系、福井県三方湖。	関東、北陸地方、濃尾平野、中国地方、九州。	ダム湖等大きな造水池、湖沼、湖沼と結合した河川、大型河川。	琵琶湖では少量が漁獲されているが、一般にはあまり出回らない。釣魚でもある。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	魚食性のため、捕食による在来魚類への影響が懸念される。	③各県リスト：福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、静岡県、愛知、奈良、和歌山、鳥取、山口、徳島、愛媛、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
13	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	関東地方・北陸地方以北の本州のカワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	I			◎	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	日本海側では能登半島以西、太平洋側では天来川以西の本州、四国、九州。	関東地方、新潟県、東北地方。	河川の上流から中流にかけての湖やよどみに多く生息する。ため池で見られる地域もある。	釣魚として利用されている。観賞魚としても利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	一旦侵入・定着すると他魚を減少させ、それによって魚類群集の種組成を大きく変える恐れがある。本種の侵入後、本種が底層魚を除く魚類の90%以上を占めるようになった例もある。オйкаワとの自然環境下での交雑個体も確認されている。	③各県リスト：福島、茨城、群馬、千葉、東京	片野ほか（2014） 細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
14	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	関東地方のタカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephalus</i>	I			○	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○	神奈川県西部及び新潟県境川水系以西の本州、四国、九州、対馬、五島列島。	関東地方。	河川上中流部。	観賞魚として利用されている。一部の地域ではウナギ釣りの餌として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	多摩川では交雑によりアブラハヤと置き換わっている。	④各県リスト：東京、⑥現行リスト作成時の検討種	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
15	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	北海道、東北地方などのモツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	I、II			◎	◎	-	-	-	○	◎	-	-	○	-	関東地方以西の本州、四国、九州。	北海道、東北地方、関東地方、長野、沖縄。	湖、池沼、それに続く細流、河川下流域、泥底の淀み。	観賞魚の飼育等として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	シナイモツゴ生息地に導入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。交雑個体は繁殖能がなく、遺伝的かく乱はないものの、繁殖に関する競合により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。	③各県リスト：北海道、青森、福島、長野、鹿児島、沖縄	細谷（編・監修）（2019）	シナイモツゴの生息するため池で水抜きによる防除が行われている。	-	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	-			
16	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	東北地方、関東地方及び九州のタモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	I			○	◎	-	○	-	○	-	-	-	○	○	東海地方以西の本州、四国。	東北地方や九州。	河川中・下流域や湖沼、農業水路、ため池等の流れの緩やかな水域、水田地帯の農業水路に多い。	観賞魚として利用されている他、川魚の佃煮として食用にされている。釣魚でもある。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	競合による影響が懸念されている。	④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、群馬、千葉、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている可能性がある。	-			
17	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	琵琶湖以外のホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleoens</i>	I			◎	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○	琵琶湖。	琵琶湖以外の地域。	湖沼。	観賞魚として利用されている他、休耕田等で食用に養殖されていることがある。釣魚でもある。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	奥多摩湖、山中湖、河口湖、諏訪湖、清原湖に外来分布。スワモロコの絶滅はホンモロコの移殖による交雑又は競合が原因とされている。タモロコの生息地で交雑する可能性がある。	④各県リスト：茨城、千葉、東京、愛知、奈良、和歌山、山口、愛媛、宮崎	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業権魚種となっている可能性がある。	-			
18	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	関東地方以北及び九州などのゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	濃尾平野、琵琶湖、淀川水系、山陽地方、九州北部。	関東地方、新潟県、濃尾平野（琵琶湖由来）、九州（琵琶湖由来）。特に九州では分布が拡大している。	主に湖沼や河川中・下流域の流れの緩やかな砂泥底から砂底。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	霞ヶ浦では1960年代に初認。九州北西部では在来の同種集団と交雑。その他の影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。	④各県リスト：青森、茨城、千葉、東京、和歌山、山口、⑤検討委員	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
19	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	琵琶湖以外のスゴモロコ	<i>Squalidus ohankaensis biwae</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	○	琵琶湖	濃尾平野、淀川、山陽地方、九州北部。	琵琶湖では水深10m前後の砂底や砂泥底に群れて生息する。	観賞魚として利用されている。川魚の佃煮として食用にされている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	関東地方や紀伊半島、四国に外来分布している。広島県での確認記録もあり、コウライモロコへの遺伝的かく乱が懸念される。	④各県リスト：茨城、群馬、東京、鹿児島、⑤検討委員	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業権魚種となっている可能性がある。	-			
20	国内由来の外来種	防除検討外来種			コイ科	東日本、九州などのコウライモロコ	<i>Squalidus ohankaensis tsuchigae</i>	IV			-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	濃尾平野、和歌山県紀ノ川～広島県芦田川の比較的大きな河川に不連続に分布。国外では朝鮮半島西部。	九州。	河川の中・下流域とそれに続く水路。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	生態系影響は不明。九州では分布を拡大しており、さらなる分布の拡大やそれに伴う生態系影響について知見の集積が必要。	④各県リスト：千葉、東京、鳥取、高知	細谷（編・監修）（2019）	-	-	「もろこ」として一部地域で漁業権魚種となっている可能性がある。	-			
21	国内由来の外来種	防除検討外来種			ドジョウ科	奄美群島以南のドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I、IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	○	日本全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	沖縄島。	水田や農業水路、湿地帯等の流れのない泥底。	観賞魚や食用として大量に利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	沖縄県北部のヒョウモンドジョウ生息地に近接する地域に本州や中国由来のドジョウが確認されており、ヒョウモンドジョウに対する遺伝的かく乱が懸念されている。	③GISD、④各県リスト：北海道、奈良、鹿児島	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
22	国内由来の外来種	防除検討外来種			ドジョウ科	石狩低地より南西の北海道及び本州以南のフクドジョウ	<i>Nemacheilus barbatulus toni</i>	I、IV			○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	○	北海道石狩川以西の本州、四国、九州北部。国外では朝鮮半島南部。	北海道石狩川より南西部、福島、神奈川県、宮崎。	河川上流部から下流域の礫底。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	水生昆虫への捕食や同所的に生息する底生魚類への競合が懸念されている。本州で分布拡大が顕著であり、今後の分布拡大や生態系被害についての知見の集積が必要。	④各県リスト：福島、茨城、東京	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
23	国内由来の外来種	防除検討外来種			メダカ科	青森県及び秋田県から兵庫県までの日本海側のミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	京都府以西の日本海側と岩手県以西の本州、四国、九州北部。国外では韓国、隠岐や香取、対馬等の島嶼。	青森及び秋田から兵庫までの日本海側。	平野部の河川、池沼、水田、農業水路等の流れが緩やかな場所。	観賞魚や肉食魚の餌等として大量に利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	北海道、関東地方、奈良県を含む全国（詳細不明）に外来分布。各地で放流による遺伝的かく乱が問題となっている。	④各県リスト：北海道、福島、千葉、滋賀、和歌山、徳島、鹿児島、⑤地方自治体	細谷（編・監修）（2019）	-	-	-	-			
24	国内由来の外来種	防除検討外来種			ケツギョ科	滋賀県、大阪府、和歌山県以東及び九州南部のオヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	IV			○	-	○	-	-	○	○	-	-	○	-	保津川・由良川以西の本州、四国、北東部、九州北部。国外では朝鮮半島南部。	東京、神奈川県、愛知、滋賀、高知。	水の澄んだ河川の緩流部、水路。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	導入年代は不明。滋賀県と愛知県では条例で放流を規制しており、岐阜県美濃加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東海地方や東京都の外来分布地は絶滅危惧種の生息地にもなっており、影響が懸念されている。近畿地方でも由良川水系、桂川水系以西には自然分布している。生態系影響についての知見の集積が必要。	③各県リスト：東京、愛知、滋賀、奈良、和歌山、徳島、愛媛、宮崎	細谷（編・監修）（2019）	岐阜県において電気ショックとタモ網を用いた防除が実施されたことがある。	-	-	-	-		
25	国内由来の外来種	防除検討外来種			ハゼ科	関東地方のカワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	IV			○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	日本海側では富山県神通川付近以西、太平洋側では静岡県富士川以西の本州、四国、九州北部と香取、福江島。	関東地方	河川の上・中流域の流れが緩やかな場所に生息する。	観賞魚として利用されている。	遡出には十分な注意を払い、放流しないこと。	他のハゼ科魚類との競合を示唆する状況が見られる。本種が確認されるようになって以降、従来優占種だったハゼ類が確認されなくなった水域がある。	③各県リスト：東京	佐藤（2021） 細谷（編・監修）（2020）	-	-	-	-			

【国内に自然分布域を持つ国外由来の外來種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地	問題となっている地域	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入												
総合対策外来種(定着)																																		
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																		
1	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コイ科	外国産ギンブナ(ギベリオブナ)	<i>Carassius</i> sp.	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	国内では全国に分布しているが自然分布との区別は困難。国外では朝鮮半島と中国大陸。	琉球列島。	河川の浸流域を除くほとんどの環境。	海外では食用として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	国内に同種が存在する。在来種についても自然分布域は不明。琉球列島に中国や台湾産の個体が導入され、琉球列島固有のフナへの遺伝的かく乱や個体群の減少が確認されている。	④各県リスト: 東京、⑤検討委員	高田ほか(2010) 立原私信	-	-	-	
2	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			コイ科	キンギョ	<i>Carassius auratus</i>	I、IV			○	○	-	-	-	○	-	-	-	◎	-	不明。	全国。	ため池や水路等。	観賞魚として古くから大量に利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	在来種との競合と駆逐の可能性、在来種との交雑による遺伝的かく乱の可能性が指摘されている。	④各県リスト: 北海道、茨城、東京、滋賀	北海道外来種データベース: http://blueist.pref.hokkaido.lg.jp/db/details.php?k=05&cd=6	-	-	-	-	
3	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コイ科	外国産ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	IV			-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	国内では濃尾平野、近畿地方、山陽地方、九州北部。国外では朝鮮半島から中国東部。	九州。	平野部の池沼や農業用水路の泥底を好む。	国内産の個体と思われるものは観賞用として利用されている。中国産の個体はフナの導入に伴って入ったと推測されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	九州に中国由来のツチフキが外来分布しており、在来個体との交雑による遺伝的かく乱が懸念されている。	④各県リスト: 茨城、群馬、東京、滋賀、⑤検討委員	Jang-Liaw et al (2019)	-	-	-	-	
4	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ドジョウ科	外国産ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	I			-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	-	国内では全国に分布するが、自然分布域の詳細は不明。国外ではアムール川水系～インドシナ半島。	全国。	主に水田や水路、湿地等の流れの無い泥底。	食用や観賞魚の餌等として利用されている。	逸出には十分な注意を払い、放流しないこと。	全国各地に定着している。特に関東北部、大阪平野等では多くが外国産ドジョウか。在来種との交雑集団に置き換わっている。	④各県リスト: 東京、滋賀、茨城、鹿児島、⑤地方自治体	中島(2020)	-	鹿児島県・奄美群島にお住まいの方向けドジョウ、カラドジョウ防除マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashikankyo/gairai/documents/72338_20231017092523-1.pdf【URL取得日:2025年11月27日】	一部地域で漁業法の漁業権魚種となっている。	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(昆虫類)>
【国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目まぐるしい等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	---

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本昆虫目録に従った。なお、日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。
※ 調査等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2028.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目															原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業	利用	付着混入													
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候																			
侵入・定着防止外来種(未定着)																																			
侵入予防外来種(まだ侵入していない種)																																			
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来生物(要緊急対処特定外来生物)	アリ科	ヒアリ類4種群及びその交雑個体(ヒアリ、アカカミアリ及びホクベヒアリを除く。)	<i>Solenopsis</i> spp. (<i>Solenopsis geminata</i> species group, <i>Solenopsis saevissima</i> species group, <i>Solenopsis tridens</i> species group, <i>Solenopsis virulens</i> species group)	I, III	○	○	◎	-	◎	-	-	○	-	◎	◎	-	○	北米～南米原産。	-	亜熱帯～暖温帯の草地等比較的開けた環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	これまでに我が国での確認事例はないものの、確認事例の多いヒアリ・アカカミアリ同様、貨物等に伴い侵入する可能性があることから注意が必要。 節足動物の他、爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃、捕食することが知られ家畜への被害を起こしている種群もある。フランス領ギアナでは、 <i>S. saevissima</i> が元々は河岸の森林や牧草地にのみ分布していたが、熱帯雨林の地域が人為的に破壊されるにつれ、雑地となった地域に著早く分布を広げており、生態系への影響が懸念されている。刻された場合、深刻なアナフィラキシーショックを引き起こした例も知られている。	①特定外来(要緊急対処)④各県リスト:長崎	東ほか(2008)、寺山(2018)、榎本(編)(2020)、環境省HP(ヒアリ)	環境省:要緊急対処特定外来生物「ヒアリ」に関する情報(ヒアリの全国確認情報) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hian.html 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対処特定外来生物「ヒアリ」に関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hianboujo.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-		
2	未定着	侵入予防外来種			ミツバチ科	アフリカミツバチ及びアフリカ化ミツバチ	<i>Apis mellifera scutellata</i>	III	○	○	○	-	-	-	-	○	-	◎	-	○	-	アフリカ東部～南部原産。オーストラリア、北米南部～中米、西インド諸島等に外来分布。	-	森林、農耕地、住宅地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	南米等においては養蜂で用いられている。アフリカ化ミツバチは、セイヨウミツバチの亜種アフリカミツバチとヨーロッパ産亜種が交雑したものの。形態による識別は困難。アフリカ化ミツバチは攻撃性が高く、海外では集団で人や家畜を長時間襲い、死に至らしめる事例がある。 検査が必要な物(指定検疫動物): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/37.html 監視伝染病(家畜伝染病): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/41.html 監視伝染病(届出伝染病): https://www.maff.go.jp/aqs/hou/42.html	③GISD、④各県リスト:長崎、沖縄、⑤その他	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	家畜伝染病予防法(蜜蜂として、指定検疫物)	麻痘病(蜜蜂として監視伝染病(家畜伝染病)) バロア症、チョーク病、アカリングニ症、ノゼマ症(蜜蜂として監視伝染病(届出伝染病))			
定着防止外来種(侵入事例はあるが定着していない種)																																			
3	未定着	定着防止外来種			クワガタムシ科	外国産クワガタムシ(特定外来生物を除く。)	Lucanidae Gen spp.	I	○	◎	○	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	世界に広く分布。	-	森林や農耕地、山、都市部等多様な環境に生息。	ペットとして多様な種が輸入されている。 標本でも多様な種が販売されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	野外での外国産のオオクワガタ属と日本産の同属種にラタクワガタとの交雑個体の確認例があり、遺伝的かく乱をもたらすおそれ指摘されている。	④各県リスト:群馬、東京、滋賀、兵庫⑥その他	荒谷(2003b)、五箇・小島(2004)、岩田(2024)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	外為法(<i>Colophon</i> 属全種がワシントン条約付属書IIに掲載) 植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gtscrch/(検査結果819件が輸入規制・規制無、うち9件が備考:外来生物法での規制有)	-		
4	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	クワガタムシ科	特定外来生物のマルバネクワガタ属10種	<i>Neolucanus</i> spp. (<i>Neolucanus angulatus</i> , <i>Neolucanus baladeva</i> , <i>Neolucanus giganteus</i> , <i>Neolucanus katsuraorum</i> , <i>Neolucanus maedai</i> , <i>Neolucanus maximus</i> , <i>Neolucanus perarmatus</i> , <i>Neolucanus saundersii</i> , <i>Neolucanus tanakai</i> , <i>Neolucanus waterhousei</i>)	I	○	-	○	◎	-	-	-	○	○	-	-	○	東アジア、東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は高く、標本の取引が行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていない。国内の南西諸島に侵入した場合、在来マルバネクワガタ類と交雑することによって遺伝的かく乱を生じさせることが危惧されている。	①特定外来④各県リスト:長崎	井岡・田中(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	植物防疫法(クワガタムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gtscrch/(検査結果33件が輸入規制・規制無、うち8件が備考:外来生物法での規制有)	-				
5	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コガネムシ科	クモテナガコガネ属	Genus <i>Euchirus</i>	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。	-	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネ生息地や、南西諸島のマルバネクワガタ類等の生息地に侵入した場合、生息場所を巡って競合が生じるおそれがある。	①特定外来、④各県リスト:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、Catalogue of Life(COL)	-	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gtscrch/(輸入規制・規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-			
6	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コガネムシ科	ヒメテナガコガネ属	Genus <i>Propomacrus</i>	I	○	-	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	中国、南ヨーロッパ、西アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネ生息地に侵入した場合競合するおそれがある。また、本属に含まれる種は他のテナガコガネ類に比べて高緯度地域でも生息可能なため、九州以北の地域においても樹洞を利用する他の昆虫に影響を与えるおそれがある。	①特定外来、④各県リスト:長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gtscrch/(輸入規制・規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	定着理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性	生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散															
										生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖			気候	人体	経済産業	利用												
7	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)	定着防止外来種		特定外来生物	コガネムシ科	テナガコガネ属(ヤンバルテナガコガネを除く。)	Cheirotonus spp.	I	○	-	◎	◎	-	-	-	○	○	-	-	○	-	東南アジア原産。	-	森林。	かつて、ペットとして生体が流通していたことがあった。 現在は標本が売買されているものの、生体の販売は確認されていない。 現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。展示等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	昆虫愛好家からの人気は非常に高く、標本の取引が頻繁に行われている。 野外への導入・定着の記録は今のところ確認されていないものの、沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネ生息地に侵入した場合には、生息場所を巡って競合が生じるおそれがあることに加え、近縁種であることから交雑による遺伝的かく乱が生じるおそれがある。	①特定外来④各県リスト・長崎	荒谷(2003a)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制・規制無、備考:属で非有害と判定、外来生物法での規制有)	-	
8	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	コガネムシ科	外国産カプトムシ(サイカブトを除く。)	Dynastinae Gen spp.	I	○	◎	○	-	-	-	-	○	○	-	-	◎	-	世界に広く分布。	-	森林や農耕地、里山、都市部等多様な環境に生息。	ペットとして多様な種が輸入されている。 現在でも多様な種が販売されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	ペットとして広く一般に流通している。 野外への定着はまだ確認されていないが、飼育個体の脱走による野外での発見が定期的に報告されるため、注意が必要である。野外に逸出した場合、在来カプトムシとの交雑や競合による生態影響が懸念されている。	④各県リスト:茨城、群馬、東京都、東京、長崎、宮崎、沖縄、⑤その他	荒谷(2003b)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩田(2022)	-	-	外為法(サタンオオカブト・Dynastes satanas)がワシントン条約付属書IIに掲載) 植物防疫法(一部が、法第五條の二(検査有害動物)第一項の農林水産省令で定める有害動物又は有害植物) 植物防疫法(コガネムシ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(検査結果177件のうち、26件が輸入規制・規制有)	-	
9	未定着	定着防止外来種		特定外来生物	アリ科	コカミアリ	Wasmennia auropunctata	I, III	○	○	◎	-	◎	-	○	○	-	◎	◎	-	○	中南米原産。 中米～フロリダ以南、アフリカ、ガラパゴス、ニューカレドニア等太平洋諸島、台湾、中国に外来分布。	-	森林、草地、農耕地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	港道のコンテナヤードでの確認事例のほか、空港の植物検疫での確認事例がある。 海外では、野生動物へ被害を与えたとともに、人や家畜への刺傷被害の他に、イエネコやイヌを失わせたとの事例もある。	①特定外来、②W100・IUCN、③GISD、④各県リスト:栃木、群馬、東京、岐阜、徳島、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、寺山(2024)	環境省:岡山県水島港 国際コンテナターミナルにおけるコカミアリの確認について https://www.env.go.jp/press/press_01905.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制・規制無、備考:外来生物法での規制有)	-	
10	未定着	定着防止外来種		特定外来生物(要緊急対処特定外来生物)	アリ科	ホクベイヒアリ	Solenopsis xyloni	I, III	○	○	◎	-	◎	-	-	○	-	◎	◎	-	○	北米原産。	-	亜熱帯～暖温帯の草地等比較的開けた環境と思われる。	利用に関する情報は得られなかった。	-	岩手県に運ばれた貨物から確認された事例がある。 アメリカでは、他の在来アリの巣が侵襲された例が報告されている。南北アメリカ各地でアカカミアリとの間で交雑が確認されている。	①特定外来(要緊急対処)	寺山(2022)	環境省:要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiai.html 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hianboujo.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	
11	未定着	定着防止外来種		特定外来生物(要緊急対処特定外来生物)	アリ科	ヒアリ(アカヒアリ)	Solenopsis invicta	I, III	○	◎	◎	-	◎	-	◎	○	-	◎	◎	-	◎	南米原産。 オーストラリア、北米、台湾、中国南部等に外来分布。	-	亜熱帯～暖温帯の草地等比較的開けた環境。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。研究機関において、学術研究の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	2017年以降、港湾部で多数確認、防除が実施されている。女王アリの確認事例もあるが、現時点では定着は確認されていない。 他のアリ類を駆逐するだけでは不十分で、集団で攻撃して多くの節足動物、地上生の両生類、爬虫類、小型哺乳類が減少することが知られている。北アメリカでは本種の刺傷によるアナフィラキシーショックでの死亡例が確認されている。	①特定外来(要緊急対処)、②W100・IUCN、③GISD、④各県リスト:茨城、栃木、群馬、東京都、千葉、岐阜、長崎、滋賀、京都、大阪、兵庫、徳島、香川、高知、長崎、熊本、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、寺山(2018a)	環境省:要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報(ヒアリの全国確認情報) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiai.html 【URL取得日:2025年11月27日】	環境省:要緊急対処特定外来生物 ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hianboujo.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	

総合対策外来種(定着)

防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)

12	定着初期/限定分布	防除推進外来種			マルカイガラムシ科	ソテツシロカイガラムシ(OAS)	<i>Aulacaspis yasumatsui</i>	IV	-	-	○	-	◎	○	○	-	○	◎	東南アジア原産。中国南部、香港、ベトナム、シンガポール、台湾、ニューギニアランド、グアム、コロンビア、ペルー、インド諸島、フロリダ、ハワイ、テキサス等の世界に広く外来分布。	奄美大島、喜界島、沖縄島。	ソテツ自生地、ソテツ園地。	利用に関する情報は得られなかった。	-	ソテツを加害する。ソテツに伴って移動するおそれがあるため、生息確認地域からのソテツの移動には十分な注意が必要。奄美大島のソテツがウェブのフリーマーケットサイトに出品されていたこともある。 なお、奄美大島と沖縄島のソテツシロカイガラムシの個体群にはDNA配列の違いが認められるという報告もあるとされる。	④各県リスト・鹿児島、沖縄、⑤農林水産省、地方環境事務所、地方公共団体	川口ほか(2024)、辻本(2023)、辻本ほか(2024)、田中・紙谷(2025)	沖縄県:ソテツを加害するカイガラムシの防除方法 https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/project-s/default_project/_page_001/005/044/kai-garamushi.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	植物防疫法(マルカイガラムシ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-			
13	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	④	特定外来生物	カミキリムシ科	クビアカツヤカミキリ	<i>Aromia bungii</i>	I	-	-	○	-	○	○	-	-	◎	-	中国、朝鮮半島、ベトナム北部原産。	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、岡山、徳島、香川。	公園や市街地の街路樹。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されている。 特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	2012年に国内で確認されて以来、全国各地に次々と分布を拡大している。 ウメ、サクラ、モモ、スモモでの被害が確認されており、分布の拡大が進むと、景観被害や農作物被害だけでなく、被害樹の落枝や倒木による人的被害が発生するおそれがある。 また野生に逸出した場合、ヤマザクラ等の在来サクラ属植物にも影響が生じるおそれがある。	①特定外来、④各県リスト・茨城、栃木、群馬、東京、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、徳島、香川、高知、長崎、沖縄	岩田(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)、国立環境研究所侵入生物データベース	大阪府:大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画 https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/20300/kubiakakeikakur4pdf.1.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	大阪府立環境農林水産総合研究所:クビアカツヤカミキリ被害対策の手引き書 https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/kubiaka_tebiki_nosuiken.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	森林総合研究所:クビアカツヤカミキリの防除法 https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chuukiseika12.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	※その他、複数の地方公共団体のWebサイトにて種の同定方法や防除方法が掲載されている。	植物防疫法(法第二十二条[定義]第一項の農林水産大臣の指定する有害動物又は有害植物) 植物防疫法(カミキリムシ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-
14	定着初期/限定分布	防除推進外来種	④	特定外来生物	カミキリムシ科	サビイロクワカミキリ	<i>Apriona swainsoni swainsoni</i>	I, III	-	-	○	-	○	○	-	-	○	-	インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、中国、朝鮮半島等原産。	福島。	市街地の街路樹。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されている。 特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュを加害し、枯損させる事例が確認されている。 街路樹等の植栽樹が加害されることで、景観への悪影響等の被害を引き起こす他、市街地等公共の場においては被害木の枯損や落枝による二次的な人的被害が発生する危険性がある。 その他、森林域に定着した場合、樹生や森林生態系への悪影響が懸念される。	①特定外来④各県リスト・福島、群馬、東京、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、長崎、沖縄	武藤ほか(2022)、国立環境研究所侵入生物データベース	福島県:郡山市東山公園における「サビイロクワカミキリ」の防除について https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/54/88110.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	植物防疫法(カミキリムシ科として、植物防疫法施行規則表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	定着理由	評価項目										日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症	
									定着可能性	生態系被害					分布拡大	重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散												
										生物	導入	競合	交雑	捕食摂食																生態系改変
15	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	④	特定外来生物	カミキリムシ科	ツヤハダゴマダラカミキリ	Anoplophora glabripennis	I, III											中国、朝鮮半島北部原産。ヨーロッパ、北米に外来分布。	福島、栃木、茨城、群馬、埼玉県、神奈川県、長野県、富山、岐阜県、愛知、滋賀、兵庫、山口。	公園や市街地の街路樹、果樹園(カンキツ類)等。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されている。特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	カエデ属、トチノキ属、カバノキ属、ハコヤナギ属、ヤナギ属、ハンノキ属等の多様な在来植物を加害することが知られている他、リンゴやナシ、柑橘類等の産業利用される植物に対しても被害をもたらす可能性が示されている。また、在来ゴマダラカミキリと交尾行動をとることが報告されていることから、分布域の拡大による遺伝的かく乱を引き起こすおそれがある。	①特定外来、②W100: IUCN、③GISD、④各県リスト: 福島、茨城、栃木、群馬、東京、岐阜、大阪、兵庫、長崎	横原(2002)、森林総合研究所(2022)、国立環境研究所: 入生物データベース	林野庁: 令和4年度ツヤハダゴマダラカミキリによる被害や防除方法等に関する調査事業実施報告書(概要) https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/attach/pdf/sonota-5.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】	※その他、複数の地方公共団体のWebサイトにて種の同定方法や防除方法が掲載されている。	植物防疫法(法第五条の二〔後発有害動植物〕第一項の農林水産省令で定める有害動物又は有害植物) 植物防疫法(カミキリムシ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制規制有)	
16	分布拡大期～まん延期(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除推進外来種	①	特定外来生物	タテハチョウ科	アカボシゴマダラ(奄美亜種を除く。)	Hostina assimilis	I											中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨、長野、岐阜、静岡県、愛知、京都、大阪、奈良。	都市、里山等。	生体の利用に関する情報は得られなかったが、ウェブサイト等において標本が取引されている。かつて愛好家により飼養されていた実績がある。現在は、特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	日本に定着しているのは、名義タイプ亜種の Hestina assimilis assimilis と考えられる。また、近年与那国島で台湾亜種の確認記録がある。在来アカボシゴマダラ奄美亜種との交雑が可能であるため、人為的に導入しないよう注意が必要である。	①特定外来、④各県リスト: 北海道、福島、茨城、栃木、群馬、東京、千葉、神奈川、長野、岐阜、静岡県、愛知、長崎、沖縄	環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)(2015)、自然環境研究センター(編著)(2019)	-	植物防疫法(法第二十二條〔定義〕第一項の農林水産大臣の指定する有害動物又は有害植物) 植物防疫法(タテハチョウ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法(植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物から除かれる有害動物)		
17	定着初期／限定分布	防除推進外来種	②③		アリ科	ツヤオオズアリ	Pheidole megacephala	I, II											熱帯アフリカ原産。世界中の熱帯、亜熱帯に外来分布。	東京、鹿児島島、小笠原諸島、硫黄列島、奄美群島、沖縄諸島、大東諸島、宮古列島、八重山列島。	裸地、サトウキビ畑、海岸等の土中、石下、倒木下に営巣。	利用に関する情報は得られなかった。	-	地域ごとに影響が異なることから、防除に当たっては、侵入した環境ごとに対応を検討する必要がある。南西諸島では島ごとに影響も異なり、沖縄本島での影響は特に小さい。小笠原諸島において、陸産貝類の捕食等が大きな問題となっており、海洋島での影響が大きいと考えられる。北海道や東京都において侵入事例がある。	②W100: IUCN、③GISD、④各県リスト: 東京、宮崎、鹿児島、沖縄	橋本(編)(2020)	令和6年度小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集(34ページ目) https://ogasawara-info.jp/wp-content/uploads/2025/04/13b22ec33df45a3edd4b57532735384.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)		
18	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①②④	特定外来生物(要緊急対応 特定外来生物)	アリ科	アカカミアリ(ネツタイヒアリ)	Solenopsis geminata	I, III											北米南部～中南米原産。世界各地の熱帯に外来分布。	火山列島硫黄島。その他、南西諸島や沖縄県、伊江島での確認事例がある。	裸地、草地等開放的な空間。	利用に関する情報は得られなかった。	-	沖縄県伊江島の個体群は絶滅した可能性が高い。ヒアリと同じように2017年以降、港清部で多数の確認事例を確認、防除が実施されている。硫黄島では、他のアリ類を駆逐し最後占拠となっている。死亡例は今のところ確認されていないが、重症のアナフィラキシーショックに陥った例が報告されている。	①特定外来(要緊急対応)、③GISD、④各県リスト: 茨城、栃木、群馬、東京、千葉、愛知、滋賀、京都、大阪、山口、徳島、香川、高知、長崎、鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019) 橋本(編)(2020)	環境省: ヒアリの基礎情報 https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/02_general/index.html 【URL取得日: 2025年11月27日】	環境省: 要緊急対応 特定外来生物ヒアリに関する情報(ヒアリの防除に関する基本的考え方) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/file/hiariboujo.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動植物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制シニム属は属単位で規制有)	
19	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①④	特定外来生物	アリ科	アルゼンチンアリ	Linepithema humile	I, III											南米原産。世界に広く外来分布。	神奈川、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、岡山、広島、山口、徳島、愛媛、高知、鹿児島。	日本では港湾や住宅地等、人工的な環境に多い。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	各地で防除活動が行われており、一部地域では根絶事例の他、都道府県単位では東京都と静岡県が根絶を達成した。国内では競争により在来アリの生息数を減少させている。海外でも強い競争力により、他の節足動物等を駆逐する事例が多数報告されている。本種が好む甘露を生産するアブラムシやカイガラムシが保護されることにより、それらの密度が増加し、農作物へ二次的に被害を与えることが報告されている。人家に入り込み、食品にたかる等、不快感として嫌悪されている。	①特定外来、②W100: 日本・IUCN、③GISD、④各県リスト: 群馬、東京、神奈川、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、山口、徳島、香川、高知、長崎、鹿児島、沖縄	田付(編)(2014)、寺山(2018)、自然環境研究センター(編著)(2019)	静岡市の根絶事例 https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60090_shizuoka_houdou.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】	※その他、環境省、複数の地方公共団体のWebサイトに実施している事業が掲載されている。	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動植物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制シニム属は属単位で規制無)	
20	定着初期/限定分布	防除推進外来種	①②		アリ科	アシナガキアリ	Anoplolepis gracilipes	I, II											アフリカ又は熱帯アジア原産。	南西諸島、火山列島硫黄島。	石下や土中に営巣する。沖縄では林縁や草地、路傍に生息。	ペットとして飼養されており、ウェブサイト等で生体がコロニー単位で販売されていることもある。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	現時点では原産地の情報は諸説あり、正確な原産地は判明していない。南西諸島では島ごとに影響も異なり、沖縄本島での影響は特に小さい。なお、南大東島では一部鳥類への被害事例があり、海洋島での影響が大きい可能性がある。地域ごとに影響が異なることから、防除にあたっては、侵入した環境ごとに対応を検討する必要がある。	②W100: IUCN、③GISD、④各県リスト: 鹿児島	橋本(編)(2020)、原田ほか(2017)	鹿児島新港と谷山港に侵入し、防除が行われた事例がある。 原田ほか(2020)鹿児島県本土で初確認された侵略的外来種アシナガキアリ https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044_044-003.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制規制有)		
21	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①④	特定外来生物	アリ科	ハヤトゲフシアリ(ブラウジングアント)	Lepisiota frauenfeldi	I											南ヨーロッパ原産。地中海～中近東、マダガスカル、インド、オーストラリア、グアム、マレーシア、東チモールに外来分布。台湾からも標本が得られている。	東京、神奈川、静岡、愛知、大阪、兵庫、和歌山、福岡、鹿児島。	乾燥した土中や石下に営巣。	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されている。学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	国内の港湾周辺において確認事例が複数ある。2026年に沖縄県で国内初の根絶宣言がなされた。海外では在来スズメバチより優占する事例が確認されており、国内ではキロスズメバチが繁殖干渉を受けていることが示唆されている。また、捕食者として、在来昆虫類への影響が懸念されている。海外の事例では人の刺傷被害や死亡事例がある。	①特定外来、④各県リスト: 東京、岐阜、滋賀、大阪府、徳島、香川、高知、長崎、熊本、宮崎、沖縄	橋本(編)(2020)、寺山(2017)	環境省沖縄奄美自然環境事務所: 沖縄県における特定外来生物ハヤトゲフシアリの根絶について 一 産学官連携の取組により成功 https://kyushu.env.go.jp/okinawa/press_00135.html 【URL取得日: 2026年3月23日】	植物防疫法(アリ科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動植物) 植物防疫法による生きた昆虫・微生物などの輸入規制について http://www.pps.go.jp/r/gltarch/(輸入規制シニム属は属単位で規制無)		
22	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①④	特定外来生物	スズメバチ科	ツマアカスズメバチ	Vespa velutina	I, III											南アジア～東南アジア～中国南部原産。韓国、フランス、スペイン、ポルトガル、ベルギー、イギリス、スイス、オランダ、ルクセンブルグ、アメリカ、ニュージーランドに外来分布。	対馬。	森林、農耕地、住宅地。春は土中等に営巣するが、夏以降は高所に営巣することが多い。	利用に関する情報は得られなかった。	-	日本に定着しているツマアカスズメバチは亜種 V. v. nigrithorax。2015年に北九州市、2016年に日南市、2017年及び2018年に香崎市、2018年に大分市、2020年に防府市、2022年に福岡市、糟屋郡久山町、篠栗町で確認されたことがあるが、対馬以外での定着は確認されていない。海外では在来スズメバチより優占する事例が確認されており、国内ではキロスズメバチが繁殖干渉を受けていることが示唆されている。また、捕食者として、在来昆虫類への影響が懸念されている。海外の事例では人の刺傷被害や死亡事例がある。	①特定外来、④各県リスト: 東京、岐阜、滋賀、大阪府、徳島、香川、高知、長崎、熊本、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、九州地方環境事務所(2023)	環境省九州地方環境事務所: これまでの確認状況と対策 https://kyushu.env.go.jp/wildlife/mat/m_2_2.00001.html 【URL取得日: 2025年11月27日】	環境省九州地方環境事務所: ツマアカスズメバチ防除計画(令和5年改定) https://kyushu.env.go.jp/content/000129566.pdf 【URL取得日: 2025年11月27日】		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	逆定理由	評価項目															原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性	生態系被害					分布拡大	特に問題となる被害	逸出・拡散																		
										生物	導入	競合	交雑	捕食摂食			生態系改変	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用												
23	定着初期/限定分布	防除検討外来種	②④		スズメバチ科	クロスズメバチ大陸亜種	Vespula flavicoeps flavicoeps	II, III, IV				○	◎	○	-	○	○	○	◎	○	-	○	インド北部～中国、樺東ロシア、朝鮮半島原産。	沖縄島。	森林～住宅地。土中や家屋の下見板の間に営巣する。	利用に関する情報は得られなかった。	-	2021年に沖縄島で初めて確認された。2025年までに全てのカースト(女王バチ、雄バチ、働きバチ)が確認されており、定着していると考えられる。本種が含まれるクロスズメバチ属は沖縄島には分布していないが、種子島以北に日本亜種が広く分布するため、日本亜種の生息地に定着した場合、大きな影響を与えると考えられる。	⑥その他	名高・山根(2021)、高橋・佐賀(2026)、寺山・盛口(2026)、渡辺ほか(2021)	-	-	-	-	
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																			
24	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			カマキリ科	ムネアカハラビロカマキリ	Hierodula chinensis	IV				◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	◎	中国大陸原産と考えられている。韓国に外来分布。	東北～九州、対馬。	比較的明るい草原や林縁。	生体や標本がウェブサイト等で販売されたことがある。研究目的や愛好家による飼養の可能性があるほか、在来ハラビロカマキリと混同され飼養されている可能性もある。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	中国から輸入された竹ぼうきに卵のうが付着していた事例がある。在来種ハラビロカマキリとの混交が懸念される。岐阜県等から確認された個体はH.chinensisとされる。本属には類似した特徴を持つ種が存在し、胸部の色と前脚の棘という限られた特徴に基づいて本種と判断することは困難であることが指摘されており、Hierodula sp.として報告されているケースも多い。	④各県リスト:福島、茨城、群馬、東京、千葉県、岐阜、愛知、京都、鹿児島⑤地方環境事務所	苅部・加賀(2019)、Yamasaki et al.(2022)、Ioka et al.(2026)	-	-	-	-	
25	定着初期/限定分布(小笠原・南西諸島で特に注意)	防除検討外来種			コガネムシ科	サイカブト(タイワンカブト)	Oryctes rhinoceros	II				○	-	◎	-	○	◎	◎	-	◎	○	○	東南アジア原産。	トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、八重山諸島、大東諸島、大東諸島。	農耕地、堆肥場。	ウェブサイト等で生体や標本が売買されている。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	野生下で捕獲されているヤシ類を食害するため、沖縄県や奄美群島では道路沿いや公園等に捕獲されたヤシが大きな被害を受けている。また、南大東島ではヒサマツサイカブトとの混交が懸念されているが、実態は不明。	③GISD、④各県リスト:東京、京都、香川、鹿児島、沖縄、⑤地方環境事務所	片野田・谷口(1997)、佐藤・伊藤(2003)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本列島昆虫全目録	沖縄県:沖縄県外来種対策行動計画に基づくサイカブト(タイワンカブトムシ)防除計画 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/001/004/820/05-10saikabuto.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
26	定着初期/限定分布	防除検討外来種			コガネムシ科	シロテンハナムグリ台湾亜種(サカイシロテンハナムグリ)	Protaetia orientalis sakaii	I				○	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	○	台湾原産。	奄美大島、沖縄諸島、宮古島列島、八重山列島、大東諸島。	林道、農地環境。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されているが、生体の販売は確認されていない。	-	イシガキシロテンハナムグリやリュウキウオオハナムグリとの交雑による遺伝的かく乱や混交が懸念されている。	④各県リスト:東京、福岡、長崎、鹿児島、沖縄	楠井(2005)、野林(2004)、自然環境研究センター(編著)(2019)、日本列島昆虫全目録	-	-	-	-	
27	定着初期/限定分布	防除検討外来種			オサゾウムシ科	カンショオサゾウムシ	Rhabdoscelus obscurus	I, II, III				-	-	◎	-	-	○	◎	-	◎	-	-	原産地不明だが、ニューギニアと考えられる。	小笠原諸島、大東諸島。	サトウキビやヤシ類。	利用に関する情報は得られなかった。	-	世界的にサトウキビの害虫として知られている他、トウモロコシやパイナップルの農作への被害も報告されている。小笠原諸島において、固有種のノヤシに被害を受けている他、大東諸島ではビロロに被害を出している。若齢のノヤシは枯死することが多い。	②W100:日本、④各県リスト:長崎、沖縄	苅部ほか(2007)、苅部ほか(2008)、自然環境研究センター(編著)(2019)、国立環境研究所侵入生物データベース	-	-	-	-	
28	定着初期/限定分布	防除検討外来種			ハムシ科	フェモラータオオモモボトハムシ	Sagra femorata	IV				-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	○	東南アジア、中国南部、インド墨大陸、ジャワ島原産。台湾、韓国に外来分布。	千葉、三重、愛知、兵庫、大阪。	河川沿いや都市公園内の草本群落(クズ)。	ウェブサイトや標本商により、本種の標本が売買されているが、生体の販売は確認されていない。	-	クリーンセンター周辺のクズ群落で多くの個体が確認されることから、生息地の除草作業等により生じたゴミに混入して分散している可能性が高い。これまで国内から報告はないものの、園芸植物であるフジや栽培品種を含むブドウ科、マタビ科等の在来する性木本植物を加害する可能性がある。	④各県リスト:茨城、群馬、東京、愛知、三重、愛媛、長崎、沖縄	秋田ほか(2010)、苅部ほか(2011)、茂谷・宮武(2011)、自然環境研究センター(編著)(2019)、安藤ほか(2025)	-	-	-	-	
29	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			アゲハチョウ科	ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	Sericoius montela	IV				◎	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	中国、朝鮮半島、ロシア南東部原産。	東北～九州。	河川敷、農耕地等。	生体の利用に関する情報は得られなかったが、ウェブサイト等で標本が取引されている。かつて愛好家により飼養されていた実績があり、現在もその可能性がある。	逸出には十分注意し、放出しないこと。	飛翔力が乏しい種だが、1978年に東京都で最初に確認されて以来、その後人も人為的に分布を拡大し、各地で記録されている。食草が同じであるジョウチュウアゲハとの混交が懸念される。	④各県リスト:茨城、群馬、東京、神奈川、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫県、奈良、山口、徳島、福岡、長崎、熊本、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、日本チョウ類保全協会編(2019)	-	-	-	-	
30	分布拡大～まん延	防除検討外来種			アリ科	アシジロヒラフシアリ	Technomyrmex brunneus	IV				○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	○	原産地の詳細は不明。インド、スリランカからインドシナ半島、台湾インドネシア、マレーシア、中国、ニューギニア、朝鮮半島に分布。	本州、四国、九州、八丈島、小笠原諸島、南西諸島。	比較的乾燥した草地や林縁にみられ、切り株や朽ち木、枯れ枝等に営巣する。	利用に関する情報は得られなかった。	-	八丈島においては特に問題となっており、食品加害等に加え、家財や電気設備の破壊などが生じている。和歌山県と静岡県では確認事例があるものの、定着しているかは不明。	④各県リスト:東京、宮崎、鹿児島、⑤地方環境事務所、⑥その他	小林ほか(2024)	東京都八丈町:八丈町、都立大学および森林総研によるアシジロヒラフシアリの防除プログラムに関するプレスリリースについて https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/jyumin/jyumin_ari.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-
31	定着初期/限定分布	防除検討外来種			スズメバチ科	チャイロネッタイスズメバチ	Delta pyriforae	IV				-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	○	東南アジア、南太平洋諸島原産。	小笠原諸島。	森林～住宅地。	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原諸島に定着している個体群の亜種は特定されておらず、侵入元は不明である。繁殖期の幼虫を捨てることから、固有のチョウ類やガ類への影響が懸念される。知見の集積が必要。	④各県リスト:長崎、沖縄⑥その他	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
32	定着初期/限定分布	防除検討外来種			スズメバチ科	ナンヨウチビアシナガバチ	Ropalidia marginata	IV				-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	○	東南アジア、マリアナ諸島原産。	火山列島硫黄島。	森林～林縁等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	硫黄島では島全体に広く分布する普通種となっている。アシナガバチ類は一般に高い捕食力を有しており、在来昆虫に影響を及ぼす可能性が懸念される。知見の集積が必要。	④各県リスト:長崎、沖縄⑥その他	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-	
産業管理外来種(適切な管理が必要な産業上重要な外来種)																																			
33	定着初期/限定分布	産業管理外来種		特定外来生物	ミツバチ科	セイヨウオオマルハナバチ	Bombus terrestris	I				◎	○	-	-	-	○	○	◎	-	◎	-	ヨーロッパ原産。北米、オーストラリア、イスラエルに外来分布。	北海道。	林縁、草地、農耕地等。	ハウス内の作物の授粉用の農業資材として、許可を受けた農家・事業者のみが利用している。なお、本州・四国・九州(奄美以南と島しょ部を除く)については、継続許可のみとなり新規利用は認められておらず、2022年からは規模拡大(飼養数を増やすこと)は認められていない。	ハウスへのネット・展張等の管理等、逸出しないよう厳格に管理を行うこと。	在来マルハナバチと餌資源や営巣場所の競合が起きていると考えられる。実験室内では在来マルハナバチの巣を襲って取る例も確認されている。また、在来マルハナバチとの交雑が野で確認されている。北海道でのみ継続的な繁殖が確認されている。本州から沖縄までセイヨウオオマルハナバチが確認された事例はあるものの、定着は確認されていない。	①特定外来、②W100:日本、④各県リスト:北海道、青森、福島、茨城、群馬、東京、千葉県、長野、静岡県、滋賀、京都、兵庫、高知、長崎、熊本、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	北海道生物多様性保全活動連携支援センター https://www.heco-spc.or.jp/HoBICC/action/page02.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(昆虫類)>
【国内由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	--

※ 掲載の順番は、分類の並びとし、原則日本昆虫目録に従った。なお、日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。
※ 調査等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2028.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																自然分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域		人体	経済産業	利用	付着混入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
総合対策外来種(定着)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
1	国内由来の外来種	防除推進外来種	①②③		ホタル科	沖縄島のヤエヤマドボタル(オオシママドボタル)	<i>Pyrocoelia atripennis</i>	I, II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域		人体	経済産業	利用	付着混入														
防除検討外来種 (被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																				
11	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			イトグモ科	イトグモ	<i>Loxosceles rufescens</i>	Ⅲ			-	-	-	-	-	○	-	◎	-	-	◎		地中海沿岸地方原産。アメリカ、メキシコ、ペルー、マカオ、セントヘレナ、南アフリカ、インド、中国、韓国、ラオス、タイ、フィリピン、オーストラリア、ハワイに外来分布。	本州、四国、九州、南西諸島。	住宅地。	利用に関する情報は得られなかった。	-	過去には在来種として扱われていたが、近年の研究から外来種であることが明らかとなった。人への咬傷被害も確認されている。	④各県リスト:東京、⑤専門家にアリング結果	小野(編著)(2009)、新海(編著)(2017)、Taucare et al.(2018)、森戸(2017)、Blick et al.(2025)、Nentwig et al.(2017)	-	-	-	-		
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヤケヤスデ科	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>	Ⅳ			○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○		台湾原産と考えられる。	栃木、埼玉、東京、神奈川、静岡県、愛知、三重、奈良、和歌山、徳島、愛媛、高知、長崎、宮崎、鹿児島、伊豆諸島(八丈島、青ヶ島)奄美群島、沖縄島。	住宅地、農地、里地・里山の環境。	利用に関する情報は得られなかった。	-	大量発生し不快害虫となる他、防除の際に接触などの刺激を与えると、シアン化合物などを含む臭気を含むガスを発生させ、大量に吸い込むと頭痛や下痢、吐き気といった症状が出ることもある。鹿児島県では、異常発生した本種がレール上を覆い列車がスリップして運転が停止する被害が報告されている。在来種のヤスデ類を排除している可能性が示唆されている。知見の集積が必要。	④各県リスト:茨城、東京、滋賀、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	藤山(2009)、石田・藤山(2010)、新島(2002)、江口ほか(2022)、奥村・松尾(2023)、神谷(2023)、千代田・八尾(2024)、自然環境研究センター(編著)(2019)	東京都八丈町:ヤンバルトサカヤスデの防除対策について https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/jyumin/yasudetaisaku.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 沖縄県:ヤンバルトサカヤスデの多発事例とその対策 https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/006/581/s20_62-72.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 その他、多数の地方公共団体のWebサイト上にて、防除に関する情報が掲載されている。	東京都八丈町:ヤンバルトサカヤスデの防除対策について https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/jyumin/yasudetaisaku.pdf 【URL取得日:2025年11月27日】 鹿児島県HP:ヤンバルトサカヤスデの防除対策 https://www.pref.kagoshima.jp/ad03/kuras-hi-kankyo/recycle/ppan/yasude/yasude_taisaku.html 【URL取得日:2025年11月27日】	-	-	-	-

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	進出・拡散															
									生物	導入	競合	交雑	捕食・捕食	生態系改変	繁殖	気候			人体	経済産業	利用	付着・侵入												
10	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種	①②③	特定外来生物 (条件付)	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	I															米国南部原産。メキシコ、ドミニカ、ヨーロッパ等に外来分布。	全国。	湿地、水田とその周辺等	ペットとして多数飼養されている。かつては食用ウシガエルの餌として輸入された。 なお、飼養等は規制されない条件付特定外来生物に指定され、輸入及び販売は規制されている。	進出には十分注意し、放出しないこと。	陸水生態系に大きな影響を及ぼしていることが知られている。 侵入した池・湖では水草を切断することで水生植物群落を壊滅させ、そこに生息する小動物と競合又は捕食することによって在来生態系に甚大な被害を及ぼしている。 2022年に飼育等は規制されない条件付特定外来生物に指定され、輸入及び販売は規制された。なお、現在でも全国各地で、多数が定着して野外での繁殖も確認されている。	①特定外来、②日本、③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、東京、神奈川県、石川、石川、長野、岐阜、静岡県、愛知県、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	農水省：外来生物駆除手法等検討調査業務 https://www.kkj.go.jp/d/7Ljsa&A=Z292N9tYVZmLWlnva3VyaWt1LzlwMjUwMjAyNTAzMDVMdA1ODIMDEucGRmGg==【URL取得日：2025年11月28日】 環境省：アメリカザリガニ対策の手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/r_amezari_tebiki2.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	環境省：アメリカザリガニ防除マニュアル https://hokkaido.env.go.jp/content/000175750.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	
防除検討外来種(被害の大きさが防除検討外来種には及ばないもの)																																		
11	定着初期／限定分布	防除検討外来種			クルマエビ科	コウライエビ(タイショウエビ)	<i>Penaeus chinensis</i>	I、III															渤海、黄海に分布。 有明海で放流種育苗の産卵が確認された他、瀬戸内海で放流種育苗が再捕獲された。	産卵場は泥底。かつて、有明海では放流事業が行われていた。	かつて、有明海では放流事業が行われていた。	導入、遺棄、放逐をしないこと。	渤海・黄海産の本種が輸入・放流されており、有明海(佐賀県)では1998～2006年に本種の放流事業に別して太良町による予算が付いている。在来クルマエビとの競合や交雑の可能性が高く、在来資源を圧迫・変質させる可能性がある。	⑤検討委員	丸山ほか(1987)、大森(2022)、北田(2016)、池本ほか(1967)、池本(1967)	-	-	-		
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			テナガエビ科	チュウボクスジエビ	<i>Palaemon sinensis</i>	IV															中国、ロシア樺太(サハリンを含む)等原産。	本州、四国、九州。 ため池等。	釣り餌として利用されている。	進出には十分注意し、放出しないこと。	旧学名： <i>Palaemonetes sinensis</i> 。河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、在来スジエビへの影響が懸念される。	④各県リスト：茨城、群馬、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、兵庫、和歌山、福岡、長崎、沖縄、⑤検討委員	内田ほか(2021)、今井ほか(2021)、斉藤ほか(2017)	環境省 カワバタモロコの保全の手引き https://www.env.go.jp/content/000134518.pdf【URL取得日：2025年11月28日】 ※捕獲・駆除：外来種対策(アメリカザリガニ、スジエビ類)PDFp.23	-	-	-	
13	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ワタリガニ科	チチュウカイミドリガニとヨーロッパミドリガニの雑種	<i>Carcinus aestuarii</i> × <i>Carcinus maenas</i>	IV															地中海、カナリア諸島原産。南アフリカに外来分布。 東京湾、駿河湾、浜名湖、三河湾、伊勢湾、大阪湾、徳島県、瀬戸内海、東部、中部、南海湾。	河口～内湾の岩礁、潟、塩性湿地。繁殖期は沖合いへ移動。	利用に関する情報は得られなかった。	-	日本に定着しているチチュウカイミドリガニとヨーロッパミドリガニとの雑種であるとの報告がある。在来種タカマガサワガニ・ <i>Hemigrapsus takamagai</i> と食物および棲息場所をめぐって競合関係にあることが明らかとなった。	②W100：日本④各県リスト：茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、兵庫、和歌山、福岡、長崎、沖縄、⑤検討委員	自然環境研究センター(編著)(2019)、土井他(2009)、Doi et al.(2009)、Darling et al.(2008)、岩崎ほか(2025)	-	-	-		
14	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Orangonyx floridanus</i>	IV															北米原産。 北海道、本州、四国、九州。	小河川から大河川の中流下流域から止水まで幅広い止水環境に生息。	利用に関する情報は得られなかった。	-	侵入後20年程度で日本各地に分布を拡大した。ペットショップで販売されているホテイアオイから検出されている。本種の侵入地で他種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。知見の集積が必要。 観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があり迅速発生で定着しやすいため、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県リスト：福島、茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	金田ほか(2007)、倉西ほか(2009)、東城(2009)	-	-	-		
15	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	III															太平洋西部原産とする説があるが詳細不明。世界に広く分布。 全国的沿岸。	内湾の岩礁、港湾。	利用に関する情報は得られなかった。	-	在来フジツボを被覆して内湾の潮間帯の帯状分布を大きく改変する。船舶、発電所、工場等の取水施設や養殖カキに付着し、汚損被害を引き起こす。	④各県リスト：茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	Mori, & Tanaka(1989)、森(2006)、自然環境研究センター(編著)(2019)、山口(2009)	-	-	-		
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>	IV															北～中米の大西洋沿岸原産。世界の温暖な沿岸域に外来分布。 本州以南の沿岸。	内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	各地の養殖業の現場において、養殖カキ等水産物や漁具に付着し、汚損・漁労被害を引き起こす。	④各県リスト：茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	山口(1989)	-	-	-		
17	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	IV															北～南米の大西洋沿岸原産。東アジア、ヨーロッパ、北米西部沿岸に外来分布。 本州以南の沿岸。	内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	各地の養殖業の現場において、養殖カキ等水産物や漁具に付着し、汚損・漁労被害を引き起こす。	④各県リスト：茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知県、京都、兵庫、和歌山、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	山口(1989)	-	-	-		
18	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	キタアメリカフジツボ	<i>Balanus glandula</i>	IV															北米の太平洋沿岸原産。南米に外来分布。 北海道、東北沿岸。	潮間帯の上部～下部。	利用に関する情報は得られなかった。	-	潮間帯の中部で濃密に生息することから、そこに付着する在来の固着生物を駆逐することがある。	④各県リスト：北海道、茨城、東京、長崎、沖縄	加戸(2006)、加戸(2017)、Kado & Narba(2006)	-	-	-		
19	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	ナンオウフジツボ	<i>Perforatus perforatus</i>	I、III															イギリス南部～西アフリカ、地中海原産。 北海道奥尻島～富山県魚津漁港、岩手県宮古湾～宮城県志津川湾清水浜漁港。	潮間帯下部～潮下帯表層部。	利用に関する情報は得られなかった。	-	原産地の水温を考慮すれば、北陸以北の日本海側と福島県以北の東北・北海道太平洋岸に定着する可能性が高い。棲息域は潮間帯下部から潮下帯上部であり、在来フジツボ類・管棲多毛類と付着場所を巡って競合関係にある。サザエ、イワガキにも高密度で付着するため、漁獲物への汚損被害や漁労被害を発生させるおそれがある。マガキ・ホタテ養殖業への汚損被害や漁労被害を発生させる可能性もある。	④各県リスト：福岡、⑤検討委員	加戸(2017)、Kado & Narba(2016)、岩崎ほか(2025)	-	-	-		
20	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			フジツボ科	ココボーマアカフジツボ	<i>Megabalanus oococopoma</i>	I、III															メキシコ～エクアドル原産。ブラジル、米国、ヨーロッパの大西洋岸に外来分布。 本州、四国、九州。	潮下帯表層部の岩礁、魚網、ブイ、船舶船体。	利用に関する情報は得られなかった。	-	潮下帯の岩礁に固まって生息するほか、漁業用の浮きや船路ブイ、船舶の船体にも付着。大型のフジツボであるため、漁網・漁具や灯浮標等への汚損が著しく、漁労被害が生じている。内湾から外海にまで棲息できる広域性と連年に及ぶ繁殖期及び幼生の定着期を持つという、在来種のオオアカフジツボやアカフジツボに勝る適応力があるために国内の広域に分布しており、上記の在来フジツボとの競合の可能性が高い。	④各県リスト：茨城、千葉、東京、愛知、和歌山、高知、⑤検討委員	山口ほか(2009)、山口ほか(2011)、山口(2014)、岩崎ほか(2025)	-	-	-		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	定着理由	評価項目														原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症		
									定着可能性		生態系被害				分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																		
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候		重要地域	経済産業	利用	付着混入															
9	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①④	特定外来生物	イガイ科	カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>	I, III				◎	-	-	○	○	○	-	-	◎	-	○	-	中国、朝鮮半島原産。アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイに外来分布。	利根川水系、大塚湖(群馬県)、天竜川、手通川・矢作川(愛知県)、木曾川水系、琵琶湖・淀川水系。	淡水域の岩の裏、水路等。	利用に関する情報は得られなかった。	導入しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている。本種の生息水域における水利用は、分布拡大に直結するため注意が必要。	①特定外来、④各県リスト：茨城、栃木、東京、岐阜、静岡県、滋賀、兵庫、宮崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	農研機構：特定外来生物カワヒバリガイの現状と被害対策 https://www.ktr.mlit.go.jp/ctr_content/content/000743212.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	農水省：カワヒバリガイ被害対策マニュアル https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyohozen/k_hozen/pdf/kawahibarimanual.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	
10	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①		マルスダレガイ科	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	IV				○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	北米東海岸原産。北米西海岸、イギリス、フランス、オランダに外来分布。	東京湾、大阪湾。	内湾の砂泥底。	食用として利用されている。千葉県市川市塩浜地先と船橋市地先では漁業種が設定され食用に漁獲されている。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	東京湾や大阪湾の貧酸素環境でも残存することで在来種を抑えて優占種となる可能性があるほか、他の干潟でもアサリ等二枚貝と競合する可能性があり、放流や海に繋がる場所での畜養は避けるべき。	④各県リスト：北海道、千葉、東京、愛知、京都、和歌山、高知、長崎、沖縄、⑤検討委員	鎌倉・木橋(2005)、木村(2009)、中村ほか(2012)、遠藤・佐々木(2020)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-		
11	定着初期／限定分布	防除推進外来種	①		マルスダレガイ科	シナハマグリなど外国産ハマグリ属(在来のハマグリ、チョウセンハマグリ、トウドウマリハマグリ以外のハマグリ属)	<i>Meretrix petechialis</i> <i>Meretrix</i> spp.	I, III				-	◎	-	-	○	○	-	-	-	○	○	朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム原産。	太平洋側は東京湾以西瀬戸内海まで、日本海・東シナ海側は富山県、福岡県、有明海、鹿児島県。	内湾干潟の砂泥底。	種苗放流や畜養が行われ、食用として利用されている。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	1970年代以降の漁獲量激減に伴い、中国からシナハマグリが放流され在来種と交雑が生じた。東京湾では台湾から <i>M.taiwanica</i> (和名なし)が在来種として導入されたと考えられる。在来ハマグリを保全するためには外来ハマグリ野外導入をやめるべき。愛知県では「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」によってシナハマグリ放流は禁止されている。	②W100：日本、④各県リスト：千葉、東京、愛知、和歌山、香川、愛媛、高知、長崎、鹿児島、沖縄、⑤検討委員	Yamakawa & Imai(2012)、Yamakawa & Imai(2013)、Hsiao & Chuang(2023)、日本生態学会(編)(2020)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-		
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																				
12	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			カリバササ科	シマメノウフネガイ	<i>Orepidula onyx</i>	IV				○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	太平洋東岸原産。	北海道、本州、四国、九州。	潮間帯～水深30mの海域。大型貝類(サザエ・アワビ等)の貝殻や岩に付着。	利用に関する情報は得られなかった。	-	水産利用種のサザエやアワビに付着し、商品価値の低下等を引き起こし、取り除くためのコスト増や環境問題視されている。生態系等への影響については知見の集積が必要。	④各県リスト：北海道、茨城、千葉、東京、静岡、愛知、京都、兵庫、和歌山、香川、愛媛、高知、福岡、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、山崎ほか(2009)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-		
13	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ミズツボ科	コモチカワツボ	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>	IV				○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	ニュージーランド原産。アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアに外来分布。	北海道、本州、四国、九州。	主に砂礫質の小川等の淡水、汽水域からでも報告があり、環境適応性は幅広い。	ホテルの餌として利用され、拡散する事例がある。	導入、遺棄、放逐をしないこと。非意図的な侵入にも留意すべき。	無性生殖で増殖し、繁殖力が極めて強く、非常に高密度で生息している地域が報告されている。知見の集積が必要。カワニナ等の移植による非意図的な導入に留意すべき。	③GISD、④各県リスト：北海道、青森、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、長野、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、香川、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	浦部(2007)、増田ほか(2010)	国土交通省：馬淵川水辺の家校「コモチカワツボ」駆除大作戦！ https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisaya/kisyah/images/31038_1.pdf 【URL取得日：2026年1月6日】	-	-	-	-	
14	定着初期／限定分布	防除検討外来種			オリレヨフバイ科	カラムシロ	<i>Nassarius sinerus</i>	I, III				◎	-	◎	-	○	○	-	-	◎	-	○	中国沿岸原産。韓国に分布。	瀬戸内海、有明海。	干潟。	中国では食用として利用されるが、精神障害、呼吸麻痺による死亡例がある。国内では利用に関する情報は得られなかった。	-	アゲマキやアサリの輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。同所的に生息するウナハムシロやヒロオビヨフバイと競合し、これらの個体群に影響を及ぼす可能性がある。カゴ造などの水産業に大きな被害を与えている他、中国の東シナ海側では食用されることがあるが、精神障害や呼吸麻痺による死亡事例があるため、誤った摂取による人的被害が発生するおそれがある。	④各県リスト：東京、京都、香川、福岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)	-	-	-	-		
15	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			モノアラガイ科	ハブタエモノアラガイ	<i>Lymnaea columella</i>	IV				○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	北米原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア等に外来分布。	本州、四国。	池沼、水路等の止水か半止水的な環境の淡水。	利用に関する情報は得られなかった。	-	在来のモノアラガイとの置き換わりの事例が確認されている。肝蛭等の吸虫類の中間宿主になりうる。知見の集積が必要。観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があり、直達発生で定着しやすいため、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県リスト：北海道、福島、茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、山口、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄	高倉(2008)	-	-	-	-		
16	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			ヒラマキガイ科	ヒロマキミズマイマイ	<i>Monetus dilatatus</i>	IV				○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	北米原産。ヨーロッパに外来分布。	宮城、神奈川県、岐阜、新潟、愛知、石川、滋賀、大阪、兵庫。	河川。	利用に関する情報は得られなかった。	-	河川水辺の国勢調査等により、近年、急速な分布域の拡大が確認され、ハブタエモノアラガイと同様に生態系被害が想定される。観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があり、直達発生で定着しやすいため、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県リスト：愛知、京都、福島、滋賀、福岡、⑤検討委員	河川水辺の国勢調査結果等	-	-	-	-		
17	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			オカクチキレガイ(オカチョウジガイ)科	オオクビキレガイ	<i>Rumina decollata</i>	IV				○	-	○	-	-	◎	-	-	-	○	-	地中海沿岸地域原産。北米、南米、東アジアに外来分布。	本州(関東以西)、九州。	市街地、農耕地でも生息可能。	利用に関する情報は得られなかった。	-	農作物、園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。自家受精で繁殖可能。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県リスト：千葉、東京、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、山口、福岡、長崎、大分、沖縄	松隈・武田(2009)、梅谷(編)(2012)、Frisher et al.(1980)、石田(2020)、愛知県の外来種データベース(2021)(2021)	-	-	-	-		
18	定着初期／限定分布	防除検討外来種			コウラナメクジ科	マダラコウラナメクジ	<i>Limax maximus</i>	IV				○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア等に外来分布。	北海道、本州の一部に導入、定着も確認されている。	都市部、住宅地、農耕地、河川敷等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必要。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。輸入について植物防疫法上の規制あり。	④各県リスト：福島、茨城、群馬、東京、長野、長野、京都、京都、長崎、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤地方環境事務所	Rollo(1983)、Baker & McGhie(1984)	-	-	-	-		
19	分布拡大期～まん延期	防除検討外来種			コハクガイ科	コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	II				○	-	◎	-	-	○	◎	-	-	○	-	北米原産。世界に広く外来分布。	日本全国。	庭園や畑地等。	利用に関する情報は得られなかった。	-	農作物や家庭菜園の植物の食害や観賞用の花卉類、特に高価なラン類の花芽を食害する種として知られている。在来陸産貝類(野外飼育されている在来種や保全種等)の卵を捕食、高密度になり保全に影響を及ぼす。農業用や園芸用の資機材・種苗に混入して分布拡大する可能性があり、留意が必要。	④各県リスト：北海道、茨城、千葉、東京、愛知、滋賀、京都、奈良、鳥取、山口、高知、福岡、宮崎、鹿児島、沖縄、⑤地方環境事務所	ブルーデータブックあいち2012(2012)、樋口ほか(2020)	農林水産省：非検疫有害動物(まん延した場合に有用な植物に被害を与えるおそれがないことが確認されていない有害動物植物から除かれる有害動物植物のPRA報告書 ③第3次改正において追加した非検疫有害動物植物のPRA報告書 https://www.maff.go.jp/j/syoun/keneki/ki-kaku/pdf/3ji_non_quarantine_pest.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	植物防疫法(コウラナメクジ科として、植物防疫法施行規則第一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	-	-	-

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	定着理由	評価項目																日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散		原産地・分布 (日本を除く)													
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	利用			付着混入															
20	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			イガイ科	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	I, III				◎	◎	-	○	○	○	-	-	◎	○	○	地中海沿岸原産。韓国、オーストラリア、北米、アフリカ等に外来分布。	ほぼ全国の沿岸域。	潮間帯の岩・人工構造物に付着。	食用として、一部で利用されている。岩手県において漁業種に基づく養殖の実態がある。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。大発生年にはカキ等の養殖に甚大な被害を与えているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	②WI100：日本・IUCN、③GISD、④各県リスト：北海道、茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	Brannock et al.(2009)、Iwasaki(2019)	-	-	-	-	
21	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			イガイ科	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>	I, III				◎	-	-	○	○	○	-	-	◎	○	○	インド洋～西太平洋の熱帯域原産。カリブ海、メキシコ湾、オーストラリア沿岸に外来分布。	山形、新潟、関東以西。	潮間帯の岩、人工構造物。	食用とされるが、国内での生産はないと思われる。沖縄島と石垣島では養殖試験で導入されたが中止されている。	導入しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている他、取水施設に汚損被害を与えている。	③GISD、④各県リスト：東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	岩崎ほか(2004)、自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-	
22	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	I, III				◎	-	-	○	○	○	-	-	◎	-	○	オーストラリア、ニュージーランド沿岸原産。アドリア海に外来分布。	岩手・秋田以南。	内湾、河口等の潮間帯。	兵庫県尼崎市では人工干潟での水質浄化のために導入・利用された。	導入しないこと。	付着基盤を被覆することで在来生物による潮間帯の帯状分布を破壊し、船舶や水利施設、漁具等に汚損被害を与えている。	②WI100：日本、④各県リスト：北海道、茨城、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、兵庫、和歌山、鳥取、徳島、香川、高知、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄	Iwasaki & Yamamoto(2014)、自然環境研究センター(編著)(2019)、Iwasaki(2024)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-	
23	定着初期／限定分布	防除検討 計外来種			イタボガキ科	ヨーロッパヒラガキ	<i>Ostrea edulis</i>	I, III				◎	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	ヨーロッパ、北東大西洋、地中海、黒海原産。アメリカに外来分布。	青森、岩手。	沿岸域。	試験の養殖が屋外で行われていた。現時点で養殖・流通をめざす動きがある。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	1952年にオランダから輸入されて宮城県等で増養殖の試験研究が開始され、北海道、青森県、岩手県、宮城県では屋外で垂下養殖試験も行われた。しかし、養殖事業化は成功せず、屋外での発見もなかったために定着していないと思われていたが、2023年4月に岩手県や山田湾で養殖マガキ等に着・生存していることが確認されたため、当地で定着していることは確実である。養殖マガキや養殖ホタテへの汚損被害を発生させ、岩礁や礫などの硬基質ではEcosystem engineerとなつて生態系の構造を改変する可能性が高い。近年食用目的の利用も増加しているが、海面での繁殖を抑制する技術開発が必要。	③GISD、⑤検討委員	寺本ほか(2024)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-	
24	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			イシガイ科	ヒレイケチョウガイ	<i>Hyriopsis cumingii</i>	I				-	◎	-	-	-	○	-	-	-	○	○	中国原産。	茨城、滋賀。	湖沼、河川等の淡水域。	真珠養殖に利用されている。	逸出には十分に注意し、放出しないこと。	ヒレイケチョウガイ交雑個体(イケチョウガイ(経路不明有種)とヒレイケチョウガイ(中国産)との交雑個体)が真珠養殖に用いられ、遺伝的かく乱が広域に生じている。	④各県リスト：茨城、滋賀	白井ほか(2010)、萩原ほか(2021)	-	-	-	-	
25	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	I				○	○	-	-	-	○	-	-	◎	○	○	中国、朝鮮半島、ロシア原産。北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリアに外来分布。	本州～九州。	湖沼、水路等の淡水域。	食用として利用されている。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	カネツケシジミ <i>f. insularis</i> とされるものを含む。マシジミはタイワンシジミと同系統であることが示唆されている。在来種のヤマトシジミとの競合や交雑の恐れが指摘されている。国内では農業水利用施設で漏水障害を起こした他、海外では漏水障害による電力産業への大きな損害を与えている事例もある。食味は在来種のヤマトシジミに比べて劣るとされる。	③GISD、④各県リスト：福島、茨城、千葉、東京、岐阜、静岡県、愛知、滋賀、京都、兵庫、和歌山、鳥取、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、長崎、宮崎、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2019)、Haubrock et al.(2022)	-	-	-	-	
26	定着初期／限定分布	防除検討 計外来種			シジミ科	ウスシジミ	<i>Corbicula nitens</i>	I, III				○	◎	-	-	○	○	-	-	○	-	-	韓国原産。	利根川河口域。	汽水域。	利根川河口域のヤマトシジミ産地ではタイワンシジミやウスシジミ等の外国産シジミが混在しており、外国産シジミを取り除く選別作業が生じており、ヤマトシジミとの選別過程で取り除かれたウスシジミを含む外来シジミは漁業者によって自家消費される場合がある。	導入、遺棄、放逐をしないこと。近年食用目的の利用も増加しているが、畜養・養殖時は逸出を極力防ぐこと。	増殖事業としてのシジミ放流時における混入が指摘されている。2000年に茨城県北浦の中流域から利根川の河口部で採集されたものが韓国産のウスシジミに形態的・遺伝的に類似しているとしてこの種に同定されており、中国または台湾から持ち込まれたとされる。在来種の汽水性シジミであるヤマトシジミと良く似た塩分耐性を持っており、ヤマトシジミと同じ2倍体で両性発生し、両種の交雑試験ではペリジャー幼生まで正常に発生したことから、ヤマトシジミと競合または交雑する可能性が示唆されている。	④各県リスト：茨城、千葉	石橋ほか(2005)、根本ほか(2003)、横山(2019)	茨城県：茨城県内で外来シジミが繁殖! https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/na/itsushi/kawaraban/documents/k176.pdf【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	-	-
27	分布拡大期～まん延期	防除検討 計外来種			カワホトギス科	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	I, III				◎	-	-	○	○	○	-	-	◎	-	○	メキシコ湾、カリブ海原産。インド、パトナム、台湾、香港、アフリカ等に外来分布。	千葉、東京、静岡県、愛知、富山、大阪、和歌山、岡山、高知、福岡。	河川の下流部等の汽水域。	利用に関する情報は得られなかった。	-	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響を与えている他、船舶や取水施設に甚大な汚損被害を与えている。	④各県リスト：北海道、千葉、東京、静岡県、愛知、京都、和歌山、高知、福岡、長崎、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2019)、岩崎ほか(2025)	-	-	-	-	

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <動物(軟体動物)>
【国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種】

対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大。 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い。 ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす。	選定理由 Ⅰ. 生態系被害が大きいもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。 Ⅳ. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目立っている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。
---	---

※ 掲載の原書は、分類の並びとし、掲載されている図表はBrunoe et al. 2023: "Invertebrates 4th ed."に準拠し、掲載されていない図表は、裏行リストを参考に整理した。
※ 網羅等されているものは基本的に防除等の対象とはならない。

2026.9.11

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害			分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖		気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入												
総合対策外来種(定着)																																		
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																		
1	分布拡大期～まん延期	防除推進外来種	①④		タマガイ科	自然分布域外のサキグロタマツメタ	Euspira fortunei	I,Ⅲ		-	-	◎	-	-	○	-	-	◎	-	◎		東アジア原産。国内では伊勢湾、瀬戸内海、有明海原産。	東北～九州の太平洋岸。	干潟や泥底の浅海。	利用に関する情報は得られなかった。	-	外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に基大な影響を与えている。本種が侵入した潮干狩り場では基大なアサリの捕食被害が発生し、閉鎖された事例もある。	④各県リスト：東京、静岡、岡山、長崎	大越・大越(編)(2011)、岩崎ほか(2025)	宮城県：サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	宮城県：サキグロタマツメタの駆除方法について https://www.pref.miyagi.jp/documents/17715/71874.pdf 【URL取得日：2025年11月28日】	-	-	
防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)																																		
2	定着初期／限定分布	防除検討外来種			トウガタカワニナ科	小笠原諸島のヌノメカワニナ	Melanoides tuberculata	I,Ⅱ		◎	-	-	-	○	○	◎	-	-	-	○		東～南アジア～北アフリカの熱帯～亜熱帯原産。国内では沖縄原産。愛知、滋賀、和歌山、鹿児島本土、小笠原に外来分布。	小笠原。	淡水、汽水域、水路、水田。	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原諸島の河川において、固有のオガサワラカワニナとの競合・入れ替わりが確認されている。観賞用の魚類や水生植物に混入している可能性があり直達発生で定着しやすいため、飼養又は栽培に使用した水を野外放出しないようにすること。	④各県リスト：愛知、滋賀、和歌山、鹿児島、⑤地方公共団体	佐竹ほか(2006)、佐々木ほか(2009)、新行内・佐々木(2023)	-	-	-	-	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名 (別名、流通名)	学名	選定理由	評価項目																原産地・分布 (日本を除く)	日本での分布	生息環境等	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	関係する感染症
									定着可能性		生態系被害					分布拡大		特に問題となる被害	逸出・拡散																	
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	生態系改変	繁殖	気候	重要地域		人体	経済産業	利用	付着混入														
12	分布拡大期～まん延期	防除検討対象外来種			アフェレンクス科	マツノザイセンチュウ (松くい虫)	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>	I, III			-	-	◎	-	-	◎	○	-	◎	-	-	◎		北米原産。東アジア、ポルトガル、スペインに外来分布。	北海道を除く全都府県。	アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツ等のマツ林。	利用に関する情報は得られなかった。	-	マツノマダラカミキリに運ばれて、マツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる(松枯れ・松くい虫被害)。 輸入について植物防疫法上の規制あり。また、森林害虫等防除法に基づき防除を実施。	③GISD、④各県リスト・福島、茨城、群馬、千葉、長野、岐阜、静岡、滋賀、京都、鳥取、香川、高知、福岡、長崎、宮崎、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、環境庁(1977)	林野庁研究指導課:森林病虫害等被害対策事業 https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosan/kesan/attach/pdf/2gaisan-8.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 静岡市:静岡市松くい虫被害対策自主事業計画 https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/5110/000927652.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 その他、複数の地方公共団体にて防除事業を実施している。	森林総研:マツ材蝕虫病にどう対処するかー防除対策の考え方と実践 https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/5th-chukiseika11.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 森林総研:松くい虫被害ピンポイント防除マニュアル https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/project/documents/matsukumushi-manual.pdf 【URL取得日:2025年11月28日】 その他に多数のマニュアルがある。	森林害虫等防除法(松の枯死の原因となる線虫類として) 植物防疫法(アフェレンコイデス科として、植物防疫法施行規則別表一の第一の二の項の農林水産大臣が指定する有害動物)	-	

候補種の抽出

- ①特定外来生物。(下記②～⑥で抽出された種で未判定外来生物にあたるものはその旨を記した。)
- ②IUCNのワースト100 https://www.iucngisd.org/gisd/100_worst.php
及び日本の侵略的外来種ワースト100: 日本生態学会(2002)外来種ハンドブック. 地人書館.
- ③Global Invasive Species Database 掲載種を追記。
- ④都道府県の外来種リストや条例等に掲載されている種。なお、掲載検討にあたっては2024年5月時点の都道府県リストへの掲載状況を参考とした。
- ⑤環境省の地方環境事務所、都道府県、地方公共団体、検討委員への意向調査による候補種。
- ⑥その他: 過去のリスト作成時の候補種(※)や事務局等の情報収集により、近年問題を及ぼしている/及ぼす可能性が危惧される種。
※「外来種ハンドブック」日本生態学会編(2002)の外来種リスト等を元に、日本に定着している外来種をリスト化した上で追記を行い検討されたもの。

【主な参考文献等】

<哺乳類>

阿部永(監) (2008)日本の哺乳類 改訂2版. 東海大学出版, 神奈川. 206pp.

浅田正彦・落合啓二・長谷川雅美 (2000) 房総半島及び伊豆大島におけるキョンの帰化・定着状況. 千葉中央博自然誌研究報告, 6(1): 87–94.

浅川満彦 (2005) 外来種介在により陸上脊椎動物と蠕虫との関係はどうなったのか？：外来種問題を扱うための宿主-寄生体関係の類型化. 保全生態学研究, 10(2): 173–183.

浅野玄 (2025) 海を渡ったアライグマ 人気者がたどった道. 東京大学出版会. pp170.

Veron, G., Patou, M. L., Pothet, G., Simberloff, D. & Jennings, A. P. (2007) Systematic status and biogeography of the Javan and small Indian mongooses (Herpestidae, Carnivora). Zoologica Scripta, 36(1):1–10.

Bomford, M. (2003) Risk Assessment for the Import and Keeping of Exotic Vertebrates in Australia. Bureau of Rural Sciences, Canberra.

Brown, K. P. & Sherley, G. H. (2002) The eradication of possums from Kapiti Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 46–52.

Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

江口 勇也・佐久間 幹大・遠藤 優・坂西 梓里・鈴木 良実・千々岩 哲・寫本 樹・片平 浩孝(2023)浜松市に定着した*Callosciurus*属リス類の遺伝的集団構造:ミトコンドリアDNA D-loop領域に基づく追跡調査とフィンレイソンリス由来ハプロタイプの優占.哺乳類科学, 63(1): 53–62.

Fisher, P. & Airey, A.T. (2009) Factors affecting 1080 pellet bait acceptance by house mice (*Mus musculus*). DOC Research & Development Series, 306: 22 p.

Francis, M. C. (2008) A guide to the mammals of southeast Asia. Princeton University Press. : 31–334.

Gosling, L. M. & Baker, S. J. (1987) Planning and monitoring an attempt to eradicate coypus from Britain. Symposia of The Zoological Society of London, 58: 99–113.

Gurnell, J., Rushton, S. P., Lurz, P. W. W., Sainsbury, A. W., Nettleton, Shirley, P., M. D. F., Bruemmer C. & Geddes, N.(2006) Squirrel poxvirus: Landscape scale strategies for managing disease threat. Biological Conservation, 131(2): 287–295.

長谷川雅美 (2017) 伊豆諸島におけるイタチ導入：歴史と事実と教訓. Mikurensis, 6: 56–61.

橋本琢磨 (2011) クマネズミ ー島嶼からの根絶へー. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編). p351–378. 東京大学出版会, 東京.

橋本琢磨 (2025) 奄美大島から特定外来生物のフイリマングースを根絶ー世界最大規模の根絶劇はどのように成し遂げられたのか？ 科学, 95(2): 103–106.

堀繁久 (2004) 奥尻島の歩行性甲虫相とタヌキによる捕食の影響について. 北海道開拓記念館研究紀要, 32:1–20.

Jackson, D. B. & Green, R. E. (2000) The importance of the introduced hedgehog (*Erinaceus europaeus*) as a predator of the eggs of waders (Charadrii) on machair in South Uist, Scotland. Biological Conservation, 93(3): 333–348.

川本芳・萩原光・相澤敬吾 (2004) 房総半島におけるニホンザルとアカゲザルの交雑. 霊長類研究, 20(2): 89–95.

岸本年郎 (2010) 小笠原における昆虫の保全. 日本の昆虫の衰亡と保護. 北隆館, 東京. pp.279–294.

久米学・小野田幸生・根岸淳二郎・佐川志朗・永山滋也・萱場祐一 (2012) 木曽川氾濫原水域における特定外来生物ヌートリア(*Myocastor coypus*) によるイシガイ科二枚貝類の食害. 陸水生物学報, 27: 41–47.

藏本卓哉・池田瞳・鳥居春巳・押田龍夫 (2009) 外来台湾リス類*Callosciurus*の種同定に関する研究：フィンレイソンリス*C. finlaysonii*は静岡県に生息するのか？ 日本哺乳類学会2009年度大会講演要旨.

増田隆一・井上友・江村正一・高田靖司・金子弥生 (2011) ハクビシンの多様性科学. 哺乳類科学, 51: 188–191.

増田隆一 (2011) 日本のハクビシンは台湾からやってきた～遺伝子から探る起源と多様性. どうぶつと動物園. 63: 26–29.

Matsumoto,Y., Ju,Y., Yamashiro,T. & Yamashiro, A. (2015) Evidence of pre-introduction hybridization of Formosan sika deer (*Cervus nippon taiouanus*) on Okinoshima, Wakayama Prefecture, Japan, based on mitochondrial and nuclear DNA sequences. Conservation Genetics,16: 497–502.

McClelland, P. J. (2002) Preparation for the eradication of Norway rats (*Rattus norvegicus*) from Campbell Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 406 – 414. IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

Medina, M. M. & Martin, A., 2009. A new invasive species in the Canary Islands: a naturalized population of ferrets *Mustela furo* in La Palma Biosphere Reserve. Fauna & Flora International, Oryx, 44(1): 41–44.

南佳典・積田有斐・下山彩希・吉川朋子 (2016) 北海道東部釧路川源流域の河畔林内に生息するアメリカミンク*Neovison vison*が及ぼす小型げっ歯類への影響. 自然環境科学研究, 29: 1–10.

宮崎昭・丹治藤治 (2016) シカの飼い方・活かし方. 日本鹿研究 / 全日本鹿協会 編 (7): 51–53.

森生枝 (2002) ヌートリア野生化個体によるドブガイの大量捕食: 岡山県自然保護センター研究報告, (10):63–67.

永田純子・亘悠哉・高木俊人・立澤史郎・兼子伸吾. (2023) 喜界島に定着した国内外来ニホンジカの起源推定. 哺乳類科学, 63: 109–117.

中園和憲・炭山大輔・三谷奈保 (2020) トカラ列島口之島における外来テン(*Martes melampus*)の分布と在来種の捕食. 環境情報科学論文集, 34: 168–173.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

Nogueira-Filho, S. L., Nogueira S. S. & Fragoso, J. M. (2009) Ecological impacts of feral pigs in the Hawaiian Islands. Biodiversity and Conservation, 18(14): 3677–3683.

白井啓・川本芳 (2011) 台湾ザルとアカゲザル 交雑回避のための根絶計画. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p169–202. 東京大学出版会, 東京.

自然環境研究センター (編著) (2008) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

田村典子 (2017) 狭山丘陵に生息する特定外来生物キタリスの早期対策の試み. 哺乳類科学, 57(2): 367–377.

田村典子・宮本麻子 (2005) 神奈川県における台湾リスの分布拡大の現状と拡大防止対策について. 神奈川自然史資料, 26:57–60.

Taylor, L. L. & Lehman, S. M. (1997) Predation on an evening bat(*Nycticeius* sp.) by squirrel monkeys (*Saimiri sciureus*) in south Florida. Florida Scientist, 60(2): 112–117 .

鉄谷龍之・西山忠良・高野真矢・石井信夫・安藤元一 (2018) 静岡県伊東市における特定外来生物アムールハリネズミ*Erinaceus amurensis*の食性. 森林野生動物研究会誌, 43: 19–25.

常田邦彦・滝口正明 (2011) ノヤギ ー日本の状況と島嶼における防除の実際. 日本の外来哺乳類(山田文雄・池田透・小倉剛 編)p317–350. 東京大学出版会, 東京.

Veitch, C. R. (2002) Eradication of Pacific rats (*Rattus exulans*) from Fanal Island, New Zealand. In Turning the tide: the eradication of invasive species: 381–388. Veitch, C.R. & Clout, M.N.(eds). IUCN SSC Invasive Species Specialist Group. IUCN. Gland. Switzerland and Cambridge. UK.

亘悠哉 (2011) 衰退から回復へ：日本の爬虫類・両生類を救うマングース対策. 爬虫両棲類学会報, 2011(2):137–147.

Watari, Y., Matsuyama, Y., Tokuyoshi, M., Nose, T., Hayama, H., Kawakami, K. & Oka, N. (2025) Unexpectedly Early and Drastic Dietary Shift of Feral Cats to Seabirds: Evidence from Fecal Samples of Cats Captured during the Transition to the Breeding Season of the Streaked Shearwater on Mikura–Shima Island, Japan. Mammal Study, 50(3): 317–327.

Wilson, D. E., R. A. Mittermeier, S. Ruff, A. Martinez-Vilalta & J. D. Hoyo (eds.) (2009) Handbook of the Mammals of the World. Vol.1/ Carnivores. Lynx Edicions, Barcelona. 727pp.

山田文雄 (2017) ウサギ学 隠れることと逃げることの生物学. 東京大学出版会, 東京. pp275.

山田文雄・小倉剛・池田透(編) (2011) 日本の外来哺乳類：管理戦略と生態系保全. 東京大学出版会, 東京. 439pp.

安田雅俊 (2017) 九州に定着した特定外来生物クリハラリスの由来と防除. 森林野生動物研究会誌, 4: 49–54.

増田隆一 (2024) ハクビシンの不思議 どこから来て、どこに行くのか. 東京大学出版会, 東京. 123pp.

安田雅俊, 田村典子, 森澤猛, 鳥居春己 (2024) クリハラリス防除マニュアル. 哺乳類科学, 64(1): 89–94.

【分類の並びを準拠した文献】

Wilson,Don E., DeeAnn M.Reeder(ed.) (2005) Mammal Species of the World (Third Edition). A Taxonomic and Geographic Reference. Johns Hopkins University Press. pp.2142.

<鳥類>

愛知県環境部自然環境課 (2012) STOP！移入種 守ろう！あいちの生態系 ～愛知県移入種対策ハンドブック～. 225pp.

姉崎悟 (2015) 大東諸島北大東島で 2013 年 7 月に確認した鳥類. 山階鳥類学雑誌, 46(2):127–140.

del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2005) Handbook of the Birds of the World – Volume 10: Cuckoo–shrikes to Thrushes. Lynx Edicions. 812pp.

del Hoyo, J., Elliott, A., & Christie, D. A. (Eds.) (2009) Handbook of the Birds of the World – Volume 14: Bush–shrikes to Old World Sparrows. Lynx Edicions. 893pp.

江口和洋・天野一葉 (2008) ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. 日本鳥学会誌, 57(1): 3–10.

Grarock, K., Tidemann, C. R., Wood, J., & Lindenmayer, D. B. (2012) Is it benign or is it a pariah? Empirical evidence for the impact of the Common Myna (*Acridotheres tristis*) on Australian birds. PloS one, 7(7), e40622.

濱田哲暁・佐藤重穂・岡井義明 (2006) 外来種ヒゲガビチョウ*Garrulax cineraceus*の四国における記録と繁殖. 日本鳥学会誌, 55:105–109.

葉山久世・加藤ゆき・篠田授樹・松本令以・久米宗男・石井隆・池内俊雄 (2020) 特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録. BINOS= 日本野鳥の会神奈川支部研究年報, 27: 105–122.

日高敏隆(監)・樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編) (1997) 日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ. 平凡社, 東京. 180pp.

一般財団法人自然環境研究センター (編著) (2019) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

石垣市 (2015) 石垣市鳥獣被害防止計画.

鹿児島県ウェブサイト 鹿児島県侵略的外来種カルテ(キジ) (2017) https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/documents/58074_20170401121841-1.pdf [2026年1月閲覧]

環境省 (2018) 野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル. 環境省, 東京.

加藤ゆき (2010) カナダガン捕獲大作戦. 自然科学のとびら, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 16(2):10-11.

川上和人・叶内拓哉 (2012) 外来鳥ハンドブック. 株式会社 文一総合出版, 東京. 80pp.

金城常雄 (1993) 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ *Pycnonotus sinensis* の分布域の拡大と生態的特性. 九州病害虫研究会報, 39:119-123.

岸本寿男 (2001) オウム病 (psittacosis). IDWR, 3(45):12-14.

国立環境研究所ウェブサイト 侵入生物データベース コウライキジ. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20030.html> [2026年1月閲覧]

Lever, C. (1987) Naturalized Birds of the World. Longman Scientific & Technical. 615pp.

McCarthy, E. M. (2006) Handbook of avian hybrids of the world. Oxford University Press, New York. 190pp.

中村一恵・室伏友三・足立陸子・初瀬川孝夫 (1993) 神奈川県におけるカオグログビチョウの野生化について. 神奈川自然誌資料, (14): 27-31.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくインドクジャク防除計画, 沖縄. 9pp.

沖縄県 (2020) 沖縄県外来種対策行動計画に基づくコウライキジ防除計画, 沖縄. 13pp.

Peacock, D. S., van Rensburg, B. J., & Robertson, M. P. (2007) The distribution and spread of the invasive alien Common Myna, *Acridotheres tristis* L. (Aves: Sturnidae), in southern Africa. South African Journal of Science, 103(11-12): 465-473.

佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡仁 (2018) 四国西部におけるサンジャクの野生化. Bird Research, 14: S1-S5.

Sol, D., Santos, D. M., García, J., & Cuadrado, M. (1998) Competition for food in urban pigeons: the cost of being juvenile. Condor, 100: 298-304.

谷岡仁 (2020) 四国におけるハツカチョウ *Acridotheres cristatellus* の分布 (スズメ目ムクドリ科). 四国自然史科学研究, 13: 34-41.

田中聡・嵩原健二 (2003) 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要, 29:19-24.

【分類の並びを準拠した文献】

日本鳥学会 (2024) 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京. 471pp.

財団法人山階鳥類研究所 (1979) ドバト害防除に関する基礎的研究.

※ 学名は「日本鳥類目録 改訂第8版(2024)」に準拠する。一部掲載の無い家禽については「外来鳥ハンドブック(2012)」に準拠した。

<爬虫類>

阿部慎太郎 (2009) 沖縄の外来爬虫・両生類対策の現状. しまてい, 50: 48-53.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥菌稔・西村巖 (2008a) ミシシッピーアカミガメのハス食害調査. Coastal Bioenvironment, 8: 133-143.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・田中明・奥菌稔・西村巖 (2008b) ミシシッピーアカミガメの食害調査と駆除. Coastal Bioenvironment, 13:845-856.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥菌稔・椿光之助 (2009) ミシシッピーアカミガメの食害調査(Ⅱ)～ハス・スイレンの消滅事例に見る移入動物と食害発生の関係～. Coastal Bioenvironment, 14: 75-79.

有馬進・鄭紹輝・鈴木章弘・奥菌稔・川崎重治・井上英幸・永原光彦 (2010) ミシシッピーアカミガメから隔離したハス栽培試験(中間報告). Coastal Bioenvironment, 15: 61-66.

Chiba, M., Hirano, T., Yamazaki, D., Ye, B., Ito, S., Kagawa, O., Endo, K., Nishida, S. & Chiba, S. (2022) The mutual history of Schlegel’s Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and humans inscribed in genes and ancient literature. PNAS nexus, 1(5), pgac245.

Chiba, M., Chiba, S. (2024) Hidden invasiveness of non-native Schlegel’s Japanese gecko (Reptilia: Squamata: Gekkonidae) and three-way competition among natives and non-natives in Japan. Molecular Ecology, e17420.

槐真史・岩下歩叶・川崎守・鉄谷龍之・加藤英明. (2019). 神奈川県厚木市におけるスウィンホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* の生息状況. 神奈川自然誌資料, 2019(40): 85-87.

疋田努・鈴木大 (2010) 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. 爬虫両棲類学会報, 33: 569-576.

Huang, S. C., Norval, G. & Tso, I. M. (2008a) Predation by an exotic lizard, *Anolis sagrei*, alters the ant community structure in betelnut palm plantations in southern Taiwan. Ecological Entomology, 33(5): 569-576.

Huang, S. C., Norval, G., Wei, C. S. & Tso, I. M. (2008b) Effects of the brown anole invasion and betelnut palm planting on arthropod diversity in southern Taiwan. Zoological Science, 25(11): 1121-1129.

Hoskin, C. J. (2011) The invasion and potential impact of the Asian House Gecko (*Hemidactylus frenatus*) in Australia. Austral Ecology, 36(3): 240-251.

ISSG-GISD (Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

Jono, T., Kawamura, T. & Koda, R. (2013) Invasion of Yakushima Island, Japan, by the subtropical lizard *Japalura polygonata polygonata* (Squamata:Agamidae). Current Herpetology, 32(2): 142-149.

環境省 (2005) 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)資料1-3.

環境省 (2005) 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)資料8.

片岡友美 (2017) 武蔵野台地におけるミシシッピーニオイガメ *Sternotherus odoratus* の採取記録. 爬虫両棲類学会報2017(1): 94. (講演要旨)

加藤英明・細田昭博・大庭俊司・衛藤英男 (2010) 静岡県で記録されたスインホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata,Agamidae). 日本生物地理学会会報, 29:4-5.

加藤英明・衛藤英男 (2012) 静岡県狩野川水系におけるカミツキガメ *Chelydra serpentina* (Testudines, Chelidridae) の定着. 東海自然誌(しえう岡山県自然史研究報告), 2012(5): 41-44.

加藤英明・大庭峻輔・大庭俊司・衛藤英男・多比良嘉晃 (2013) 静岡県磐田市におけるスインホーキノボリトカゲ *Japalura swinhonis* Gunther (Squamata, Agamidae) の繁殖と食性. 東海自然誌(静岡県自然史研究報告), 2013(6): 35-38.

小林頼太・長谷川雅美 (2005) 千葉県印旛沼流域における外来種ミナミシガメの定着について. 爬虫両棲類学会報, 2005(2): 150-154.

小林頼太 (2007) 日本におけるカミツキガメおよびワニガメの定着危険性－新聞記事を用いた外来ペットの逸出モニタリング－. 爬虫両棲類学会報, 2007(2): 101-110.

Kraus, F. (2009) Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis. Springer, Dordrecht. 2007: 101-110.

Kurita, T. (2013) Current status of the introduced common house gecko, *Hemidactylus frenatus* (Squamata: Gekkonidae), on Amamioshima Island of the Ryukyu Archipelago, Japan. Current Herpetology, 32 (2): 50-60.

栗山武夫・岡本卓・長谷川雅美・疋田努・五箇公一 (2009) 伊豆諸島八丈島へのニホントカゲの侵入. 爬虫両棲類学会報, 2009(2): 124-127.

黒木俊郎 (2005) 爬虫類におけるクリプトスポリジウム感染症. クリーパー, 27: 105-109.

Latella, I. M., Poe, S. & Giermakowski, J. T. (2011) Traits associated with naturalization in Anolis lizards: comparison of morphological, distributional, anthropogenic, and phylogenetic models. Biological Invasions, 12:53-58.

Lee, K., Chen, T., Shang, G., Clulow, S., Yang, Y. & Lin, S. (2019) A check list and population trends of invasive amphibians and reptiles in Taiwan. Zookeys 829: 85-130.

Lever, C. (2003) Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press, New York. 11: 47-54.

前之園唯史・戸田守 (2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. AKAMATA, 14: 75-80.

Matsuda, Y., Kaburagi, S., Kamezaki, N., Ohta, H., Takahashi, H., Imazu, T., Kagayama, S. & Kawamura, K. (2024) Density-dependent unidirectional hybridization between the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, and the exotic Reeves’ pond turtle, *Mauremys reevesii*, in Japan, inferred from molecular and morphological analyses.,203(3): zlae070

向井貴彦・田上正隆 (2017) 岐阜県羽島市で捕獲されたスウィンホーキノボリトカゲ. 日本生物地理学会会報= Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 71, 249-251.

なごや生物多様性協議会, 2014. ミシシッピーアカミガメ防除マニュアルー名古屋市内の活動を事例としてー. 34p.

中島淳・橋口康之・田中智佳子・渡邊耕平. 2024. ミトコンドリアDNA に基づく九州北部および壱岐・対馬から採集されたクサガメ *Mauremys reevesii* の遺伝的特徴. 水生動物 2024: A2024-35.

日本爬虫両棲類学会 (2009) 南九州で発見されたオキナワキノボリトカゲ外来個体群の対策に関する要望書. https://herpetology.jp/statements/2009japalura_j.php [2026年1月閲覧]

日本爬虫両棲類学会 (2021) 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版, 彦根. 232pp.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

小鹿野大ー・小林頼太, 2022. 日本各地で生じるニホンイシガメとクサガメとの交雑に関する文献データを用いた解析. 2022(2):176-187.

Okamoto, T., Kuriyama, T. & Goka, K. (2013) An impact assessment of the alien lizard *Plestiodon japonicus* (Scincidae, Reptilia) on a threatened island population of the native lizard *P. latiscutatus* at an early phase of the biological invasion. Biological Invasions, 2010:41-46.

大河内勇 (2013) 小笠原諸島兄島にグリーンアノールが侵入. AIRIES News, 10: 237-249.

Ota, H. (1999) Introduced Amphibians and Reptiles of the Ryukyu Archipelago, Japan. Pp. 439-452. In: G. Rodda, Y. Sawai, D. Chiszar, and H . Tanaka (eds.), Problem Snake Management: The Habu and the Brown Treesnake. Cornell University Press, Ithaca, New York.

Ota, H., Hoshino, I. & Sueyoshi,T. (2006) Colonization by the Subtropical Lizard, *Japalura polygonata polygonata* (Squamata: Agamidae), in Southeastern Kyushu, Japan. Current Herpetology, 25(1): 29–34.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & M. Toda (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. Global Environmental Research, 8(2): 133–143.

太田英利・那須哲夫・末吉豊文・星野一三雄・森田哲夫・岩本俊孝(2013)鹿児島県本土部における国内外来種オキナワキノボリトカゲ *Japalura polygonata polygonata* (Hallowell, 1861)(爬虫綱, アガマ科)の生息状況. Nature of Kagoshima, 38: 1–8.

沢田英司(2012)レンコン田のアカミミガメによる被害と対策. p.9–13. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵(編) 第14回日本カメ会議&ニホンイシガメシンポジウム講演要旨集, 2005: 116–119.

Shimizu, Y. (2013) Green anoles have invaded the protected area of the World Natural Heritage of the Ogasawara (Bonin) Islands. DIWPA News Letter, 32: 50–60.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

Suzuki, D., Ota, H., Oh, H-S., & Hikida, T. (2011) Origin of Japanese populations of Reeves’ pond turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as inferred by a molecular approach. Chelonian Conservation and Biology, 6: 35–38.

Suzuki, D., Yabe, T. & Hikida, T. (2014) Hybridization between *Mauremys japonica* and *M. reevesii* inferred by nuclear and mitochondrial DNA analyses. Journal of Herpetology, 17: 1013–1020.

高橋洋生(2005)ホオグロヤモリの人為的洋上分散の一例. 爬虫両棲類学会報, 17: 34–48.

寺田考紀(2011)沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報, 38: 1–8.

Terrell, S. P., Funk, E. W. & Funk, R. S. (2003) Proliferative enteritis in leopard geckos (*Eublepharis macularius*) associated with Cryptosporidium sp. infection. Journal of Zoo and Wildlife Medicine, 34:69–75.

戸田光彦・中川直美・鋤柄直純(2009)小笠原諸島におけるグリーンアノールの生態と防除. 地球環境 14(1):39–46.

Toda, M., Takahashi, H., Nakagawa, N. & Sukigara, N. (2010) Ecology and control of the green anole (*Anolis carolinensis*), an invasive alien species on the Ogasawara Islands. p.145–152. In: K. Kawakami and I. Okochi (eds.) Restoring the Oceanic Islands Ecosystem. Springer, New York.

Toda, M., Okada, S., Hikida T.. & Ota, H. (2006) Extensive natural hybridization between two geckos, Gekko tawaensis and G. japonicus (Reptilia:Squamata), throughout their broad sympatric area. Biochem. Genet., 44(1–2): 1–17

辻井聖武・矢部隆・日野輝明(2012)千葉県印旛沼水系における外来種カミツキガメ(*Chelydra serpentina*)の食性. 名城大学農学部学術報告, 48: 13–17.

上野真太郎(2023) 雑種形成が種に与える影響～主にカメ類の事例について～. 爬虫両棲類学会報. 2023(2): 253–259.

USGS–NAS(United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

Yamashiro, S., Toda, M. & Ota, H. (2000) Clonal composition of the parthenogenetic gecko, *Lepidodactylus lugubris*, at the northernmost extremity of its range. Zoological Science, 2009: 124–127.

安川雄一郎(2005)今後日本国内に定着するおそれの高い淡水性カメ類について. 爬虫両棲類学会報, 15: 2029–2037.

安川雄一郎(2012)侵略的外来種としてのミシシippアカミミガメ～各国における現状と対策～. p.17–26. In: 片岡友美・若澤英明・小河原孝恵(編) 第14回日本カメ会議&ニホンイシガメシンポジウム講演要旨集. 48: 13–17.

ホオグロヤモリ(活ヤモリとして)販売例E・S・P <https://megalodon.jp/2025-0828-1005-26/https://www.espweb.jp:443/food/livingfood/> [2026年1月閲覧]

ホオグロヤモリ(エサ用ヤモリとして)販売例CANDLE HP https://megalodon.jp/2025-0828-1405-34/r-candle.jp/products/detail.php?product_id=25 [2026年1月閲覧]

【分類の並びを準拠した文献】

カメ目 : Turtle Taxonomy Working Group [van Dijk, P.P., Iverson, J.B., Rhodin, A.G.J., Shaffer, H.B., and Bour, R.]. 2014. Turtles of the world, 7th edition: annotated checklist of taxonomy, synonymy, distribution with maps, and conservation status. In: Rhodin, A.G.J., Pritchard, P.C.H., van Dijk, P.P., Saumure, R.A., Buhlmann, K.A., Iverson, J.B., and Mittermeier, R.A. (Eds.). Conservation Biology of Freshwater Turtles and Tortoises: A Compilation Project of the IUCN/SSC Tortoise and Freshwater Turtle Specialist Group. Chelonian Research Monographs 5(7):000.329–479, doi:10.3854/crm.5.000.checklist.v7.2014.

有鱗目 : Uetz, P. (editor), The Reptile Database, <http://www.reptile-database.org>, accessed Feb 23, 2015.

Pough, F. H., Andrews, R. M., Crump, M. L., Savitzky, A. H., Wells, K. D., & Brandley, M. C. (2016) Herpetology, Forth Edition.591pp Sinauer Associates, Inc.Sunderland, MA, USA.

科レベルの配列はPoguh et al.,2016に倣い、それ以下は学名アルファベット順。

<両生類>

Atobe, T., Osada, Y., Takeda, H., Kuroe, M., & Miyashita, T.(2014) Habitat connectivity and resident shared predators determine the impact of invasive bullfrogs on native frogs in farm ponds. Proceedings of the Royal Society B, 2007:101–110.

荒尾一樹・北野忠(2006)静岡県浜松市で確認されたアフリカツメガエル. 爬虫両棲類学会報, 2006: 17–19.

Beard, K. H., Price, E. A. & Pitt, W. C. (2009) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 5. Eleutherodactylus. coqui, the Coqui Frog (Anura: Leptodactylidae). Pacific Science, 11:47–54.

土永知子・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部. 2019: 和歌山県田辺市鳥ノ巣半島のアフリカツメガエル. 南紀生物, 61(2): 81–90.

土井敏夫(2012) ヌマガエル幼体によるドジョウ稚魚への捕食行動. 爬虫両棲類学会報 2012(1):17–19.

福山欣司・後藤康人・植田健仁・戸金大(2010)東京都でのヌマガエルの生息の確認. 爬虫両棲類学報, 14: 75–80.

後藤康人・小野高志(2021) 八丈島のアズマヒキガエル駆除記録(2012年1月–2021年3月). 爬虫両棲類学会報 2021(2): 144–150.

八谷和彦・水野寛(2024) 北海道深川市におけるアズマヒキガエル駆除活動と大量発生収束. 爬虫両棲類学会報 2024(1): 19–27.

Hasegawa, H. & Ota, H. (2017) Parasitic Helminths Found from *Polypedates leucomystax* (Amphibia: Rhacophoridae) on Miyakojima Island, Ryukyu Archipelago, Japan. Current Herpetology 36(1):1–10.

Hirai, T. (2004) Diet composition of introduced bullfrog, Rana catesbeiana, in the Mizorogaike Pond of Kyoto, Japan. Ecological Research, 15: 61–66.

長谷川雅美・小賀野大ー(1998)講演要旨 房総半島で発見されたヌマガエル・その分布範囲と生息状況. 爬虫両棲類学雑誌, 17(4): 193–194.

林光武・赤羽記年・石塚利一・木村有紀(2000)栃木県におけるヌマガエル *Rana limnocharis* の分布確認記録. 栃木県立博物館研究紀要 –自然–, 65: 9–12.

ISSG–GISD(Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/> [2026年1月閲覧]

IUCN–red list <http://www.iucnredlist.org/> [2026年1月閲覧]

環境省(2024)第10回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)資料1–2、資料2–2.

環境省(2026)第12回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)資料2.

Kidera, N. & Ota, H. (2008a) Can exotic toad toxins kill the native Ryukyu snakes? : Experimental and field observations on the effects of *Bufo marinus* toxins on Dinodon rufozonatum wall. Current Herpetology, 27(1): 23–27.

Kidera, N., Tandavanitj, N., Oh, D., Nakanishi, N., Satoh, A., Denda, T., Izawa, M. & Ota, H. (2008b). Dietary habits of the introduced cane toad *Bufo marinus* (Amphibia: Bufonidae) on Ishigakijima, Southern Ryukyus, Japan. Pacific Science, 66: 255–270.

小林頼太・長谷川雅美(2005)関東平野におけるアフリカツメガエルの確認記録と定着可能性. 爬虫両棲類学報, 2005(2): 169–173.

Kraus, F.(2009) Alien Reptiles and Amphibians: a Scientific Compendium and Analysis. Springer, Dordrecht, 63: 297–316.

Lee, K., Chen, T., Shang, G., Clulow, S., Yang, Y. & Lin, S. (2019) A check list and population trends of invasive amphibians and reptiles in Taiwan. Zookeys 829: 85–130.

Lever, C. (2003) Naturalized reptiles and amphibians of the world. Oxford University Press, New York. http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/11/Cane_toad_DAFWA_220410.pdf

前之園唯史・戸田守(2007)琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. AKAMATA, 62: 423–430.

Massam, M., Kirkpatrick, W. & Page, A. (2010) Assessment and prioritisation of risk for forty introduced animal species. Invasive Animals Cooperative Research Centre, Canberra.

松井正文(2005)DNA解析による外来種チュウゴクオオサンショウウオの生息確認. 河川環境管理財団. 27: 23–27.

松井正文(2009)外来生物クライシス.小学館. http://www.feral.org.au/wp-content/uploads/2010/10/Xenopus_laevis_VPCendorsed_270410.pdf

三谷奈保・戸田光彦・荻野伊万里・玖須博一・野田一男・松尾公則(2009)対馬におけるヌマガエルの分布拡大および在来カエル類との関係. 長崎県生物学会誌, 66: 17–22.

光岡佳納子・戸田光彦・高橋洋生・谷村就盛・小賀野大ー・小林頼(2011)講演要旨 利根川下流域における外来生物アフリカツメガエルの生息状況. 爬虫両棲類学報, 2011(1): 50–51.

森ロー・林光武・木村有紀・富岡克寛・小林敏男(2004)群馬県堺町と新田町におけるヌマガエルの分布確認. 爬虫両棲類学報, 19: 375–380.

日本爬虫両棲類学会編(2021)新 日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版.

日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 東京. 390pp.

小賀野大ー・福祉融・木村孝康(2005)印旛沼水系に侵入したヌマガエルの分布範囲と生息状況. 千葉生物誌, 55(1): 1–8.

Olson, C. A., Beard, K. H. & Pitt, W. C. (2012) Biology and Impacts of Pacific Island Invasive Species. 8. Eleutherodactylus. planirostris, the Greenhouse Frog (Anura: Eleutherodactylidae). Pacific Science, 66(3):255–270.

Ota, H., Toda, M., Masunaga, G., Kikukawa, A. & Toda, M. (2004) Feral population of amphibians and reptiles in the Ryukyu Archipelago, Japan. Global Environmental Research, 17:193–194.

Pereyra, M. O., Blotto, B. L., Baldo, D., Chaparro, J. C., Ron, S. R., Elias–Costa, A. J., Iglesias, P. P., Venegas, P. J., Thomé, M. T. C., Ospina–Sarria, J. J., Maciel, N. M., Rada, M., Kolenc, F., Borteiro, C., Rivera–Correa, M., Rojas–Runjaic, F. J. M., Moravec, J., De La Riva, I., Wheeler, W. C., Castroviejo–Fisher, S., Grant, T., Haddad, C. F. B. & Faivovich, J. (2021). Evolution in the Genus *Rhinella*: A Total Evidence Phylogenetic Analysis of Neotropical True Toads (Anura: Bufonidae). *Bulletin of the American Museum of Natural History*, 447(1) : 1–156.

自然環境研究センター（編著）(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

高倉耕一・土田華鈴・松井正文・富永篤・吉川夏彦・江頭幸士郎・福谷和美・福山伊吹・山本和宏・松原康平・大沼弘一・原壮大朗・西川完途（2025）賀茂川におけるオオサンショウウオ類の個体群サイズ推定. 保全生態学研究, 30（2） : 139–148.

田場美沙基・下地直子・山里将平・白幡大樹・富永篤（2013）鹿児島県与論島へのシロアゴガエルの侵入と定着. 爬虫両棲類学報, 2013(2):96–97.

上村亮・皆藤琢磨・小野宏治・富永篤（2022）ホンコンシロアゴガエル*Polypedates megacephalus*の沖縄県への侵入事例. AKAMATA 30: 36–41.

宇井大晃・和歌山県立田辺高等学校中学校生物部（2025）和歌山県田辺市鳥ノ巣半島におけるアフリカツメガエルの駆除活動. 南紀生物. 67(1): 84–91.

USGS–NAS(United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species)　http://nas.er.usgs.gov/　[2026年1月閲覧]

【分類の並びを準拠した文献】

Frost, D.R., T. Grant, J. Faivovich, R. Bain, A. Haas, C. Haddad, R. de Sá, A. Channing, M. Wilkinson, S. Donnellan, C. J. Raxworthy, B. Blotto, P. Moler, R. Drewes, R. Nussbaum, J. D. Lynch, D. Green, & Wheeler, W. C. (2006) The amphibian tree of life. *Bulletin of the American Museum of Natural History* 297: 1–370.

<魚類>

Allen, G. R., Midgley, S. H. & Allen, M. (2002) Field guide to the freshwater fishes of Australia. Western Australian Museum, Perth. 410pp.

Boschung, H. T. & Mayden, R. L. (2004) Fishes of Alabama Smithsonian Institution Press Washington. 736pp.

Centre of Agriculture and Biosciences International. Invasive Species Compendium. https://www.cabidigitallibrary.org/product/QI　(CABI)　[2026年1月閲覧]

Doi, T., Aoyama, S. & Kinoshita, I. (2004) Ontogeny of the mandarinfish *Siniperca chuatsi* (Perciformes: Sinipercidae) reared in aquarium. *Ichthyological Research*, 51:337–342.

Etnier, D. A. & Starnesm, W.C. (1993) The fishes of Tennessee. The University of Tennessee Press. Knoxville. 696pp.

FishBase. https://www.fishbase.se/search.php

Francis, R. A. eds.(2012) A Handbook of Global Freshwater Invasive Species. Earthscan. Nwe York. 484pp.

藤岡康弘（2013）琵琶湖固有（亜）種ホンモロコおよびニゴロブナ・ゲンゴロウブナ激減の現状と回復への課題. 魚類学雑誌, 60: 57–63.

藤田朝彦（2025）石川県で生息が確認された未判定外来生物*Lepomis gibbosus*　パンプキンシードサンフィッシュ（新称）. *Ichthy* 57: 44–47.

Global Invasive Species Database. https://www.iucngisd.org/gisd/

Goldstein, R.J., R.W. Harper, and R. Edwards(2000) American aquarium fishes. Texas A&M Univ. Press. 448pp.

萩原富司（2007）外来種の防除：初期コントロールを目指して－霞ヶ浦におけるオオタナゴに関する調査－. 地球・人間環境フォーラム2006年度研究報告資料.

http://www.gef.or.jp/activity/ecosystem/tanago/ootanago2007.pdf

萩原富司（2011）霞ヶ浦における国外外来種オオタナゴ*Acheilognathus macropterus*　の繁殖生態と生活史. 魚類学雑誌58(1) : 41–48.

北海道ブルーリスト 北海道外来種データベース. http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/

細谷和海（編著）(2019) 山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社. 560pp.

古橋龍星・中村潤平・是枝伶旺・米沢俊彦・本村浩之（2020）鹿児島県北西部の川内川水系における定着が確認された国内外来魚2種（ハスとギギ）の標本に基づく記録. *Nature of Kagoshima* 46: 259–265

井原高志・乾隆帝・大畑剛史・鬼倉徳雄（2011）ダム湖流入河川における国内外来魚ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris*　の産卵環境. 日本生物地理学会会報. 66: 41–48.

Invasive Species Compendium　http://www.cabi.org/isc/datasheet/65338

石川真一・斎藤 晋・峰村 宏・穴田 幸男・西村 尚之（2013）ブックレット群馬大学11　外来生物の脅威－群馬県における生息・生態・諸影響と除去方法－. 上毛新聞社事業局出版部, 群馬. 88pp.

Ishikawa, T. & Tachihara, K. (2013) Introduction history of non–native freshwater fish in Okinawa–jima Island: ornamental aquarium fish pose the greatest risk for future invasions. *Ichthyological Research*September 2013Published online.

伊藤玄・北村淳一・谷口倫太郎・熊谷正裕（2023）文献情報に基づく日本産タナゴ亜科魚類における国内外来種の分布状況. 保全生態学研究　28 : 125–135

Jang–Liaw N. H., Tominaga K., Zhang C., Zhao Y., Nakajima J., Onikura N., Watanabe, K. (2019) Phylogeography of the Chinese false gudgeon, *Abbottina rivularis*, in East Asia, with special reference to the origin and artificial disturbance of Japanese populations.*Ichthyol Res* 66:460–478

Kakioka, R., T. Kokita, R. Tabata, S. Mori & Watanabe, K. (2012) The origins of limnetic forms and cryptic divergence in *Gnathopogon* fishes (Cyprinidae) in Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 96, 631–644. doi:10.1007/s10641–012–0054–x

環境省中国四国地方環境事務所（2024）岡山県内におけるスイゲンゼニタナゴの危機的状況について（外来タナゴ類の確認について）

https://chushikoku.env.go.jp/procure/alienbl.html　[2026年1月閲覧]

春日清一（2001）霞ヶ浦の外来魚による生態系崩壊. 国環研ニュース　20(4):3–4.

片野修・馬場吉弘・大原均・河村功一・佐藤正人・熊谷雅之・竹内基・伊藤正一・富樫繁春・井上信夫（2014）国内外来魚カワムツ*Nipponocypris temminckii*　の分布拡大. 魚類学雑誌61(2):97–103.

川合禎次・川那部浩哉・水野信彦（編）(1980) 日本の淡水生物－侵略と攪乱の生態学. 東海大学出版会, 神奈川. 220pp.

Kawamura, K., Nagata, Y., Ohtaka, H., Kanoh Y. & Kitamura, J.（2001）Genetic diversity in the Japanese rosy bitterling, *Rhodeus ocellatus kurumeus* (Cyprinidae). *Ichthyol. Res.*, 48: 369–378.

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（監修・編）(2001)山溪カラー名鑑 日本の淡水魚（改訂版）. 山と溪谷社. 東京. 719pp.

北川忠生（2017）メダカ改良品種による野生集団の遺伝的攪乱. 2017 年度 市民公開講座「第3の外来魚問題」

－人工改良品種の野外放流をめぐる－ 要旨

北原佳郎（2024）ヒナモロコ属魚類*Aphyocypris kikuchii*の標準和名. *Ichthy* 48: 28–32.

Kottelat, M. and Freyhof, J. (2007) Handbook of European Freshwater Fishes. Kottelat, Cornol & Freyhof, Berlin, 646 pp.

栗田喜久・乾隆帝・中島淳・鬼倉徳雄（2011）福岡県北部の遠賀川水系山田川用水路における魚類の出現パターン. 日本生物地理学会会報. 66, 183–193.

Lever, C.(1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press, San Diego. 436pp.

Matsumoto, S., Kon, T., Yamaguchi, M., Takeshima, H., Yamazaki, Y., Mukai, T., Kuriwa, K., Kohda, M., & Nishida, M.（2009）Cryptic diversification of the swamp eel *Monopterus albus* in East and Southeast Asia, with special reference to the Ryukyuan populations. *Ichthyological Research* 57(1): 71–77.

松沢陽士・瀬能宏（2008）日本の外来魚ガイド. 文一総合出版. 東京. 157pp.

Miller, R. R. (2005) Freshwater fishes of Mexico. The University of Chicago Press. Chicago and London. 652pp.

Miyamoto, K., Fukuda, K. & Michita, Y. (2024) Evaluating the effectiveness of non–native brown trout suppression to improve native white–spotted charr stocking. *Ichthyol Res*, 71: 522–528. https://doi.org/10.1007/s10228–024–00959–z

諸澤崇裕・藤岡正博（2007）霞ヶ浦における在来4 種と外来3 種のタナゴ類(*Acheilognathinae*)の生息状況. 魚類学雑誌 54(2): 129–137.

中島淳（2020）ドジョウの実態とその保全. 農業および園芸 95(2):113–122.

中村亮太・泉北斗（2022）千葉県におけるカネヒラの新たな分布記録と繁殖の確認. *Niche Life* 10: 49–53.

中田和義・中岡利泰・五嶋聖治（2006）移入種ブラウントラウトが淡水産甲殻類に及ぼす影響：絶滅危惧種ニホンザリガニへの捕食. 日本水産学会誌 72: 447–449.

日本魚類学会自然保護委員会編（2013）見えない脅威”国内外来魚”どう守る地域の生物多様性. 東海大学出版会, 神奈川. 254pp.

西田睦（2001）モツゴの仲間. in: 松井（監）遺伝的多様性とは. 生物多様性センター, 富士吉田. 16–17.

野内孝則・荒山和則・富永敦（2008）霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. 茨城内水試研報. 41: 47–54.

大浜秀規・加地奈々・青柳敏裕（2011）県内におけるヒメドジョウの生息状況. 山梨県水産技術センター事業報告書40: 30–33.

Page, M. & Burr, B. M.（1991）A Field Guide to Freshwater Fishes. North America North of Mexico. Houghton Mifflin Company. New York. 448pp.

Pusey, B., Kennard, M. & Arthington, A. (2004) Freshwater fishes of north–easternAustralia. CSIRO Publishing, Collingwood. 700pp.

Ruzycski, J. R., Beauchamp, D. A. & Yule, D. L. (2003) Effects of introduced lake trout on native cutthroat trout in Yellowstone Lake. *Ecological Applications* 13: 23–37.

Sakai, H, Nakashima, N., Uno, T., Yonehana, M., Kitagawa, S. & Kuwahara, M. (2011) A Pelagic Cyprinid of Lake Biwa *Gnathopogon caerulescens* and a Brooklet–Dwelling Relative *G. elongatus* formed a Hybrid Swarm in a Dammed Reservoir Lake Ono. *Journal of National Fisheries University*, 60: 43–50.

酒井治己・米花正三（2012）山口県小野湖産コイ科魚類モロコ*Gnathopogon*　の筋肉タンパク質遺伝子型によって分けられる3 型間に形態的差異はあるか. *Journal of National Fisheries University*, 60: 145–150.

佐藤正康（2021）荒川水系黒目川と周辺水域における国内外来種カワヨシノボリの確認状況. . 川の博物館紀要 21:17–20.

自然環境研究センター（編著）(2019)決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 480pp.

瀬能宏（2000）今, 小田原のメダカが危ない－善意？の放流と遺伝子汚染. 自然科学のとびら. 6:14.

嶋津信彦（2013）沖縄島における外来魚ソードテールの分布拡大と駆除活動. 沖縄生物学会誌, 109–110.

清水孝昭・高木基裕（2010a）愛媛県に侵入したカラドジョウ集団内に見られた起源の異なる2つの遺伝子系統. 魚類学雑誌57(2): 125–134

清水孝昭・高木基裕(2010b)ミトコンドリアDNA による愛媛県を中心としたドジョウの遺伝的集団構造と攪乱. 魚類学雑誌57(1): 13-26.

侵入生物データベース <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

田子泰彦(2002)神通川で漁獲されたサクラマス最近の魚体の小型化. 日本水産増殖学会誌, 50(3): 387-391.

高田未来美・立原一憲・西田睦(2010)琉球列島におけるフナの分布と生息場所: 在来フナと移殖フナの比較. 魚類学雑誌 57(2): 113-123

鷹見達也・吉原拓志・宮腰靖之・桑原連(2002)北海道千歳川支流におけるアメマスから移入種ブラウントラウトへの置き換わり. 日本水産学会誌, 68: 24-28.

谷口倫太郎・川瀬成吾・小山直人・野口亮太・浅野雅人・中田和義(2025)兵庫県で採集された日本初記録の外來タナゴ. 日本生態学会第72回全国大会 講演要旨

谷口倫太郎・高橋鉄美・川瀬成吾・佐藤萌柚・野口亮太・柴 杉杉・小山直人・浅野雅人・中田和義(2025)外來種*Rhodeus albomarginatus* タイリクシロフチタナゴ(新称)の日本初記録および再生産. 日本生物地理学会会報, 80: 1-13.

竹花佑介(2010)メダカ:人為的な放流による遺伝的攪乱. 魚類学雑誌. 57(1): 76-79.

United States Geological Survey. <https://www.usgs.gov/>

USGS-NAS(United States Geological Survey – Nonindigenous Aquatic Species) <http://nas.er.usgs.gov/> [2026年1月閲覧]

渡辺勝敏・森誠一(2012)ネコギギ:積極的保全に向けたアプローチ. 魚類学雑誌, 59: 168-171.

Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. & Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with a. *kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.* 67, 361-374.

Werner, R. G.(2004)Freshwater Fishes of the Northeastern United States. A FIELD GUIDE. Syracuse University Press. Canada. 335pp.

Woodford, D. J., Impson, N. D., Jenny, A. D. & Roger, B.(2005)The predatory impact of invasive alien smallmouth bass, *Micropterus dolomieu* (Teleostei: Centrarchidae), on indigenous fishes in a Cape Floristic Region mountain stream. *African Journal of Aquatic Science* ,30(2): 167-173.

Wydoski, R. S. & Whitney, R. R. (2003) Inland fishes of Washington. Univ. Washington Press. Singapore. 384pp.

山形県内水試(2010)研究成果 平成22年度「関東系ヤマメと地場産サクラマスと両者の交雑群の成熟とスモルト」

山梨県水産技術センター(2007)研究課題:ヤマトイワナ種苗生産試験.

山崎浩二・阿部正之(2007)最新図鑑 熱帯魚アトラス. 平凡社. 東京. 559pp.

吉郷英範・岩崎誠(2004)沖縄島で繁殖している *Tanichthys albonubes* (硬骨魚類;コイ科). 比婆科学, 214:25-26.

【分類の並びを準拠した文献】

科(亜科)レベルの配列:Nelson, J. S. 2016. Fishes of the World, 5th ed. John Wiley & Sons, New York, 601pp.

科レベル以下の配列:細谷和海(編著)(2019)山溪ハンディ図鑑15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社

細谷(2019)に掲載されていないものは学名のアルファベット順

<昆虫類>

秋田勝己・乙部宏・高桑正敏(2010)三重県のフェモラータオオモモフトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, (473): 43-45.

秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏(2011)三重県に定着したフェモラータオオモモフトハムシ. 月刊むし, (485): 36-43.

安藤徒樹・平井幸成・重藤裕彬(2025)関東地方へのフェモラータオオモモフトハムシの侵入SAYABANE N. S,59: 1-5.

荒谷邦雄(2003a)外国産クワガタ・カブトの輸入規制緩和による在来個体群への影響. 遺伝, 57(4): 2-9.

荒谷邦雄(2003b)ペットとして輸入される外国産コガネムシ上科甲虫の影響. 森林科学, 38: 21-32.

荒谷邦雄(2005)最近の外国産クワガタムシ、カブトムシ事情. 昆虫と自然, 40(4): 27-32.

Catalogue of Life (COL)[2025年1月閲覧]

戎谷秀雄・宮武頼夫(2011)三重県におけるフェモラータオオモモフトハムシの2006年の記録. 月刊むし, (488): 41.

藤田宏(2018)伊豆諸島神津島にも定着した外來種・リュウキュウツヤハナムグリ. 月刊むし, (574):9.

五箇公一・小島啓史(2004)外來昆虫の引き起こす問題ー外国産クワガタムシの輸入を巡って. 環動昆, 15(2): 137-146.

原田豊・細石真吾・山根正気(2017)鹿児島県本土で初確認された侵略的外來種アシナガキアリ. *Nature of Kagoshima*, (44): 9-12.

橋本佳明(編)(2020)外來アリのはなし. 朝倉書店, 東京. 187pp.

林成多・門脇久志(2019)隠岐諸島産昆虫類の種数調査. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 第23号: 1 -76.

東正剛・緒方一夫、サンフォード・D・ポーター(2008)ヒアリの生物学:行動生態と分子基盤. 海游社. 228pp.

堀繁久(1996)カブトムシ. 東清二(編著)沖縄昆虫野外観察図鑑 第2巻甲虫目[改訂]

細谷忠嗣(2014)トカラ列島宝島における外來糞虫ヤエヤマニセツツマグソコガネの定着について. *Kogane*, (16): 95-98.

井岡稔貴・田中良尚(2018)アマミマルバネクワガタとマキシムマルバネクワガタ台湾亜種の異種間交雑例. さやばねニューシリーズ= Sayabane NS, (30), 56-58.

IOKA, R., YAMASAKI, K., NAKA, H., HIRAI, N. & UEDA, S. (2026) Genetic diversity and molecular phylogeographic analysis of an alien praying mantis, *Hierodula chinensis*, in Japan.*Entomological Science*, 29 e12628,1-13.

ISSG-GISD(Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <http://www.issg.org/database/welcome/>

岩田隆太郎(2018)クビアカツヤカミキリ(*Aromia bungii*)の現状:その分類・分布・生理・生態・根絶法. 森林防疫, 67(6), 7-34.

岩田朋文(2022)富山県における外国産カブトムシ(アトラスオオカブト属)の野外での発見例3題. 富山市科学博物館研究報告, 46, 67-68.

岩田朋文(2024)富山県における外国産クワガタムシ(アルキデスヒラタクワガタ)の野外での発見例. 富山市科学博物館研究報告, 48, 65-66.

Kanbe, Y., Okada, I., Yoneda, M., Goka, K. & Tsuchida, K.(2008)Interspecific mating of the introduced bumblebee *Bombus terrestris* and the native Japanese bumblebee *Bombus hypocrita sapporoensis* results in inviable hybrids. *Naturwissenschaften*, 95(10): 1003-1008.

環境省 要緊急対処特定外來生物 ヒアリに関する情報[2025年7月閲覧]

環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室(2013)アルゼンチンアリ防除の手引き(改訂版).環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室. 東京.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)(2015)レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5昆虫類. p434.

苅部治紀・松本浩一・尾園暁(2008)カンショオサザウムシによるノヤシ加害についての速報. 小笠原研究年報, (31): 95-99.

苅部治紀・松本浩一・尾園暁(2009)小笠原諸島におけるカンショオサザウムシによるノヤシの被害続報. 小笠原研究年報, (32): 71-78.

苅部治紀・加賀玲子(2019)神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に関する生態的知見. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*48:75-80.

片野田逸朗・谷口明(1997)奄美群島に侵入したタイワンカブトムシの生態と防除. 鹿児島県林試研報, 3: 1-26.

川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫(2024)奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ(新称)(半翅目:マルカイガラムシ科)の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究. 28(1): 3-9.

川井信矢(2000)日本及び台湾初記録のニセツツマグソコガネ. 鰐角通信, (1): 9-11.

岸本圭子・岸本年郎・酒井香・寺山守・太田祐司・高桑正敏(2017)国内外来種を含む訪花性ハナムグリ亜科5種の発生状況ー東京港野鳥公園の事例ー. 保全生態学研究, 22(1): 159-170.

小林裕和・松岡進樹(2010)アオドウガネとヤマトアオドウガネ. 鰐角通信, (21): 93-96.

小林陽允・寺山守・砂村栄力・江口克之・小栗 恵美子(2024)日本における外來種アシジロヒラフシアリの侵略性に関わる生態情報. 衛生動物, 75(3): 163-168.

小濱継雄・嵩原建二(2002)沖縄県の外來昆虫. 沖縄県立博物館紀要, 28, 55-92.

国立環境研究所侵入生物データベース[2025年1月閲覧]

近藤健・大林隆司・小野剛・竹内浩二・井川茂・小谷野伸二(2009)小笠原諸島父島におけるアメリカシロヒトリの発生消長. 関東東山病害虫研究会報第56集, pp.103-106.

楠井善久(2005)沖縄のシロテンハナムグリ属における固有種と外來種の種間交雑について(学会発表).

九州地方環境事務所(2023)ツマアカスズメバチ防除計画. <https://kyushu.env.go.jp/content/000129566.pdf>[2025年10月閲覧]

Lee, S., Lee, M. H., Choi, W., Jang, H., Kim, J. & Lee, S. (2025) Establishment of *Sagra femorata* (Coleoptera:Chrysomelidae) in South Korea.

楨原 寛(2002)外來の森林・木材害虫ー中国産ツヤハダゴマダラカミキリのアメリカへの侵入と日本への波及. 昆虫と自然, 37(3): 20-22.

元陳力昇・森 英章(2022)国内外來生物ヤエヤママドボタルの分布拡大によるアマノヤマタカマイマイへの影響および保全に向けた取り組みについて. 日本貝類学会令和4年度大会.

武藤将道・吉井重幸・塘忠顕(2022)福島県で最近発見された外來カミキリ *Apriona swainsoni swainsoni* (Hope, 1840)(コウチュウ目・カミキリムシ科・フトカミキリ亜科) の分布, 食害および後食に関する予備的な報告. 昆虫. ニューシリーズ, 25(1): 18-24.

名嘉猛留・山根正気(2021)クロスズメバチ属の沖縄県からの初記録. *Nature of Kagoshima*, 48: 95-98.

日本生態学会(編)(2002)外來種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.

日本チョウ類保全協会(編)(2019)フィールドガイド増補改訂版日本のチョウ. 誠文堂新光社. 東京, 343pp.

日本列島昆虫全種目録[2025年1月閲覧]

野林千枝(2004)沖縄島産シロテンハナムグリの変異. 鰐角通信(8): 15-20.

織谷幸太・織谷咲良(2021)神奈川県川崎市およびその多摩川対岸におけるリュウキュウツヤハナムグリの記録. 月刊むし, (610)

大田真人(2012)東京都大田区でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, (502):16.

佐藤嘉一・伊禮英毅(2003)九州・沖縄に侵入してきたヤシ類害虫. 森林科学, 38:46-51.

Seshima, Y. & Yoshida, T. (2026) Integrative Taxonomic Revision of the Subgenus *Pyropotosia* REITTER, 1898 (Coleoptera, Scarabaeidae, Getoniinae) with the Larval Descriptions. *Elytra New Series*, 16(1): 127-157.

嶋本習介(2014)千葉県でリュウキュウツヤハナムグリを採集. 月刊むし, 516:46-47.

森林総合研究所(2022)酷似の外來種メスに徒勞の交尾 カミキリ在來種への影響懸念. <https://www.ffpri.go.jp/research/saizensen/2022/20220513.html> (2026年8月4日閲覧)

自然環境研究センター(編著)(2019)最新 日本の外來生物. 平凡社. 東京, 592pp.

高橋純一・佐賀達矢(2026)スズメバチの生物学. 北隆館, 東京. 348pp.

田中宏卓・紙谷聡志(2025)奄美大島と沖縄島に侵入したソテツシロカイガラムシは種が異なる？. 日本昆虫学会第85回講演要旨.

田付貞洋(編)(2014)アルゼンチンアリ 史上最強の侵略的外來種. 東京大学出版会. 331pp.

田付貞洋(編)アルゼンチンアリ―史上最強の侵略的外來種. 東京大学出版会. 東京, 331pp.

寺山守(2017)ハヤトゲフシアリ(Browsing ant):侵略的外來アリの侵入. 埼玉動物研通信, No.89: 33–40.

寺山守(2018a)アカヒアリ(ヒアリ):概説と最近の動向. <https://terayama.jimdofree.com/> [2025年7月閲覧]

寺山守(2018b)アルゼンチンアリ概説. <https://terayama.jimdofree.com/> [2025年7月閲覧]

寺山守(2024)コカミアリ概説. <https://terayama.jimdofree.com/> [2025年7月閲覧]

寺山守(2022)ホクベイヒアリ*Solenopsis xyloni*の国内での発見. 蟻(43). 34–37.

寺山守・盛口満(2026)クロスズメバチ基亜種(ハチ目, スズメバチ科)の沖縄島への定着. Insecta Akitsushimana, 8: 1–3.

寺山守・盛口満・山根正気(2024)クロスズメバチ基亜種(ハチ目, スズメバチ科)の沖縄県からのワーカーに基づく記録. 日本生物地理学会会報, 79: 9–12.

辻本悟志(2023)外來のカイガラムシ*Aulacaspis yasumatsui* によるソテツの被害と防除. https://churashima.okinawa/sp/userfiles/files/240813_kaigaramusi.pdf [2025年7月閲覧]

辻本悟志・亀山統一・久保駿太郎・山城勝・高山新吾・吉元充・川口エリ子・坂巻祥孝(2024)ソテツに加害するカイガラムシ*Aulacaspis yasumatsui*の沖縄島への侵入実態とその薬剤防除上の課題. 樹木医学研究. 28(3). 147–151.

Villemant, C., Barbet–Massin, M., Perrard, A., Muller, F., Gargominy, O., Jiguet, F. & Rome, Q.(2011)Predicting the invation risk by the alien bee–hawking Yellow–legged hornet *Vespa velutina nigrithorax* across Europe and other continents with niche models. Biological Conservation, 144: 2142–2150.

山根正気(2020)スズメバチ科 Vespidae, 日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員会(編)日本昆虫目録 第9 巻第3 部. 權歌書房, 福岡. pp. 168–195.

山根正気・幾留秀一・寺山 守. 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 北海道大学図書刊行会, 札幌. pls. 25 + xii + 831 pp.

Yamasaki K., Shütte, K. & Nawa, T. (2022) New record of Chinese Reddish Mantis, *Hierodula chinensis* Werner, 1929 (Mantodea, Mantidae) from Japan.Check List 18 (1)147–150.

Yokoyama, J. & Inoue, M. (2010)Status of the range expansion of an introduced bumblebee, *Bombus terrestris* (L.), in Japan. Applied Entomology and Zoology, 45(1): 21–27.

渡辺恭平・廣瀬勇輝・山根正気(2021)沖縄島で確認されたクロスズメバチ名義タイプ亜種 *Vespula f laviceps flaviceps* (Smith, 1870)(ハチ目, スズメバチ科)のオス個体と本亜種の野外定着の可能性. Nature of Kagoshima, 48: 153–160.

【分類の並びを準拠した文献】

日本昆虫目録に従った。日本昆虫目録に掲載されていないものについては準ずるWebサイト(日本列島昆虫全種目録、Antwiki)を参考とした。

<陸生節足動物>

Blick, T., Chatzaki, M., Jäger, P., Kropf, C., Ono, H., & Rheims, C.,eds., 2025. The World Spider Catalog (version 26). In O. Bánki, Y. Roskov, M. Döring, G. Ower, D. R. Hernández Robles, C. A. Plata Corredor, T. Stjernegaard Jeppesen, A. Örn, T. Pape, D. Hobern, S. Garnett, H. Little, R. E. DeWalt, J. Miller, T. Orrell, & R. Aalbu, Catalogue of Life (2025–10–10 XR). Catalogue of Life Foundation, Amsterdam, Netherlands. <https://doi.org/10.24436/2>

千代田創真・八尾晃史(2024)台湾原産の外來種であるヤンバルトサカヤスデの伊豆諸島青ヶ島からの記録(2024)Med. Entomol. Zool. Vol. 75 No. 3 p. 185–187.

Clark, R. F., Wethern–Kestner, S., Vance, M. V. & Gerkin, R. (1992) Clinical presentation and treatment of black widow spider envenomation: a review of 163 cases. Annals of emergency medicine, 21(7): 782–787.

Dželalija, B. & Medić, A. (2003) *Latrodectus* Bites in Northern Dalmatia, Croatia: Clinical, Laboratory, Epidemiological, and Therapeutical Aspects. Croatian medical journal, 44(2): 135–138.

江口克之・塚 本将・Francesco Ballarin・沓 掛文・薄田真由(2022)台湾原産の不快害虫であるヤンバルトサカヤスデ*Chamberlinius hualienensis* (オビヤスデ目ヤケヤスデ科)の東京都本土における初確認. 衛生動物, 73(2): 59–61.

藤山静雄(2009)外來種ヤンバルトサカヤスデの日本本土での定着の可能性について. 信州大学環境科学年報, 31: 133–136.

ゴケゲモ情報センターHP <http://www.insbase.ac/xoops2/modules/bwiki/> [2026年1月閲覧]

石田剛之・藤山静雄(2010)ヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualienensis* Wang の産卵誘起に及ぼす温度と日長の影響(予報). 信州大学環境科学年報, 32: 99–102.

神谷貴文(2023)外來不快害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態情報とまん延対策. 環動昆 第34 巻 第1 号:9–16.

国立保険医療科学院(2016)No.1380 輸入衣服に付着して侵入したサソリによる刺症事例. [2025年1月閲覧]

森戸浩明(2017)イトグモ(*Loxosceles rufescens*)によるイトグモ咬症(loxoscelism)の1例. 日本皮膚科学会雑誌, 127(6): 1339–1344.

Nentwig, W., Pantini, P., Richard S. & Vetter, R. S. (2017)Distribution and medical aspects of Loxosceles rufescens, one of the most invasive spiders of the world (Araneae: Sicariidae). Toxicon, 132: 19–28.

新島溪子(2002)ヤンバルトサカヤスデによる列車妨害記録. Edaphologia, 69: 47–49.

奥村賢一・松尾公則(2022)長崎県でのヤンバルトサカヤスデChamberlinius hualienensis Wang 1956の発見. 長崎県生物学会誌, 91: 1–3.

小野博嗣(編著)(2009)日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野. 738pp.

自然環境研究センター(編著)(2019)決定版 日本の外來生物. 平凡社, 東京. 480pp.

清水裕行・金沢至・西川喜朗(2014)日本のゴケゲモ類5種の分布状況とセアカゴケゲモの分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物館研究報告, 68, 41–51.

新海栄一(編著)(2017)ネイチャーガイド, 日本のクモ(増補改訂版). 文一総合出版, 東京. 407pp.

Taucare-Ríos A., Nentwig, W., Bizama, G. & Bustamante, R.O. (2018) Matching global and regional distribution models of the recluse spider *Loxosceles rufescens*: to what extent do these reflect niche conservatism? Medical and Veterinary Entomology, 32(4), 490–496.

Wahlberg, A. C., Antoniazzi, R., & Schalk, C. M. (2023). Patterns of the introduction, spread, and impact of the brown widow spider, *Latrodectus geometricus* (Araneae: Theridiidae), in the Americas. The Journal of Arachnology, 51(2), 195–205.

【分類の並びを準拠した文献】

日本分類学連合ウェブサイト 日本産生物種数調査 <http://www.ujssb.org/biospnum/search.php>

<甲殻類>

Cohen, A. N., Carlton, J. T. & Fountain, M. C. (1995) Introduction, dispersal and potential impacts of the green crab *Carcinus maenus* in San Francisco Bay, California. Marine Biology, 122: 225–237.

Darling, J. A. & Tepolt, C. K. (2008) Highly sensitive detection of invasive shore crab (*Carcinus maenas* and *Carcinus aestuarii*) larvae in mixed plankton samples using polymerase chain reaction and restriction fragment length polymorphisms (PCR–RFLP). Aquatic Invasions, 3(2): 141–152.

Dick, J. T. A. & Platvoet, D. (2000) Invading predatory crustacean *Dikerogammarus villosus* eliminates both native and exotic species. Proc. R. Soc. Lond. B. 267: 977–983.

Dick, J. T. A., Platvoet, D. & Kelly, D. W. (2002)Predatory impact of the freshwater invader *Dikerogammarus villosus* (Crustacea: Amphipoda). Can. J. Fish. Aquat. Sci. 59: 1078–1084.

Dittel, A.I., Epifanio, C.E. (2009) Invasion biology of the Chinese mitten crab *Eriocheir sinensis*: a brief review. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 374: 79–92.

土井航・渡邊精一・風呂田利夫(2009)大都市近郊の内湾域に定着した外來種のカニたち. 海の外來生物–人間によって攪乱された地球の海. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会: 76–90.

Doi, W., Iinuma, Y., Yokota, M. & Watanabe, S. (2009). Comparative feeding behavior of invasive (*Carcinus aestuarii*) and native crabs (*Hemigrapsus takanoi*). Crustacean Research, 38: 1–11.

Grosholz, E. D. (2005) Recent biological invasion may hasten invasional meltdown by accelerating historical introduction. PNAS (Proceedings of the National Academy of Science of the United States of America), 102: 1088–1091.

星野 亨・群馬県立尾瀬高等学校理科部・大高 明史・スミス ロビン J. (2023) 群馬県菅沼におけるウチダザリガニ*Pacifastacus leniusculus*と共生ヒルミズおよび貝形虫の新記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, 27: 99–106.

池末弥(1967)コウライエビの増養殖に関する研究–I. 水産増殖, 15(2): 1–5.

池末弥・木村重人・山下康夫(1967)コウライエビの増養殖に関する研究–III. 水産増殖, 15(2): 33–42.

今井正・小笠原長護・斉藤英俊(2021)豊田市と大府市における淡水エビの外來種チュウゴクスジエビの記録. 矢作川研究, (25): 15–19.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義.(2025). 日本の海産外來種: 2002–2003年と2022–2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1). 62–136.

加戸隆介(2006)キタアメリカフジツボ-北米からきて北日本の潮間帯を席卷した新しい移入種-. In: 日本付着学会編 フジツボ類の最新学 知られざる固着性甲殻類と人との
かかわり: 80–92.

加戸隆介(2017)北日本に侵入・定着した新しい移入フジツボ 2 種の特徴と分布拡大. マリンエンジニアリング, 52(1): 3–8.

Kado, R. & Nanba, N. (2006)Balanus glandula: a new alien barnacle from the west coast of North America, established on thenortheast coast of Japan. Assessment and
control of biological invasion risks: 210–211.

Kado, R., & Nanba, N. (2016) Normality of succession of an intertidal community after the great east Japan earthquake. In Ecological Impacts of Tsunamis on Coastal
Ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake. Springer, Tokyo, 2016: 11–24.

Kakui, K. & Komai, T. (2022) First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdocoela) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp Neocaridina sp. aff.
davidi (Decapoda: Caridea: Atyidae). Aquatic Animals, 2022: AA2022–1.

環境省(2020). 特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる外来生物及び輸入届出が出された未判定外来生物に係る情報及び評価(案)(昆虫等陸生節足動物、無脊
椎動物、植物) https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/12/03_zentai_12_siryō3.pdf

金田彰二・倉西良一・石綿進一・東城幸治・清水高男・平良裕之・佐竹潔(2007)日本における外来種フロリダマミズヨコエビ(Crangonyx floridanus Bousfield)の分布の現状.
陸水学雑誌, 68(3): 449–460.

北田修一(2016)種苗放流の効果と野生集団への影響. 日本水産学会誌, 82(3): 241–250.

Kobayashi, S. (2012). Molting growth patterns of the Japanese mitten crab *Eriocheir japonica* (De Haan) under laboratory-reared conditions. Journal of Crustacean
Biology, 32(5): 753–761.

小松浩典(2023)自然教育園に侵入した外来種シナヌマエビ種群 *Neocaridina* spp. Reports of the Institute for Nature Study, 55: 11–14.

倉西良一(2009)多摩川水系に侵入した外来動物「フロリダマミズヨコエビ」の分布・拡散の現状と生態系への影響予測: 2008年. とうきゅう環境浄化財団. 96pp.

丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也(1987)外国産新魚種の導入経過 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所. 157pp.

Mori, K & Tanaka, M. (1989) Intertidal community structure and environmental conditions of exposed and sheltered rocky shores in Amakusa, Japan. Publications from
the Amakusa Marine Biological Laboratory, Kyushu University, 10: 41–64.

森敬介(2006)内湾護岸壁におけるフジツボ類の空間競争. 『フジツボ類の最新学』(日本付着生物学会編).恒星社厚生閣, 東京. 112–128.

西野麻知子・丹羽信彰(2004)新たに琵琶湖へ侵入したシナヌマエビ?(予報). オウミア.

Noordhuis, R., van Schie, J. & Jaarsma, N. (2009) Colonization patterns and impacts of the invasive amphipods *Chelicorophium curvispinum* and *Dikerogammarus villosus*
in the IJsselmeer area. The Netherlands. Biological Invasions, 11(9): 2067–2084.

大森正之(2022)諫早湾干拓による漁業資源の劣化から再生へ. 明大商學論叢, 104(2): 17–32.

大貫貴清・鈴木伸洋・秋山信彦(2010)静岡県浜松市の溜池で新たに発見された移入種 *Palaemonetes sinensis* の雌の生殖周期. 水産増殖, 58(4): 509–516.

斉藤英俊・鬼村直生・米谷公宏・清水識裕・小林薫平・児玉敦也・河合幸一郎(2017)外来釣り餌動物チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* の出現状況. 広島大学総合博
物館研究報告, (9): 33–39.

自然環境研究センター(編著)(2019)最新 日本の外来生物 平凡社, 東京. 592pp.

東城幸治(2009)外来種フロリダマミズヨコエビと在来ヨコエビ種間の個体群ダイナミクス追求、ならびに外来種の分布拡大防止策検討. 河川整備基金助成事業. 69pp.

Trussell, G. C. (2000) Phenotypic clines, plasticity, and morphological trade-offs in an intertidal snail. Evolution, 54: 151–166.

内田大貴・山川宇宙・碧木健人・皆川優作・神田雅治(2021)埼玉県で確認された外来種チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis*. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 15: 33–
36.

Vogt, G., Falckenhayn, C., Schrimpf, A., Schmid, K., Hanna, K., Panteleit, J., Helm, M., Schulz, R., & Lyko, F. (2015) The marbled crayfish as a paradigm for saltational
speciation by autopolyploidy and parthenogenesis in animals. Biology open, 4(11): 1583–1594.

山口寿之(2009)新たな外来フジツボ 最新情報 海の外来生物, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会編, 東海大学出版会, 神奈川: 49–71,

山口寿之(1989)外国から日本に移住したフジツボ類, 特に地理的分布および生態の変化. 神奈川自然誌資料, 10:17–32.

Yamaguchi, T., Prabowo, R. E., Ohshiro, Y., Shimono, T., Jones, D., Kawai, H., Otani, M., Oshino, A., Inagawa, S., Akaya, T. & Tamura, I. (2009). The introduction to Japan of
the Titan barnacle, Megabalanus coccopoma (Darwin, 1854) (Cirripedia: Balanomorpha) and the role of shipping in its translocation. Biofouling, 25: 325–333.

山口寿之・大城祐・稲川奨(2011)外来種ココポーマアカフジツボの越境と遺伝的特性. 遺伝: 生物の科学, 65(1): 90–97.

山口寿之(2014)外来種ココポーマアカフジツボの国内分布. Sessile Organisms, 31(2): 15–23.

【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: “Invertebrates 4th ed.”に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

<軟体動物>

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ(2021)愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021

https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-download.html

愛知県環境局 環境政策部自然環境課 野生生物・鳥獣グループ(2012)愛知県移入種対策ハンドブック-ブルーデータブックあいち2012

https://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/Download/08_shiryolist.pdf

Barker, G. M. & McGhie,R. A. (1984) The biology of introduced slugs (Pulmonata) in New Zealand. 1.Introduction and notes on introduction and notes on *Limax maximus*
The New Zealand Entomologist 8:106–111.

Brannock, P.M., Wethey, D.S. & Hilbish, T. J. (2009) Extensive hybridization with minimal introgression in *Mytilus galloprovincialis* and *M. trossulus* in Hokkaido, Japan.
Marine Ecology Progress Series, 383: 161–171.

遠藤雅実・佐々木淳(2020)ホンビノスガイの貧酸素環境耐性およびへい死量推定に関する検討. 土木学会論文集 B2(海岸工学), 76(2): 1_1057–1_1062.

Fisher, T. W., Orth, R. E. & Swanson, S. C. (1980) Snail against snail. California Agriculture, Nov–Dec. pp.18–21.

福田宏(2003)西日本における貝類の移入. 日本ベントス学会自然環境保全委員会, 企画シンポジウム「移入海産ベントスの生息状況と環境的課題」報告. 日本ベントス学
会誌, 58: 99–100.

福田宏(2004)外来種と同定の問題. 日本ベントス学会誌, 59: 68–73.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係.(2018). 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf

萩原富司・白井亮久・諸澤崇裕・熊谷正裕・荒井聡(2021)霞ヶ浦におけるイケチョウガイ属 *Sinohyriopsis* spp. の定着. 伊豆沼・内沼研究報告, 15: 139–149.

Haubrock, P. J., Cuthbert, R.N., Ricciardi, A., Diagne, C. & Courchamp, F. (2022) Economic costs of invasive bivalves in freshwater ecosystems. Diversity and Distributions
28:1010–1021

樋口広芳・長谷川雅美・上條隆志・岩崎由美・菊池健・森由香(2020)伊豆諸島八丈小島におけるノヤギ駆除後の島嶼生態系回復状況と復元に向けた基礎調査―伊豆諸
島自然史研究会―. 自然保護助成基金助成成果報告書, 29: 94–102.

平野尚浩・田谷昌仁・伊藤 舜・工藤広大・和田慎一郎(2023)外来陸産貝類アジアベッコウは陸産貝類の生体を捕食する. 日本貝類学会令和5年度大会.

樋渡武彦・木幡邦男(2005)東京湾に移入した外来大型二枚貝ホンビノスガイについて. 水環境学会誌, 28(10): 8–21.

北海道 環境生活部自然環境局 自然環境課(生物多様性). (2025年3月26日更新). 北海道ブルーリスト2010 北海道外来種データベース

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/bluelist/bluelist_top.html

Hsiao, S.T. & Chuang, S.C.(2023) Meretrix taiwanica (Bivalvia: Veneridae), a previously misidentified new species in Taiwan. Molluscan Research, 43(1): 12–21.

石田惣(2020)市民科学による大阪府のオオクビキレガイの生息調査, 並びに分布の現況. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 78(3–4), 105–118.

岩崎敬二(2019) Distribution of native Mytilus trossulus and non-native M. galloprovincialis (Mytilidae: Bivalvia) along the coast of Hokkaido Island, Japan. 奈良大学紀要,
(47): 37–54.

Iwasaki, K. (2024) Negative Impacts on Native Intertidal Zonation by the Non-Indigenous Mytilid Mussel Xenostrobus securis. 奈良大大学紀要, (52): 51–69.

Iwasaki, K., & Yamamoto, H. (2014) Recruitment and population structure of the non-indigenous brackish-water mytilid Xenostrobus securis (Lamark, 1819) in the Kino
River, Japan. Aquatic Invasions, 9(4): 479–487.

岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西栄二郎・山西良平・林 育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井 宏(2004). 日本
における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59: 22–44.

岩崎敬二・木下今日子(2004)日本に人為的に移入された非在来海産ベントスの分布拡大について. 日本プランクトン学会報, 51(2): 132–144.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿
之・良永知義.(2025). 日本の海産外来種: 2002–2003年と2022–2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80(1). 62–136.

国土交通省 河川局 環境課(2024) 令和4年度河川水辺の国勢調査結果の概要[河川版](生物調査編)Ⅱ.調査項目別調査結果の概要 2.底生動物調査結果の概要.
環境省 参考資料2 リスト案についての各学会からの意見<動物(その他無脊椎動物)>. 63pp.

Kimura, K. (2015). Interference effect of the alien land snail Macrochlamys sp. on the native land snail Bekkochlamys perfragilis. Research Bulletin of Environmental
Education Center, Miyagi University of Education, 17: 59–61.

木村妙子 2009. 海の外来貝類の現状と研究のススメ. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会(編), 海の外来生物, 東海大学出版会, 秦野市, pp. 33–48.

近藤健・五十嵐清晃(営農研修所)(2021)野菜, 果樹, 花卉・切葉類の生産性向上～外来カタツムリ「アジアベッコウ」の農作物に対する食性調査及び農業による防除効果
の検討～, 亜熱帯における農業技術の普及及び経営指導, 1野菜, 果樹, 花卉, 切葉類の生産向上(6)

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2024) 京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類、海産生物以外)。

<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

増田ほか(2010)兵庫県初記録の外来淡水腹足類コモチカワツボ (ミズツボ). 兵庫陸水生物, 61: 149–153.

Matsukuma, A. & Takeda, S. (2009) An invasive snail *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758) in Japan, with records of quarantine by the Plant Protection Station, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japan during 1997–2007. Bulletin of the Kyushu University Museum 7: 35–85.

Matsukura, K., Okuda, M. & Wada, Y. (2008) Genetic divergence of the genus *Pomacea* (Gastropoda:Ampullariidae) distributed in Japan, and a simple molecular method to distinguish *P. canaliculata* and *P. insularum*. Applied entomology and zoology, 43 (4): 535–540.

中村泰男・金谷弦・小泉知義・牧秀明 (2012) 大井人工干潟 (京浜運河・東京湾) 周辺の環境変動と二枚貝の生残: とくに溶存酸素濃度と底泥硫化物に着目して. 水環境学会誌, 35(8): 127–134.

根本隆夫・杉浦仁治・古丸明 (2003) 利根川・霞ヶ浦北浦における外来シジミの分布について. 茨城内水面水産試験場調査研究報告, 38: 32–41.

日本生態学会 (編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館. 東京. 390pp.

大越健嗣・大越和加 (編) (2011) 海のブラックバス サキグロタマツメタ 恒星社厚生閣, 東京. 244pp.

大越健嗣 (2004) 輸入アサリに混入して移入する生物—食害生物サキグロタマツメタと非意図的移入種. 日本ベントス学会誌, 59, 74–82.

Rollo, D.C. (1983) Consequences of competition on the reproduction and mortality of three species of terrestrial slugs. Researches on Population Ecology 25: 20–43.

佐々木哲朗・佐竹潔・土屋光太郎 (2009) 小笠原諸島における外来種ヌメカワニナと固有種オガサワラカワニナの分布, 特に河川改修工事が与える影響について. 陸水学雑誌, 70(1): 31–38.

白井亮久・近藤高貴・梶田忠 (2010) 分子データから示された琵琶湖固有の絶滅危惧種イケチョウガイの移入種ヒレイケチョウガイによる遺伝的攪乱. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 68(3–4): 151–163.

高倉耕一 (2008) 大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力. 大阪市立環科研報報告 平成19年度 第70集: pp.43–51.

寺本沙也加・阿部陽・小林俊将 (2024) 東北太平洋沿岸におけるヨーロッパヒラガキ (軟体動物門: 二枚貝綱: イタボガキ科) の移入と定着状況について. Venus (Journal of the Malacological Society of Japan), 82(1–4): 133–151.

梅谷献二 (編) (2012) 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 全国農村教育協会. 404pp.

浦部美佐子 (2007) 本邦におけるコモチカワツボの現状と課題. 陸水学雑誌, 68: 491–496.

Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2012) Hybridization between *Meretrix lusoria* and the alien congeneric species *M. petechialis* in Japan as demonstrated using DNA markers. Aquatic Invasions, 7: 327–336.

Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2013) PCR-RFLP typing reveals a new invasion of Taiwanese *Meretrix* (Bivalvia: Veneridae) to Japan, Aquatic Invasions (2013) Volume 8, Issue 4: 407–415.

山崎友資・川南拓丸・岸本喜樹・澤野直紀・五嶋聖治 (2009) 北海道南部に置ける外来種シマメノウフネガイの抱卵と漁業被害. ちりぼたん, 39:156–161.

横山寿 (2019a) 外来シジミ類の分類と生態– I 日本と世界における侵入・拡散. 陸水学雑誌, 80(3): 125–144.

横山寿 (2019b) 外来シジミ類の分類と生態– II 生物学の特徴と生態系への影響. 陸水学雑誌, 80(3): 145–163.

【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: “Invertebrates 4th ed.”に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストを参考に整理

<その他無脊椎>

Benítez–Álvarez, L., Leria, L., Sluys, R., Leal–Zanchet, A. M. & Riutort, M. (2023) Niche modelling and molecular phylogenetics unravel the colonisation biology of three species of the freshwater planarian genus *Girardia* (Platyhelminthes, Tricladida). Hydrobiologia, 850(14): 3125–3142.

福岡県 環境部 自然環境課 野生生物係 (2018) 福岡県侵略的外来種リスト2018 第2章 福岡県侵略的外来種リスト選定種の解説.

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/39348.pdf>

Hookabe, N., Hiruta, F S., Yabuki, A., Yoshino, H., Hisasue, Y., Sawada, N., Ueshima, R. & Kajihara, H. (2025) Unrecognized species–level diversity of terrestrial nemertean in the UNESCO world heritage Ogasawara Islands revealed by mitogenomics. , BMC Ecology and Evolution, 25, 135: 1–16.

ISSG–GISD (Invasive Species Specialist Group – Global Invasive Species Database) <https://www.iucngisd.org/gisd/>

Ivanov, V. P., Kamakin, A. M., Ushivtzev, V. B., Shiganova, T., Zhukova, O., Aladin, N., Wilson, S. I., Harbison, G. R., & Dumont, H. (2000) Invasion of the Caspian Sea by the comb jellyfish *Mnemiopsis leidyi* (Ctenophora). Biological Invasions, 2: 255–258.

Iwai, N., S. Sugiura, Chiba, S. (2010) Predation impacts of the invasive flatworm *Platydemus manokwari* on eggs and hatchlings of land snails. Journal of Molluscan Studies, 76(3): 275–278.

岩崎敬二・逸見泰久・木村妙子・佐藤慎一・中山聖子・風呂田利夫・阿部博和・大谷道夫・柏尾 翔・加戸隆介・小玉将史・斉藤英俊・土井 航・西川輝昭・平野弥生・山口寿之・良永知義.(2025). 日本の海産外来種: 2002–2003年と2022–2023年のアンケートの結果から. 日本ベントス学会誌, 80 (1).62–136

Jones, H. D., & Sterrer, W.O.L.F.G.A.N.G. (2005). Terrestrial planarians (Platyhelminthes, with three new species) and nemertines of Bermuda. Zootaxa, 1001(1): 31–58.

金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭 (2012) 外来種ヨーロッパザラボヤ *Ascidella aspersa* (Müller, 1776) の生物学の特徴と簡易識別および同定について (技術報告). 北水試研報, 81: 151–156.

環境庁 (1977) 松くい虫防除特別措置に関する調査研究 昭和52年3月 自然環境保全のための調査研究.

川勝正治・西野麻知子・大高明史. (2007). プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌, 68(3), 461–469.

川勝正治・鶴田大三郎・木村知之・茅根重夫・村山 均・山本清彦 (2008) 日本の平地水域のプラナリア類–在来種と外来種の手引き.

<http://www.riverwin.jp/pl/flatland/Flatland%20FPs%202008%20Shibuki-%20tsubo%20in%20Jap.pdf>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2002) 京都府レッドデータブック2002 甲殻類およびその他の淡水産無脊椎動物.

<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb2002/bio/crustacea.html>

京都府 総合政策環境部 自然環境保全課 (2024) 京都府外来種データブック(2020) その他無脊椎動物(貝類、海産生物以外)。

<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/databook2020.html>

宮下実・原田愛美・野口真実 (2014) <調査報告> オオマリコケムシの和歌山県における初確認と紀の川市・岩出市の文布状況. 近畿大学先端技術総合研究所紀要, 19: 1–11.

西川輝昭・横山寿 2018. 外来種ヨーロッパザラボヤの紀伊半島英虞湾における生活史 (試論). 南紀生物, 60(2): 228–232.

Nishikawa, T, Yasuda, A., Murata, Y. & Otani, M. (2019) The Earliest Japanese records of the invasive European ascidian (Müller, 1776) (Urochordata: Ascididae) from Mutsu and Ago Bays, with a brief discussion of its invasion processes. Sessile Organisms, 36(1): 1–6.

大林隆司 (2021) オガサワラリクヒモムシが父島でカマドコオロギを捕食. 小笠原研究年報. (44): 51–53.

Schwindt, E., Iribarne, O. O., & Isla, F. I. (2004) Physical effects of an invading reef–building polychaete on an Argentinean estuarine environment. Estuarine, Coastal and Shelf Science, 59(1): 109–120.

Shinobe, S., Uchida, S., Mori, H., Okochi, I., & Chiba, S. (2017) Declining soil Crustacea in a World Heritage Site caused by land nemertean. Scientific Reports, 7(1): 12400.

SHOJI, K. & KARUBE, H. (2023). Predation by terrestrial flatworm platydemus sp.(Tricladida: Continenticola: Geoplanidae: Rhynchodeminae) on an adult of *Rhinocypha ogasawarensis* (Odonata: Zygoptera: Chlorocyphidae). Tombo: Acta odonatologica Japonica, 66: 60–62.

Sluys, R., Kawakatsu, M., & Yamamoto, K. (2010). Exotic freshwater planarians currently known from Japan. Belgian Journal of Zoology, 140(Suppl.), 103–109.

Sugiura, S., Okochi, I., & Tamada, H. (2006). High predation pressure by an introduced flatworm on land snails on the oceanic Ogasawara Islands 1. Biotropica, 38(5), 700–703.

YOSHINO, H. (2024) Current distribution and field observations of the invasive land nemertean, *Geonemertes* sp., and some isopods in the Bonin (Ogasawara) Islands. 小笠原研究, (51): 45–56.

【分類の並びを準拠した文献】

掲載されている階級はBrusca et al. 2023: “Invertebrates 4th ed.”に準拠し、掲載されていない階級は、現行リストやその他文献を参考に整理